

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

# 基礎資料

2019年5月1日現在

福山大学薬学部



薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料1	カリキュラム・ツリー	1
基礎資料2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目	15
基礎資料3	学生の修学状況	93
	3-1 評価実施年度における学年別在籍状況	95
	3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況	97
	3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態	99
3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向		
基礎資料4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	101
基礎資料5	教員・職員の数	103
基礎資料6	専任教員の年齢構成・男女構成	105
基礎資料7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	107
基礎資料8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	117
基礎資料9	専任教員の教育および研究活動の業績	119
基礎資料10	学生の健康管理	169
基礎資料11	薬学科の教育に使用する施設の状況	171
	11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	173
基礎資料12	学生閲覧室等の規模	175
基礎資料13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	177

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。



# 基礎資料1



(基礎資料1) カリキュラム・ツリー

[注]資質・能力を卒業時に身につけるための、体系性と科目の順次性（学年・学期進行による学習順序）がわかるような図を示してください。

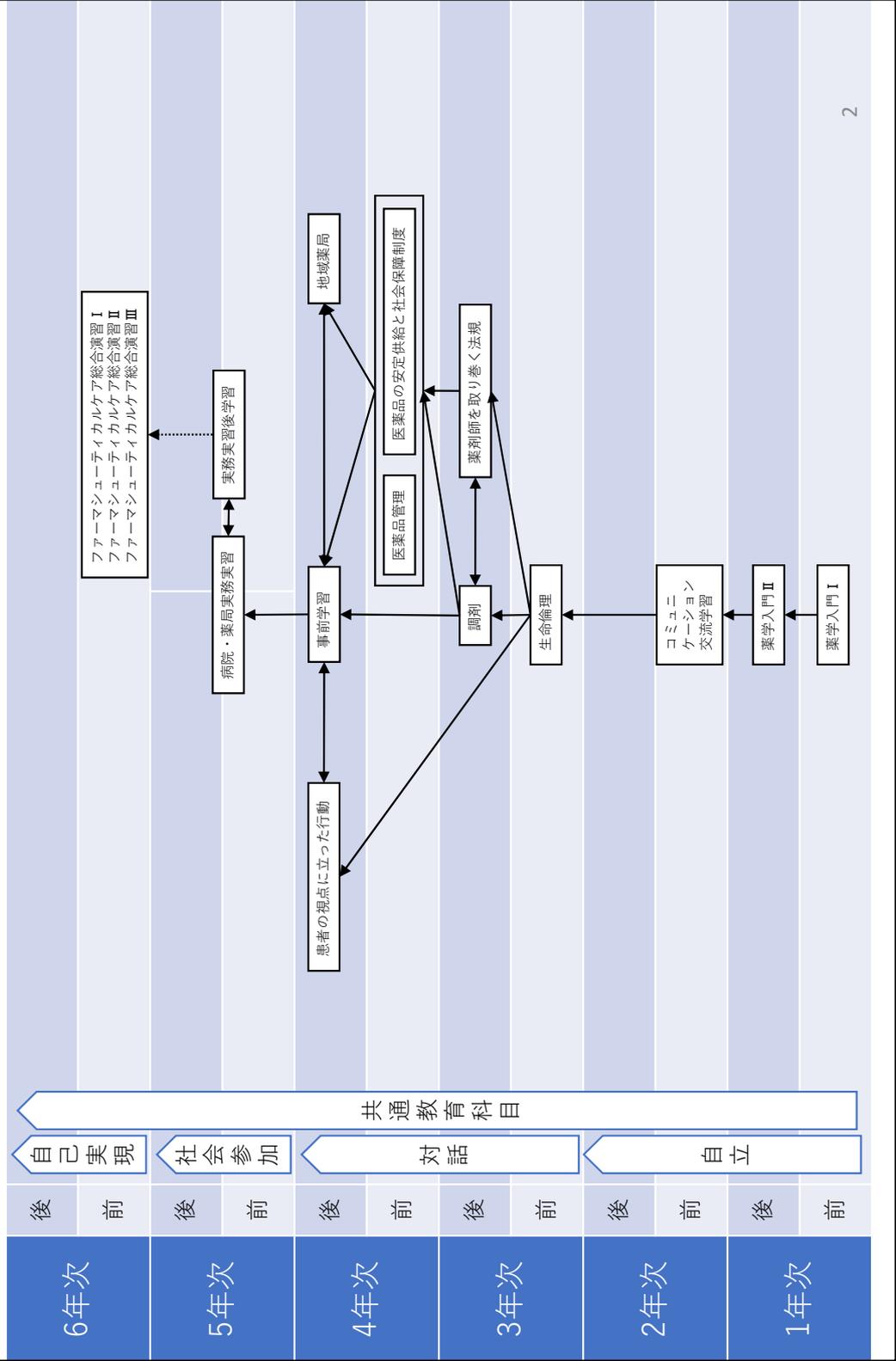
# 福山大学薬学部

## 履修系統図

(カリキュラムツリー)

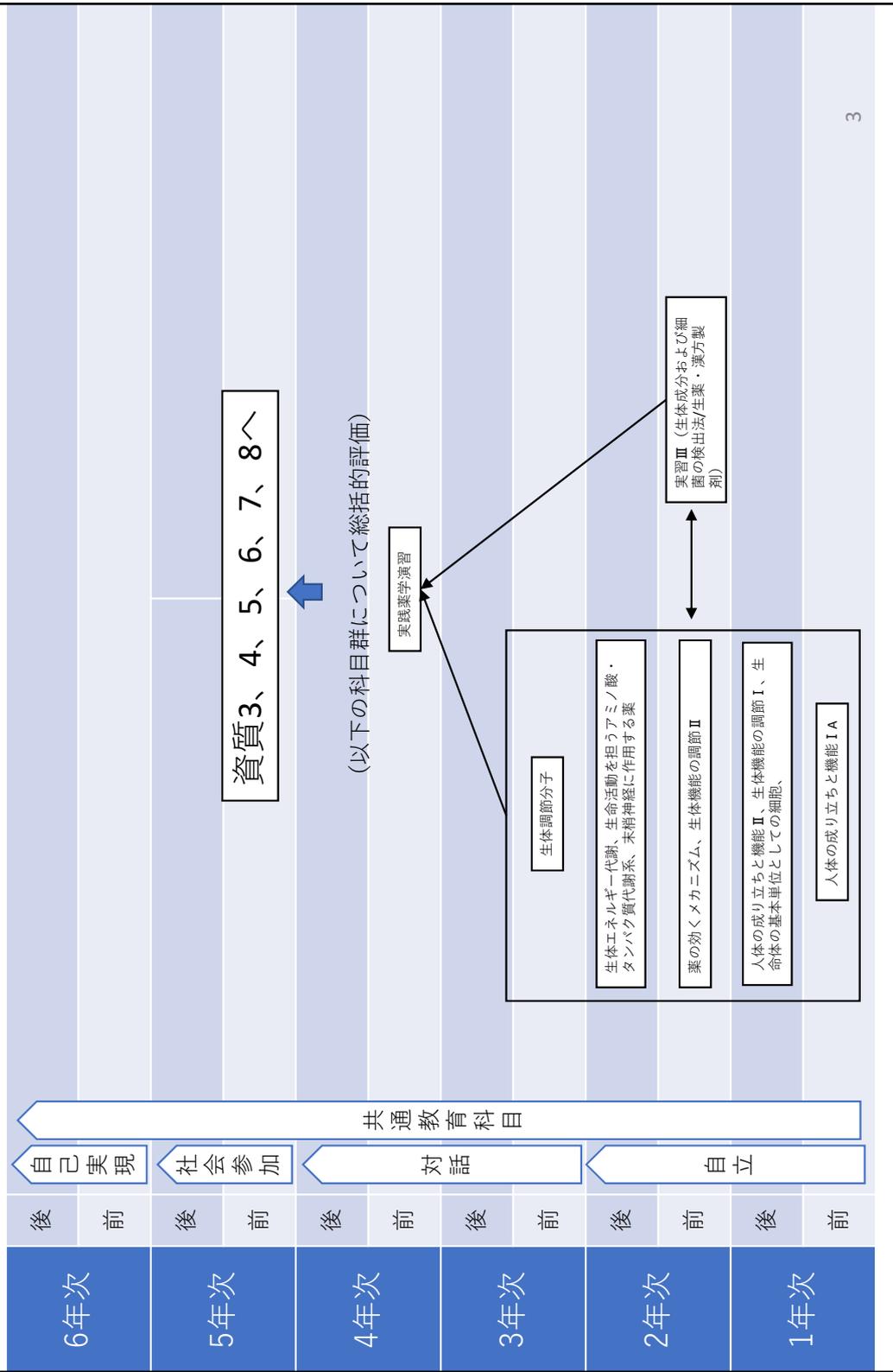
平成31（2019）年4月1日現在

**資質1**：臨床で活躍するための薬剤師としての心構え  
 豊かな人間性に基づいた患者・生活者本位の視点と生命の尊厳に配慮する医療人の視点を備え、ホスピタリティーを持って患者・生活者と接するとともに薬剤師としての使命感、責任感及び倫理観に基づいて行動できる能力を身につけている。



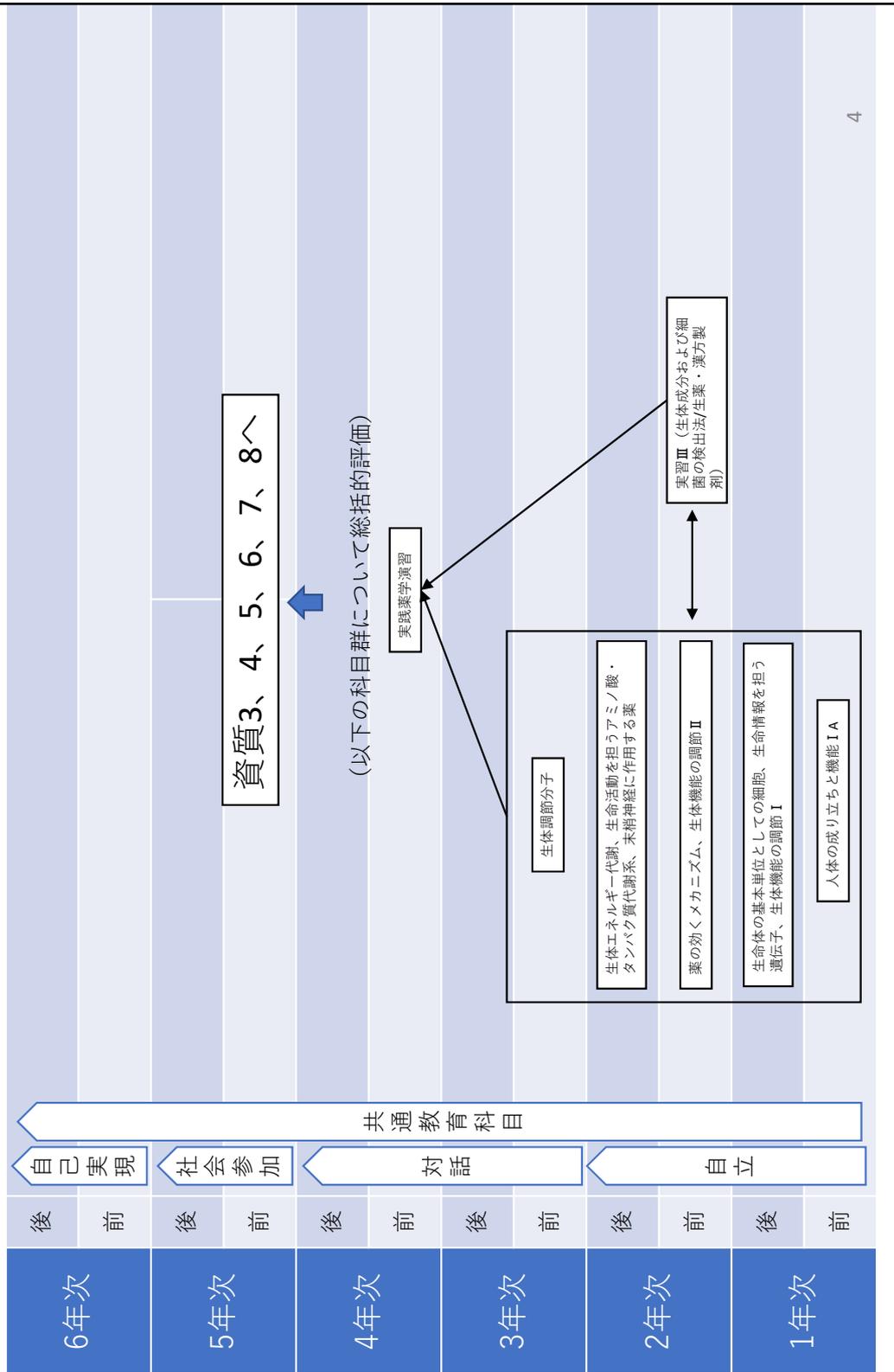
## 資質2：医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

中項目5：生命の連続性(恒常性)と人体の成り立ちを理解している。



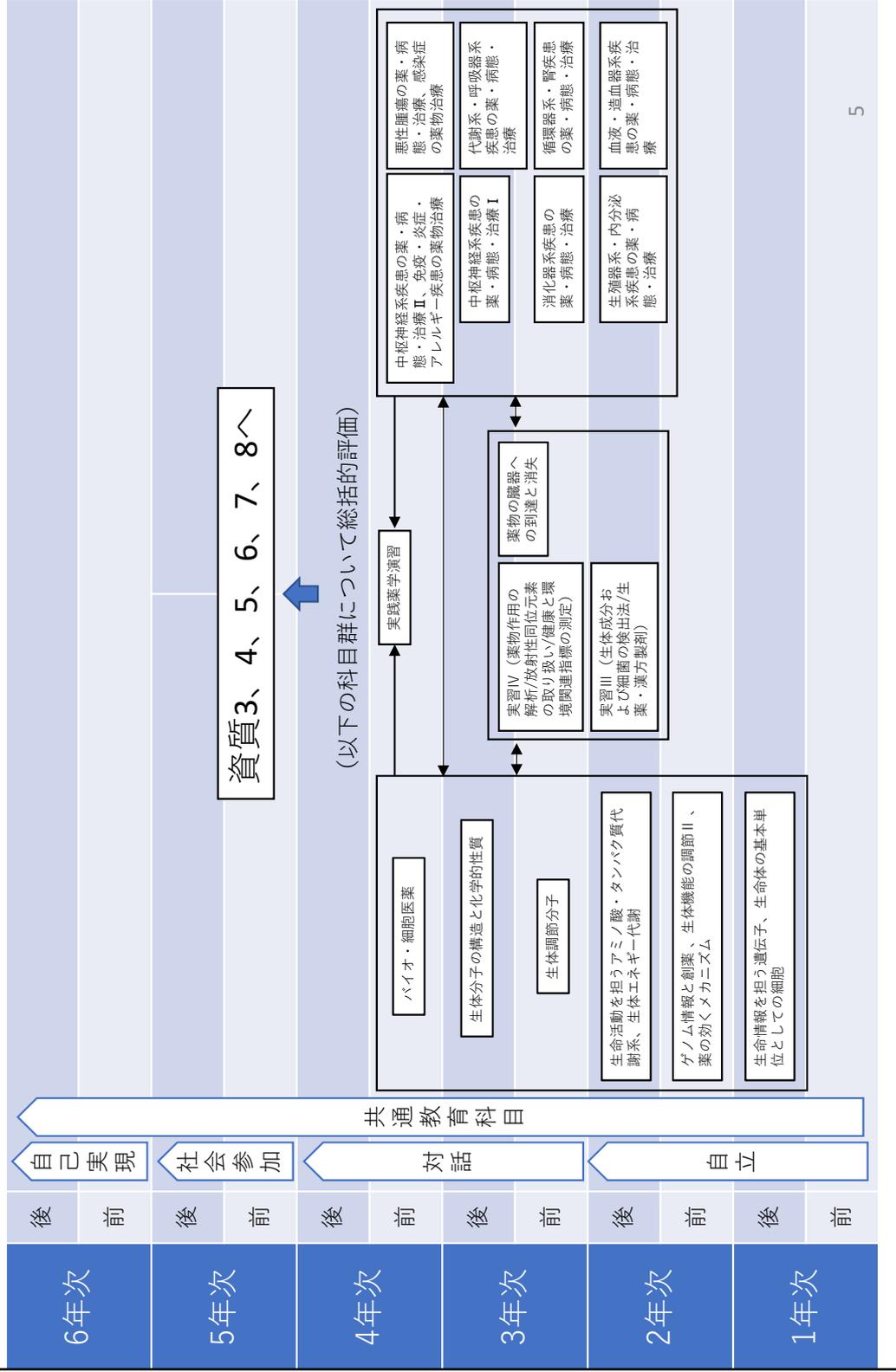
## 資質2：医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

中項目6：生命活動を支える物質と生体内化学反応を理解している。



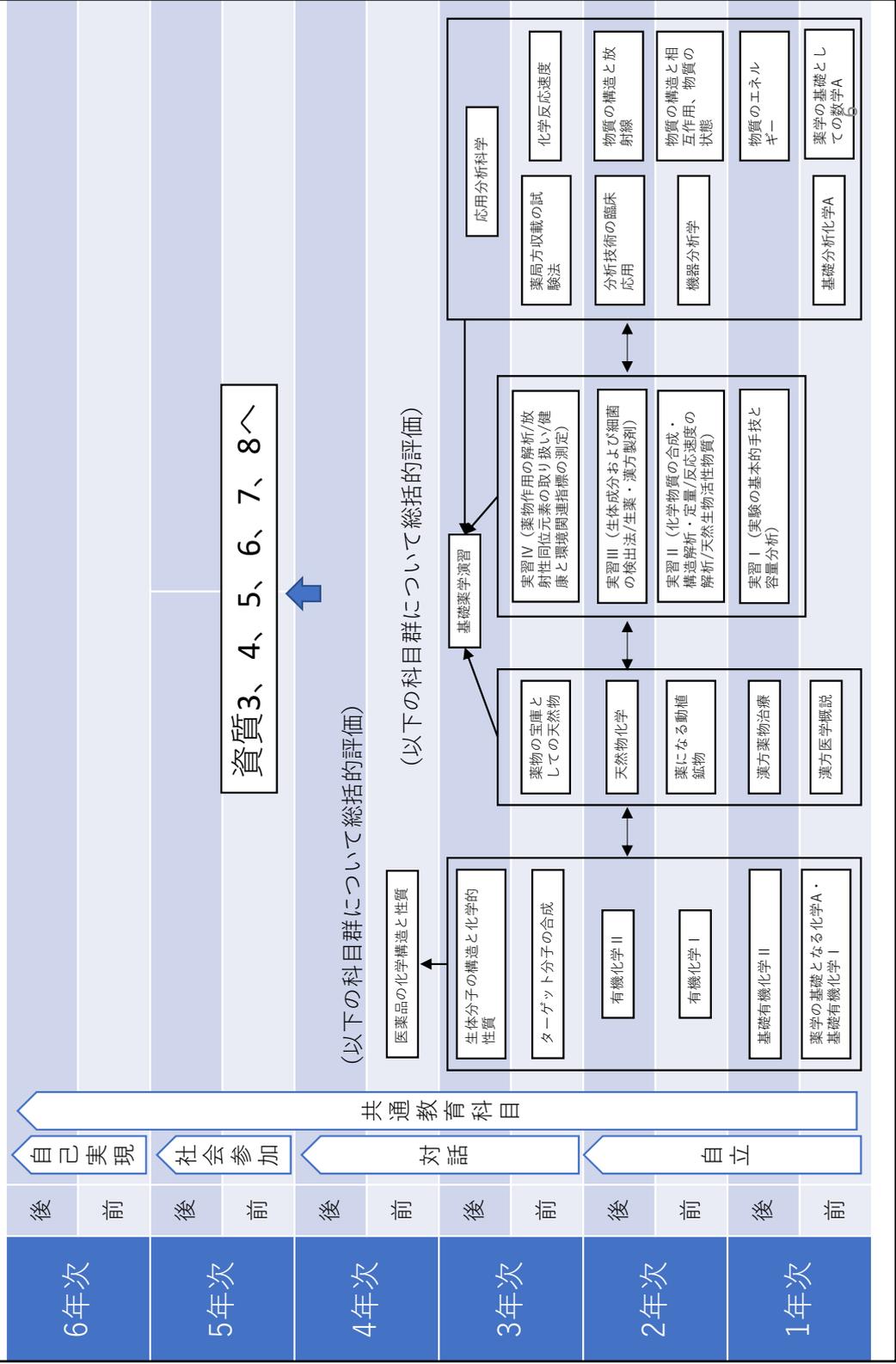
## 資質2：医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

中項目7：医薬品の作用を生体との反応に基づいて理解している。



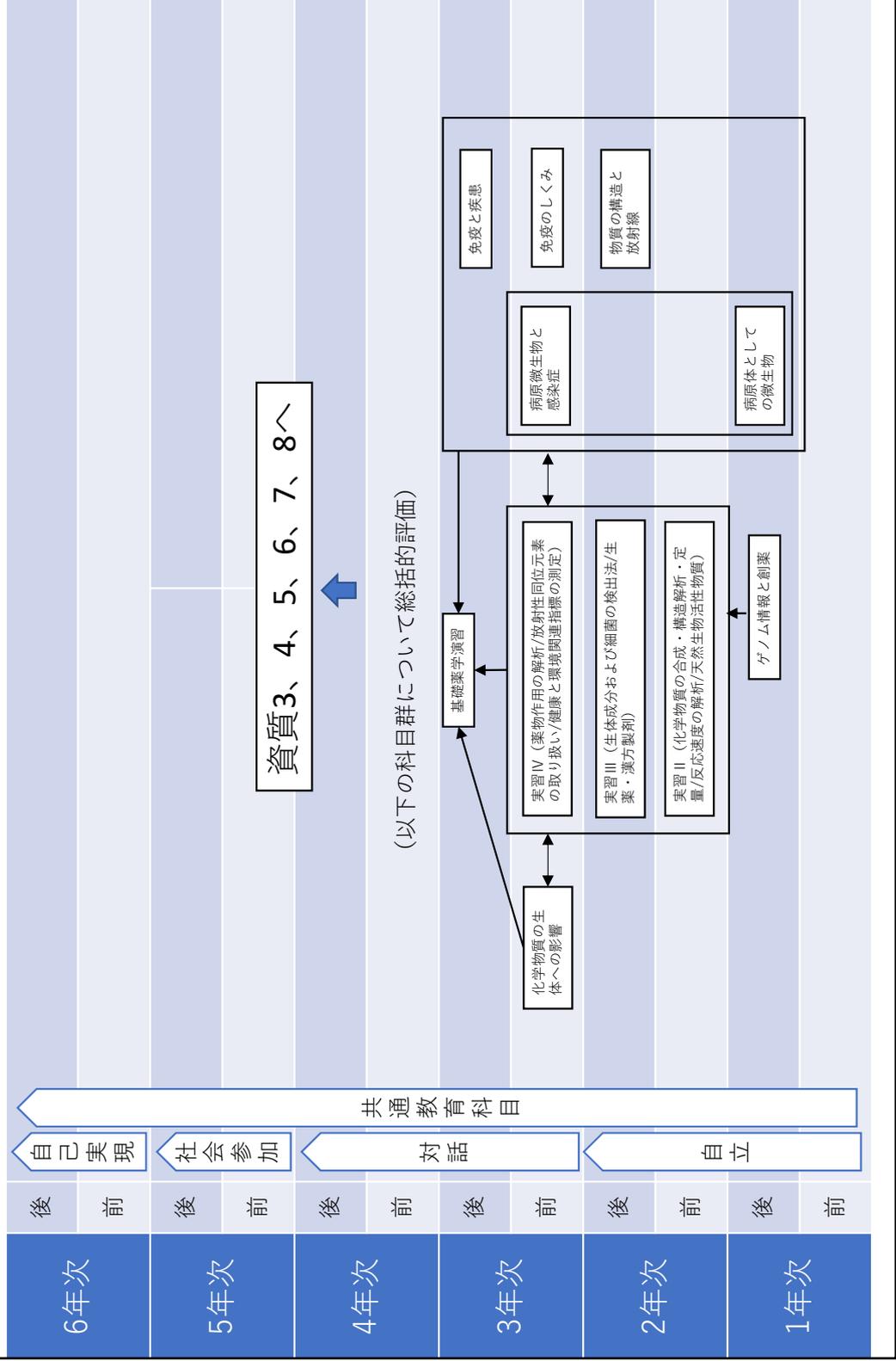
## 資質2：医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

中項目8：生体及び環境に作用する医薬品・化学物質の構造と性質を理解している。



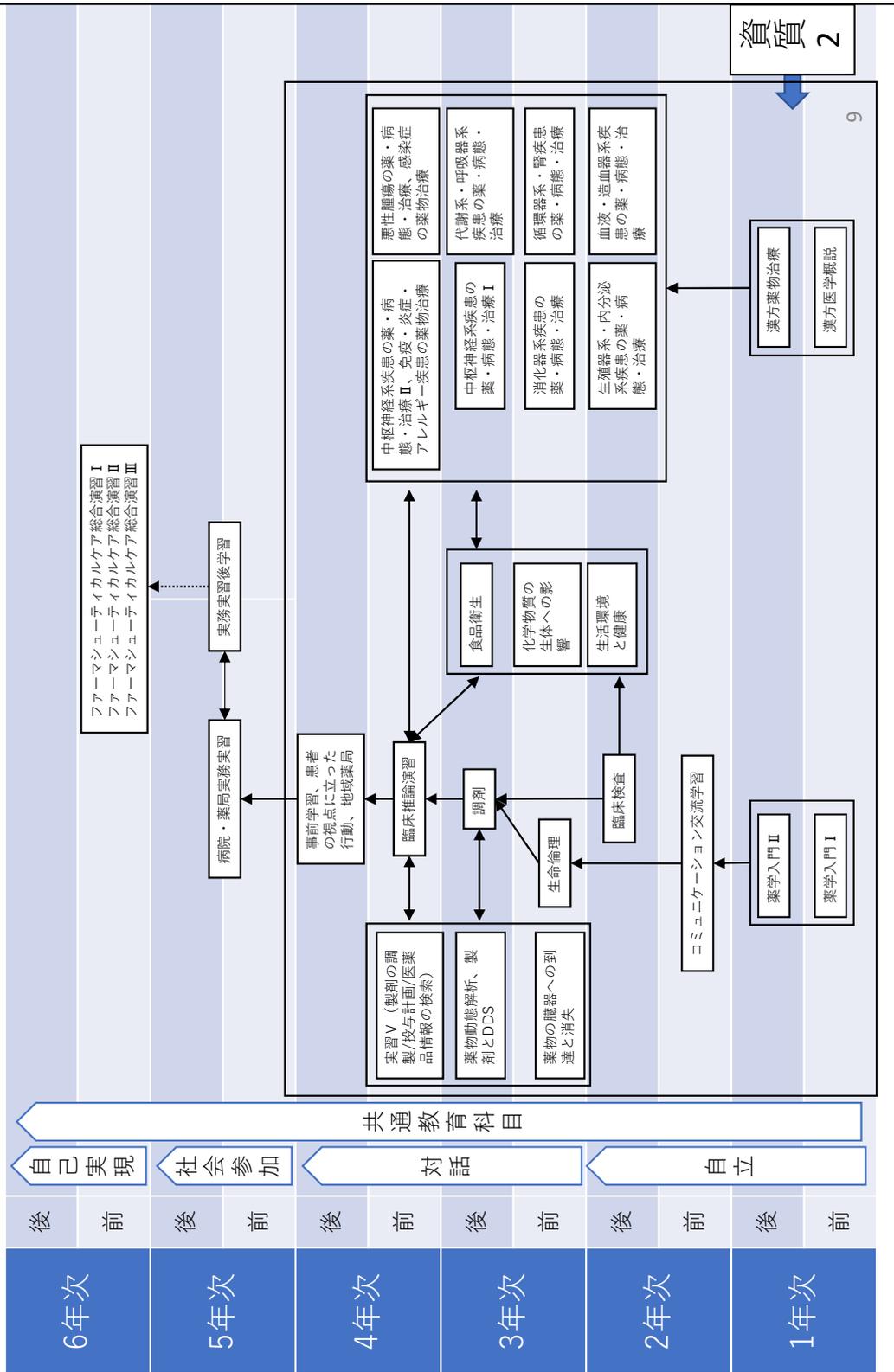
## 資質2：医薬品・化学物質等が生体及び環境に及ぼす影響を理解するための科学力

中項目9：生体及び環境に影響を及ぼす化学物質や微生物を理解している。

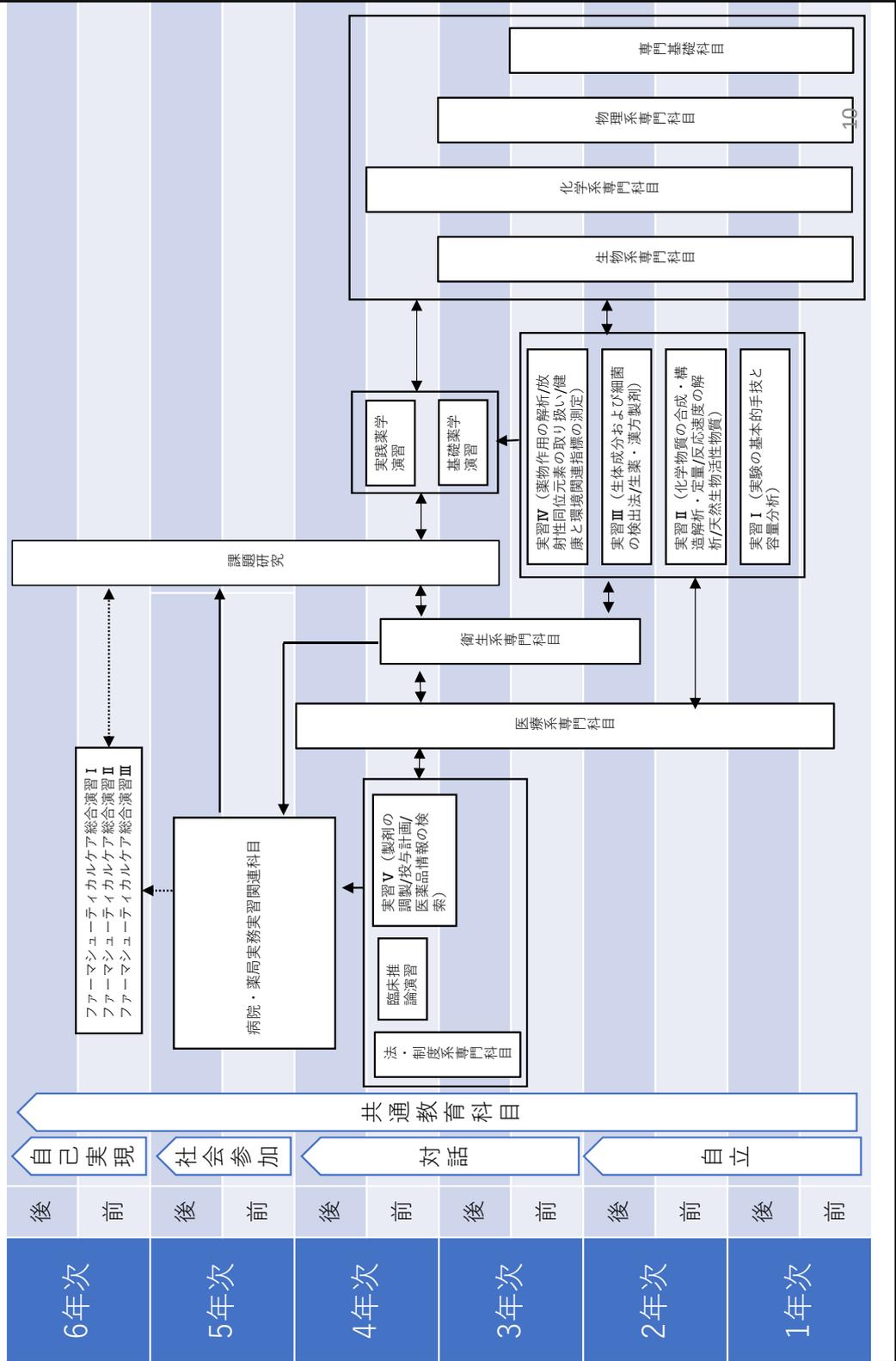




**資質4：チーム医療の中で最適・安全な薬物療法を提供するための実践的能力**  
 薬物療法で主体的な役割を果たすために、他職種と連携して患者情報を収集し、薬物療法における効果と副作用を評価するとともに処方設計の提案を実践する能力を有する。

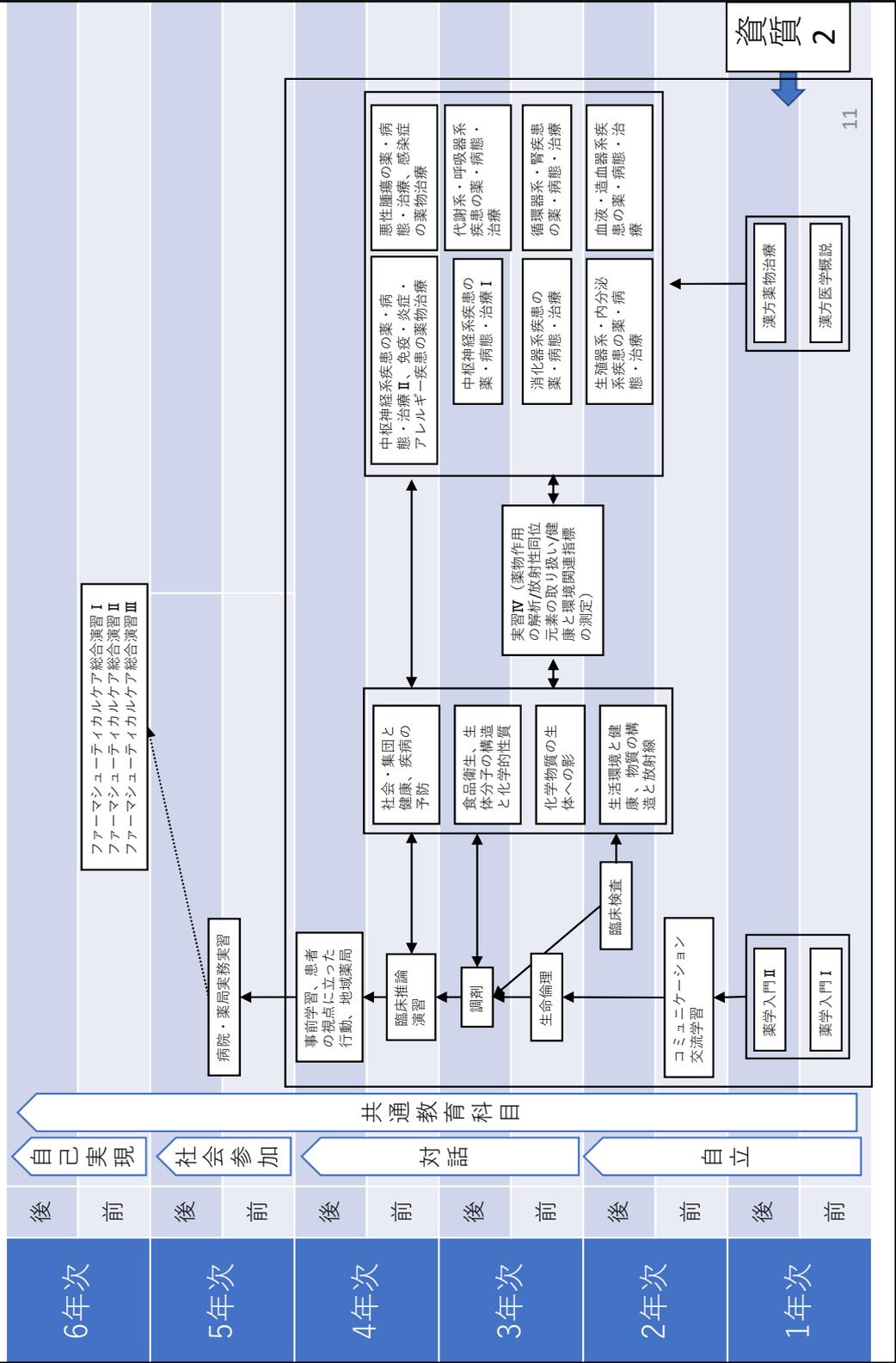


**資質5：医療の進歩と改善に寄与するための研究能力**  
 科学的な知識に基づいた論理的思考による問題発見能力と問題解決のための基礎的な実験・研究能力を身につけている。



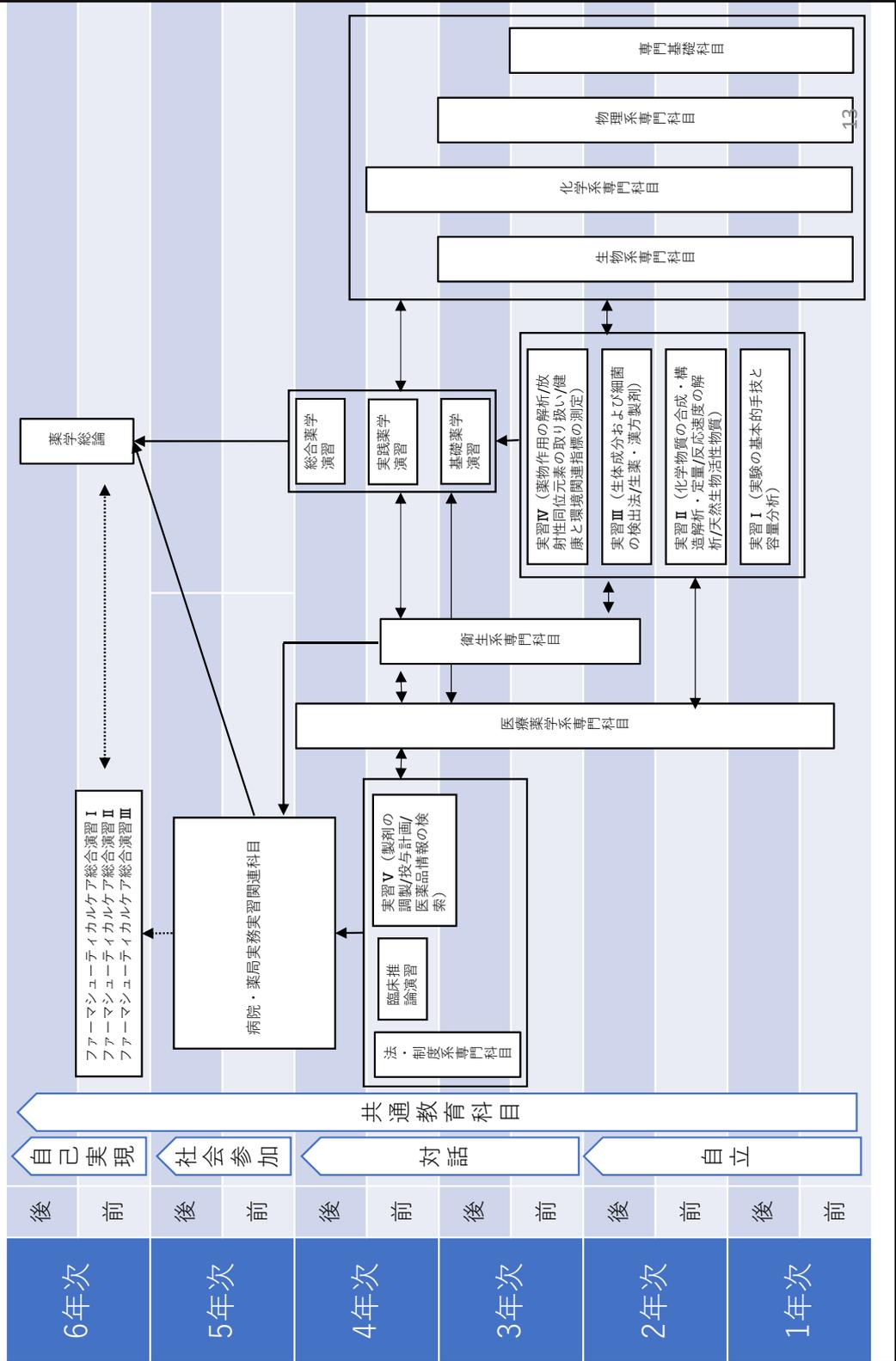
### 資質6：地域住民の健康を守るための実践的能力

地域の医療、保健・福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域医療の推進及び人々の健康・公衆衛生の向上に貢献する能力を身につけている。





資質8：薬剤師に求められる総合的な知識  
 薬剤師になるために必要な総合的な知識を有している。





# 基礎資料2



SBO		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
A 基本事項							
(1) 薬剤師の使命							
【⑩医療人として】							
1	常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習	生命倫理	臨床推論演習 事前学習 患者の視点に立った 行動	病院・薬局実務実習 実務実習後学習	PC総合演習⑤
2	患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	臨床推論演習 事前学習 患者の視点に立った 行動	病院・薬局実務実習 実務実習後学習	PC総合演習⑤, ⑬
3	チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	疾病の予防 臨床推論演習 事前学習	病院・薬局実務実習 実務実習後学習	PC総合演習⑤, ⑬
4	患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	漢方医学概説(選)		生命倫理	臨床推論演習 事前学習 患者の視点に立った 行動		PC総合演習⑤
5	生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)			生命倫理			PC総合演習⑨
6	一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)		コミュニケーション 交流学習	生命倫理			
7	様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)		コミュニケーション 交流学習	生命倫理	臨床推論演習 事前学習 患者の視点に立った 行動		PC総合演習⑬
【⑪薬剤師が果たすべき役割】							
8	1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	地域薬局	病院・薬局実務実習	PC総合演習⑤
9	2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	疾病の予防 総合薬学演習 地域薬局		PC総合演習⑬
10	3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ 漢方医学概説(選)		生命倫理 調剤	地域薬局 総合薬学演習		PC総合演習⑤, ⑬
11	4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。	薬学入門Ⅰ 漢方医学概説(選)	薬の効くメカニズム		総合薬学演習 統計解析と臨床研究		
12	5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門Ⅱ		薬剤師を取り巻く法 規(選)	総合薬学演習		
13	6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ 漢方医学概説(選)		食品衛生(選)	疾病の予防 総合薬学演習 地域薬局		PC総合演習⑤, ⑬
14	7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		化学物質の生体への 影響	疾病の予防 総合薬学演習		
15	8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)			生命倫理 実習Ⅳ	社会・集団と健康	病院・薬局実務実習 実務実習後学習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【③患者安全と薬害の防止】</b>							
16	1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	薬学入門Ⅰ		生命倫理	臨床推論演習 事前学習	病院・薬局実務実習	PC総合演習⑤
17	2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。			生命倫理	総合薬学演習		
18	3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	漢方医学概説(選)			医薬品管理 地域薬局 総合薬学演習		PC総合演習⑤
19	4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	漢方医学概説(選)		調剤	地域薬局 総合薬学演習		
20	5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			生命倫理	医薬品管理		PCare2020 プログラムB
21	6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。			生命倫理	総合薬学演習		
22	7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			生命倫理			PCare2020 プログラムB
<b>【④薬学の歴史と未来】</b>							
23	1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学入門Ⅱ 漢方医学概説	薬になる動植物	薬局方収載の試験法 (選)	総合薬学演習		
24	2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学入門Ⅱ 漢方医学概説	薬になる動植物		総合薬学演習		
25	3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学入門Ⅱ 漢方医学概説			総合薬学演習		
26	4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	漢方医学概説 漢方薬物治療		生命倫理		病院・薬局実務実習 実務実習後学習	
<b>(2) 薬剤師に求められる倫理観</b>							
<b>【①生命倫理】</b>							
27	1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)			生命倫理			
28	2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。			生命倫理	総合薬学演習		
29	3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)			生命倫理			PC総合演習⑬
30	4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。			生命倫理	総合薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>【②医療倫理】</b>						
31	1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。			生命倫理	総合薬学演習	
32	2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。			生命倫理 調剤	総合薬学演習	
33	3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	総合薬学演習	
<b>【③患者の権利】</b>						
34	1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	患者の視点に立った行動	病院・薬局実務実習 PC総合演習⑤、⑩
35	2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。			生命倫理	総合薬学演習	
36	3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。			生命倫理	事前学習 総合薬学演習	
37	4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理	患者の視点に立った行動	病院・薬局実務実習
<b>【④研究倫理】</b>						
38	1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。			生命倫理	総合薬学演習	
39	2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。		ゲノム情報と創薬	生命倫理	総合薬学演習	
40	3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）			課題研究	課題研究	課題研究
<b>(3) 信頼関係の構築</b>						
<b>【①コミュニケーション】</b>						
41	1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った行動 総合薬学演習	PCare プログラム17
42	2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った行動 総合薬学演習	PCare プログラム17
43	3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った行動 総合薬学演習	PCare プログラム17
44	4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った行動 総合薬学演習	PCare プログラム17
45	5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った行動	病院・薬局実務実習 実務実習後学習 PCare プログラム17
46	6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度）	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った行動	病院・薬局実務実習 実務実習後学習 PCare プログラム17

		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
47	7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った 行動	病院・薬局実務実習 実務実習後学習	PCare プログラム 17,13
48	8) 適切な手袋により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習		患者の視点に立った 行動	病院・薬局実務実習 実務実習後学習	PCare プログラム 17,13
49	9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習	生命倫理 課題研究	患者の視点に立った 行動 臨床推論演習 事前学習 課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究 PC総合演習⑤ PCare プログラム 17
<b>【②患者・生活者と薬剤師】</b>							
50	1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。			生命倫理	患者の視点に立った 行動		PCare プログラム17
51	2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)		コミュニケーション 交流学習	生命倫理	患者の視点に立った 行動 臨床推論演習 事前学習	病院・薬局実務実習	PCare プログラム 17, 13
<b>(4) 多職種連携協働とチーム医療</b>							
52	1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理 調剤	地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習		PC総合演習⑩
53	2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理 調剤	地域薬局 総合薬学演習		PC総合演習⑩
54	3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		生命倫理 調剤	疾病の予防 総合薬学演習		PC総合演習⑩
55	4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習	課題研究	課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
56	5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		課題研究	地域薬局 臨床推論演習 事前学習 課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
<b>(6) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成</b>							
<b>【①学習の在り方】</b>							
57	1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)			実習Ⅳ 課題研究	課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
58	2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		課題研究	臨床推論演習 事前学習 実習Ⅴ 課題研究	薬学英語演習 病院・薬局実務実習 課題研究	薬学英語演習 課題研究

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
59	3) 必要な情報を的確に収集し、信頼性について判断できる。(知識・技能)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	課題研究	臨床推論演習 事前学習 実習Ⅴ 課題研究	病院・薬局実務実習 実務実習後学習 課題研究	課題研究 PC総合演習⑤
60	4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ 生体機能の調節Ⅰ (選)	生命倫理 実習Ⅳ 基礎薬学演習 課題研究	臨床推論演習 事前学習 実習Ⅴ 課題研究	病院・薬局実務実習 実務実習後学習 課題研究	薬学英語演習 課題研究 PC総合演習⑤
61	5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報処理基礎(共通基 礎科目)	課題研究	臨床推論演習 事前学習 課題研究	病院・薬局実務実習 実務実習後学習 課題研究	課題研究
<b>【②薬学教育の概要】</b>						
62	1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門Ⅱ 漢方医学概説(選)	基礎薬学演習 課題研究	実践薬学演習 臨床推論演習 事前学習 課題研究	病院・薬局実務実習 実務実習後学習 課題研究	課題研究
63	2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門Ⅱ	生命倫理 課題研究	臨床推論演習 事前学習 課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
<b>【③生涯学習】</b>						
64	1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	課題研究	事前学習 課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
65	2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)		課題研究	臨床推論演習 事前学習 実習Ⅴ 課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
<b>【④次世代を担う人材の育成】</b>						
66	1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		課題研究	病院・薬局実務実習 課題研究	課題研究
67	2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)			課題研究	課題研究	課題研究
<b>B 薬学と社会</b>						
<b>(1) 人と社会に関わる薬剤師</b>						
68	1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。	薬学入門Ⅱ	コミュニケーション 交流学習	生命倫理	患者の視点に立った 行動 総合薬学演習	
69	2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)	薬学入門Ⅰ	生命倫理	生命倫理		
70	3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ		事前学習		
71	4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	生命倫理	生命倫理		
72	5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)	薬学入門Ⅰ 薬学入門Ⅱ	生命倫理	生命倫理	病院・薬局実務実習	

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範</b>						
<b>【①薬剤師の社会的役割と責任に係る法規範】</b>						
73	1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II		薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
74	2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II		薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
75	3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II		薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
76	4) 薬剤師以外の医療職種の仕事に関する法令の規定について概説できる。			薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
77	5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
78	6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
79	7) 個人情報取扱法について概説できる。	薬学入門 I 薬学入門 II	コミュニケーション 交流学習	調剤 薬剤師を取り巻く法 規 (選)	患者の視点に立った 行動 総合薬学演習	
80	8) 薬剤師の刑事責任、民事責任 (製造物責任を含む) について概説できる。			薬剤師を取り巻く法 規 (選)	総合薬学演習	
<b>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】</b>						
81	1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等 (医薬品 (薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品) の定義について説明できる。	漢方医学概説 (選)		薬剤師を取り巻く法 規 (選)	医薬品の安定供給と 社会保障制度 総合薬学演習	
82	2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。	漢方医学概説 (選)		薬剤師を取り巻く法 規 (選)	医薬品の安定供給と 社会保障制度 総合薬学演習	
83	3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。			薬剤師を取り巻く法 規 (選)	医薬品の安定供給と 社会保障制度 総合薬学演習	PCare プログラム4
84	4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規 (選)	医薬品の安定供給と 社会保障制度 総合薬学演習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
85	5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規(選)	医薬品管理 総合薬学演習		
86	6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規(選)	医薬品管理 総合薬学演習		
87	7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規(選)	総合薬学演習		
88	8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。	実習 I	実習 II	薬剤師を取り巻く法 規(選) 薬局方収載の試験法 (選)	総合薬学演習		
89	9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。			医薬品管理	医薬品管理 総合薬学演習		
90	10) 健康被害救済制度について説明できる。			医薬品管理	医薬品管理 総合薬学演習		
91	11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。			薬剤師を取り巻く法 規(選)	総合薬学演習		
<b>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】</b>							
92	1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II	薬になる動植物	化学物質の生体への 影響	医薬品管理 総合薬学演習		
93	2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。		薬になる動植物	化学物質の生体への 影響	医薬品管理 総合薬学演習		
94	3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。	薬学入門 I 薬学入門 II			医薬品管理 総合薬学演習		
<b>【④社会保険制度と医療経済】</b>							
<b>【①医療、福祉、介護の制度】</b>							
95	1) 日本の社会保険制度の枠組みと特徴について説明できる。				医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習		
96	2) 医療保険制度について説明できる。	薬学入門 I			医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習		
97	3) 療養担当規則について説明できる。				医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習		
98	4) 公費負担医療制度について概説できる。				医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習		
99	5) 介護保険制度について概説できる。				医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
100	6) 薬価基準制度について概説できる。				医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習	
101	7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				地域薬局 医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習	
<b>【②医薬品と医療の経済性】</b>						
102	1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。	薬学入門 I 薬学入門 II			医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習	
103	2) 国民医療費の動向について概説できる。	薬学入門 II			医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習	
104	3) 後発医薬品とその役割について説明できる。	薬学入門 I			地域薬局 医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習	
105	4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				医薬品の安定供給と 社会保険制度 総合薬学演習	
<b>(4) 地域における薬局と薬剤師</b>						
<b>【①地域における薬局の役割】</b>						
106	1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II 漢方医学概説 (選)		調剤	地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習	PC総合演習⑬ PCare プログラム3
107	2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II 漢方医学概説 (選)			地域薬局 総合薬学演習	PCare プログラム3
108	3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	漢方医学概説 (選)		調剤	地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習	PC総合演習⑬
109	4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II		食品衛生 (選)	疾病の予防 医薬品管理 総合薬学演習	
110	5) 災害時の薬局の役割について説明できる。	薬学入門 I 薬学入門 II			地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
111	6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	漢方医学概説 (選)			地域薬局 総合薬学演習	
<b>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>						
112	1) 地域包括ケアの理念について説明できる。			調剤	地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習	PC総合演習⑬

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
113	2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 I				地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習	5年	6年	PC総合演習⑬
114	3) 学校薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 I		薬剤師を取り巻く法 規 (選)		地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習			
115	4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。					地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習			PC総合演習⑬
116	5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。 (知識・態度)					地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習			
<b>C 薬学基礎</b>									
<b>C1 物質の物理的性質</b>									
<b>(1) 物質の構造</b>									
<b>【①化学結合】</b>									
117	1) 化学結合の様式について説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
118	2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。		物質の構造と放射線 物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
119	3) 共役や共鳴の概念を説明できる。		物質の構造と放射線 物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
<b>【②分子間相互作用】</b>									
120	1) ファンデルワールス力について説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
121	2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
122	3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
123	4) 分散力について例を挙げて説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
124	5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		物質の構造と放射線 物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
125	6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
126	7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			
<b>【③原子・分子の挙動】</b>									
127	1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)			総合薬学演習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
128	2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)		総合薬学演習		
129	3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)		総合薬学演習		
130	4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)		総合薬学演習		
131	5) 光の散乱および干渉について説明できる。		物質の構造と相互作用 (選)		総合薬学演習		
132	6) 結晶構造と回折現象について概説できる。		物質の構造と相互作用 (選)		総合薬学演習		
<b>【④放射線と放射能】</b>							
133	1) 原子の構造と放射線について説明できる。		物質の構造と放射線	実習IV	総合薬学演習		
134	2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		物質の構造と放射線	実習IV	総合薬学演習		
135	3) 代表的な放射線核種の物理的性質について説明できる。		物質の構造と放射線	実習IV	総合薬学演習		
136	4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物質の構造と放射線	実習IV	総合薬学演習		
137	5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。		物質の構造と放射線	実習IV	総合薬学演習		
<b>(2) 物質のエネルギーと平衡</b>							
<b>【①気体の微視的状態と巨視的状態】</b>							
138	1) ファントムモデルの状態方程式について説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
139	2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
140	3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
<b>【②エネルギー】</b>							
141	1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
142	2) 熱力学第一法則を説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
143	3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
144	4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
145	5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
146	6) エンタルピーについて説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		
147	7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物質のエネルギー (選)	物質の状態		総合薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>【③自発的な変化】</b>						
148	1) エントロピーについて説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
149	2) 熱力学第二法則について説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
150	3) 熱力学第三法則について説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
151	4) ギブズエネルギーについて説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
152	5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
<b>【④化学平衡の原理】</b>						
153	1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
154	2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
155	3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
156	4) 共役反応の原理について説明できる。	物質のエネルギー(選)	物質の状態		総合薬学演習	
<b>【⑤相平衡】</b>						
157	1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
158	2) 相平衡と相律について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
159	3) 状態図について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
<b>【⑥溶液の性質】</b>						
160	1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
161	2) 活量と活量係数について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
162	3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
163	4) イオン強度について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
<b>【⑦電気化学】</b>						
164	1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
165	2) 電極電位(酸化還元電位)について説明できる。		物質の状態		総合薬学演習	
<b>(3) 物質の変化</b>						
<b>【⑧反応速度】</b>						
166	1) 反応次数と速度定数について説明できる。	実習 II	化学反応速度		総合薬学演習	
167	2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	実習 II	化学反応速度		総合薬学演習	
168	3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	実習 II	化学反応速度		総合薬学演習	
169	4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	実習 II				
170	5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		化学反応速度		総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
171	6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		実習 II	化学反応速度	総合薬学演習	
172	7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。		実習 II	化学反応速度	総合薬学演習	
	<b>C2 化学物質の分析</b>					
	<b>(1) 分析の基礎</b>					
	<b>【①分析の基本】</b>					
173	1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	実習 I	実習 II		総合薬学演習	
174	2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	実習 I	実習 II		総合薬学演習	
175	3) 分析法のバリデーションについて説明できる。		実習 II	薬局方収載の試験法 (選)	総合薬学演習	
	<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>					
	<b>【①酸・塩基平衡】</b>					
176	1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
177	2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	基礎分析化学A/B 実習 I			総合薬学演習	
178	3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	実習 I	実習 II			
179	4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	基礎分析化学A/B	実習 II		総合薬学演習	
	<b>【②各種の化学平衡】</b>					
180	1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
181	2) 沈殿平衡について説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
182	3) 酸化還元平衡について説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
183	4) 分配平衡について説明できる。	基礎分析化学A/B		応用分析科学 (選)	総合薬学演習	
	<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>					
	<b>【①定性分析】</b>					
184	1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
185	2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	基礎分析化学A/B	実習 II	薬局方収載の試験法 (選)	総合薬学演習	
	<b>【②定量分析 (容量分析・重量分析)】</b>					
186	1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎分析化学A/B 実習 I			総合薬学演習	
187	2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
188	3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
189	4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎分析化学A/B			総合薬学演習	
190	5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	実習 I			総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
191	6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	基礎分析化学A/B		薬局方収載の試験法 (選)		総合薬学演習	
192	7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	基礎分析化学A/B		薬局方収載の試験法 (選)		総合薬学演習	
	<b>(4) 機器を用いる分析法</b>						
	<b>【①分光分析法】</b>						
193	1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		実習Ⅱ 機器分析学			総合薬学演習	
194	2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学			総合薬学演習	
195	3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学	薬局方収載の試験法 (選)		総合薬学演習	
196	4) 原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学			総合薬学演習	
197	5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		機器分析学			総合薬学演習	
198	6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		実習Ⅱ				
	<b>【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】</b>						
199	1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学			総合薬学演習	
	<b>【③質量分析法】</b>						
200	1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学			総合薬学演習	
	<b>【④X線分析法】</b>						
201	1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		機器分析学			総合薬学演習	
202	2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		機器分析学			総合薬学演習	
	<b>【⑤熱分析】</b>						
203	1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		機器分析学	薬局方収載の試験法 (選)		総合薬学演習	
204	2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		機器分析学	薬局方収載の試験法 (選)		総合薬学演習	
	<b>(6) 分離分析法</b>						
	<b>【①クロマトグラフィー】</b>						
205	1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		分析技術の臨床応用			総合薬学演習	
206	2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析技術の臨床応用			総合薬学演習	
207	3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		実習Ⅱ 分析技術の臨床応用			総合薬学演習	
208	4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析技術の臨床応用			総合薬学演習	
209	5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		実習Ⅱ				

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
		<b>【②電気泳動法】</b>					
210	1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		分析技術の臨床応用 ゲノム情報と創薬				総合薬学演習
		<b>(6) 臨床現場で用いる分析技術</b>					
		<b>【①分析の準備】</b>					
211	1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析技術の臨床応用				総合薬学演習
212	2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析技術の臨床応用				総合薬学演習
		<b>【②分析技術】</b>					
213	1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析技術の臨床応用	免疫と疾患			総合薬学演習 免疫と疾患
214	2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		分析技術の臨床応用	免疫と疾患 免疫のしくみ			総合薬学演習 免疫と疾患
215	3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		分析技術の臨床応用	免疫のしくみ			総合薬学演習
216	4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		分析技術の臨床応用				総合薬学演習
217	5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		分析技術の臨床応用				総合薬学演習
		<b>C8 化学物質の性質と反応</b>					
		<b>(1) 化学物質の基本的性質</b>					
		<b>【①基本事項】</b>					
218	1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎有機化学 I (選)					総合薬学演習
219	2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学 I (選)					総合薬学演習
220	3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	薬学の基礎となる化学 A/B					
221	4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	薬学の基礎となる化学 A/B					総合薬学演習
222	5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	薬学の基礎となる化学 A/B					総合薬学演習
223	6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	基礎有機化学 II (選)	有機化学 I (選) 有機化学 II (選)				総合薬学演習
224	7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。	薬学の基礎となる化学 A/B 基礎有機化学 II (選)	有機化学 I (選) 有機化学 II (選)				総合薬学演習

平成25年度改訂版・薬学教育モジュール・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
225	8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	薬学の基礎となる化学 A/B 基礎有機化学II (選)	有機化学 I (選)		総合薬学演習		
226	9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	薬学の基礎となる化学 A/B	有機化学 I (選)				
<b>【②有機化合物の立体構造】</b>							
227	1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		
228	2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	基礎有機化学 I (選)		生体分子の構造と化 学的性質	総合薬学演習		
229	3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	基礎有機化学 I (選)		生体分子の構造と化 学的性質	総合薬学演習		
230	4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		
231	5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		
232	6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E,Z 異性) について説明できる。	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		
233	7) フィッシュャー投影式とニュウマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	基礎有機化学 I (選)					
234	8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		
<b>【②有機化合物の基本骨格の構造と反応】</b>							
<b>【①アルカン】</b>							
235	1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		
236	2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎有機化学 I (選)					
237	3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	基礎有機化学 I (選)			総合薬学演習		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
238	4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	基礎有機化学 I (選)					
239	5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	基礎有機化学 I (選)				総合薬学演習	
<b>【②アルケン・アルキン】</b>							
240	1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	基礎有機化学 II (選)				総合薬学演習	
241	2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	基礎有機化学 II (選)				総合薬学演習	
242	3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	基礎有機化学 II (選)				総合薬学演習	
<b>【③芳香族化合物】</b>							
243	1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学 I (選)		総合薬学演習		
244	2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学 I (選)	生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習		
245	3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 I (選)	生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習		
246	4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学 I (選)	生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習		
247	5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 I (選)	生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習		
<b>(3) 官能基の性質と反応</b>							
<b>【①概説】</b>							
248	1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	基礎有機化学 II (選)	有機化学 II (選) 実習 II	ターゲット分子の合成	総合薬学演習		
249	2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		有機化学 II (選) 実習 II				
<b>【②有機ハロゲン化合物】</b>							
250	1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学 II (選)				総合薬学演習	
251	2) 求核置換反応の特徴について説明できる。	基礎有機化学 II (選)				総合薬学演習	
252	3) 脱離反応の特徴について説明できる。	基礎有機化学 II (選)				総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
		<b>【③アルコール・フェノール・エーテル】</b>				
253	1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ (選)		総合薬学演習	
254	2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ (選)		総合薬学演習	
		<b>【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>				
255	1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			ターゲット分子の合成	総合薬学演習	
256	2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		実習Ⅱ	ターゲット分子の合成	総合薬学演習	
257	3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		実習Ⅱ	ターゲット分子の合成	総合薬学演習	
		<b>【⑤アミン】</b>				
258	1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学Ⅱ (選)		総合薬学演習	
		<b>【⑥電子効果】</b>				
259	1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	基礎有機化学Ⅱ (選)	有機化学Ⅰ (選) 有機化学Ⅱ (選)	ターゲット分子の合成	総合薬学演習	
		<b>【⑦酸性度・塩基性度】</b>				
260	1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎有機化学Ⅱ (選)		ターゲット分子の合成	総合薬学演習	
261	2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。		有機化学Ⅱ (選)		総合薬学演習	
		<b>(4) 化学物質の構造決定</b>				
		<b>【⑧核磁気共鳴 (NMR)】</b>				
262	1) $^1\text{H}$ および $^{13}\text{C}$ NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ 機器分析学		総合薬学演習	
263	2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ 機器分析学		総合薬学演習	
264	3) $^1\text{H}$ NMR の積分値の意味を説明できる。		有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ 機器分析学		総合薬学演習	
265	4) $^1\text{H}$ NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。		有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ 機器分析学		総合薬学演習	
266	5) 代表的な化合物の部分構造を $^1\text{H}$ NMR から決定できる。(技能)		有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ		総合薬学演習	
		<b>【⑨赤外吸収 (IR)】</b>				
267	1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。	有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ		薬局方収載の試験法 (選)	総合薬学演習	
268	2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)	有機化学Ⅰ (選) 実習Ⅱ		薬局方収載の試験法 (選)	総合薬学演習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>【③質量分析】</b>						
269	1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		有機化学 I (選) 実習 II 機器分析学		総合薬学演習	
270	2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		有機化学 I (選) 実習 II			
271	3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。		有機化学 I (選) 実習 II 機器分析学		総合薬学演習	
272	4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機化学 I (選) 実習 II			
<b>【④総合演習】</b>						
273	1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		有機化学 I (選) 実習 II			
<b>(6) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>						
<b>【①無機化合物・錯体】</b>						
274	1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	薬学の基礎となる化学 A/B			総合薬学演習	
275	2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	薬学の基礎となる化学 A/B			総合薬学演習	
276	3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	薬学の基礎となる化学 A/B			総合薬学演習	
277	4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	薬学の基礎となる化学 A/B			総合薬学演習	
278	5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	薬学の基礎となる化学 A/B			総合薬学演習	
<b>C4 生体分子・医薬品の化学による理解</b>						
<b>(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的性質</b>						
<b>【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】</b>						
279	1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、スクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬	生体分子の構造と化学的性質	バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
280	2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
<b>【②生体内で機能する小分子】</b>						
281	1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬	生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
282	2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
283	3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
284	4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
	<b>【②】生体反応の化学による理解</b>					
	<b>【①】生体内で機能するリン、硫黄化合物</b>					
285	1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
286	2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
	<b>【②】酵素阻害剤と作用様式</b>					
287	1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
288	2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
289	3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
	<b>【③】受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト</b>					
290	1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
291	2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
	<b>【④】生体内で起こる有機反応</b>					
292	1) 代表的な生体分子 (脂肪酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
293	2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。			生体分子の構造と化学的性質	総合薬学演習	
	<b>【③】医薬品の化学構造と性質、作用</b>					
	<b>【①】医薬品と生体分子の相互作用</b>					
294	1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
	<b>【②】医薬品の化学構造に基づく性質</b>					
295	1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
296	2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
	<b>【③】医薬品のコンポーネント</b>					
297	1) 代表的な医薬品のフーマコフォアについて概説できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
298	2) バイオアイソスタール (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
299	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				
300	3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
301	【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】 1) スクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品(選) 医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
302	2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
303	3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
304	4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
305	5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	ゲノム情報と創薬 実習Ⅲ		医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
306	6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
307	【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】 1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
308	2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
309	3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
310	4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
311	5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
	【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】 1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。			医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
312	2) DNAにインターカレーターする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
313	3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
314	【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】 1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。				医薬品の化学構造と性質 総合薬学演習	
	C5 自然が生み出す薬物					
	(1) 薬になる動植物					
	【①薬用植物】					
315	1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。		薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
316	2) 代表的な薬用植物を外形態から説明し、区別できる。(知識、技能)		実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
317	3) 植物の主な内部形態について説明できる。		薬になる動植物		総合薬学演習	
318	4) 法律によって取り扱い扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。		薬になる動植物		総合薬学演習	
	【②生薬の基原】					
319	1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、菌類、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
	【③生薬の用途】					
320	1) 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、菌類、藻類、菌類由来)の薬効、成分、用途などを説明できる。		薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
321	2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
	【④生薬の同定と品質評価】					
322	1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
323	2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		薬になる動植物		総合薬学演習	
324	3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		実習Ⅲ(漢方・生薬)			
325	4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習	
326	5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		薬になる動植物		総合薬学演習	
	(2) 薬の宝庫としての天然物					
	【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】					
327	1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生成経路を概説できる。	天然物化学 薬になる動植物	薬物の宝庫としての 天然物(選)		総合薬学演習	

		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
328	2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然物化学 薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
329	3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然物化学 薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
330	4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然物化学 薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
331	5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然物化学 薬になる動植物 実習Ⅲ(漢方・生薬)	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
<b>【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】</b>						
332	1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	天然物化学	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
333	2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	天然物化学	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
<b>【③天然生物活性物質の取扱い】</b>						
334	1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	天然物化学 実習Ⅱ	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
<b>【④天然生物活性物質の利用】</b>						
335	1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然物化学 薬になる動植物	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
336	2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。	天然物化学 薬になる動植物	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
337	3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然物化学	薬物の宝庫としての 天然物(選)	総合薬学演習		
<b>C6 生命現象の基礎</b>						
<b>(1) 細胞の構造と機能</b>						
<b>【①細胞膜】</b>						
338	1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B 生命体の基本単位としての細胞		総合薬学演習		
339	2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生命体の基本単位としての細胞		総合薬学演習		
<b>【②細胞小器官】</b>						
340	1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞 生命情報を担う遺伝子(選)	ゲノム情報と創薬	総合薬学演習		
<b>【③細胞骨格】</b>						
341	1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞		総合薬学演習		
<b>(2) 生命現象を担う分子</b>						
<b>【①脂質】</b>						
342	1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞	食品衛生(選) 生体調節分子(選)	総合薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>【②糖質】</b>						
343	1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞		食品衛生 (選) 生体調節分子 (選)	総合薬学演習	
344	2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞		食品衛生 (選) 生体調節分子 (選)	総合薬学演習	
<b>【③アミノ酸】</b>						
345	1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞 生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬 生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系	食品衛生 (選)	総合薬学演習	
<b>【④タンパク質】</b>						
346	1) タンパク質の構造 (一次、二次、三次、四次構造) と性質を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞 生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬 生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	
<b>【⑤ヌクレオチドと核酸】</b>						
347	1) スクレオチドと核酸 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞 生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
<b>【⑥ビタミン】</b>						
348	1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞	生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝	食品衛生 (選)	総合薬学演習	
<b>【⑦微量元素】</b>						
349	1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞	生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝	食品衛生 (選)	総合薬学演習	
<b>【⑧生体分子の定性、定量】</b>						
350	1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		実習 III			
<b>【⑨生命活動を担うタンパク質】</b>						
<b>【⑩タンパク質の構造と機能】</b>						
351	1) 多彩な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。	生命体の基本単位としての細胞	ゲノム情報と創薬 生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	
<b>【⑪タンパク質の成熟と分解】</b>						
352	1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬 生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	
353	2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>【③酵素】</b>						
354	1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	
355	2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	
356	3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		総合薬学演習	
357	4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		実習Ⅲ			
<b>【④酵素以外のタンパク質】</b>						
358	1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
359	2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系	生体調節分子 (選)	総合薬学演習	
<b>(4) 生命情報を担う遺伝子</b>						
<b>【①概論】</b>						
360	1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
361	2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
<b>【②遺伝情報を担う分子】</b>						
362	1) 染色体の構造 (スクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
363	2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
364	3) RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
<b>【③遺伝子の複製】</b>						
365	1) DNA の複製の過程について説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
<b>【④転写・翻訳の過程と調節】</b>						
366	1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
367	2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	生命情報を担う遺伝子(選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
368	3) 転写因子による転写制御について説明できる。	生命情報を担う遺伝子(選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
369	4) RNAのプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。	生命情報を担う遺伝子(選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
370	5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生命情報を担う遺伝子(選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
371	<b>【⑤遺伝子の変異・修復】</b> 1) DNA の変異と修復について説明できる。	生命情報を担う遺伝子(選)	ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
372	<b>【⑥組換え DNA】</b> 1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、eDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現など) を概説できる。		ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
373	2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローニング動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。		ゲノム情報と創薬		総合薬学演習	
374	<b>(6) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b> <b>【① 概論】</b> 1) エネルギー代謝の概要を説明できる。					総合薬学演習
375	<b>【②ATP の産生と糖質代謝】</b> 1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
376	2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
377	3) 電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
378	4) グリコーゲンの代謝について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
379	5) 糖新生について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
380	<b>【③脂質代謝】</b> 1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
381	2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習	
382	<b>【④飢餓状態と飽食状態】</b> 1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
383	2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生体エネルギー代謝	食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習		
	<b>【⑤その他の代謝系】</b>						
384	1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。		生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝	食品衛生 (選)	総合薬学演習		
385	2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)			総合薬学演習		
386	3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生体エネルギー代謝		総合薬学演習		
	<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
	<b>【① 概論】</b>						
387	1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B		免疫のしくみ	総合薬学演習		
	<b>【②細胞内情報伝達】</b>						
388	1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B	薬の効くメカニズム		総合薬学演習		
389	2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬の効くメカニズム		総合薬学演習		
390	3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬の効くメカニズム 生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝		総合薬学演習		
391	4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		薬の効くメカニズム		総合薬学演習		
392	5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。	生命情報を担う遺伝子 (選)	薬の効くメカニズム		総合薬学演習		
	<b>【③細胞間コミュニケーション】</b>						
393	1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
394	2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
	<b>(7) 細胞の分裂と死</b>						
	<b>【①細胞分裂】</b>						
395	1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
396	2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
	<b>【②細胞死】</b>						
397	1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
	<b>【③がん細胞】</b>						
398	1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
399	2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		ゲノム情報と創薬	化学物質の生体への影響	バイオ・細胞医薬品(選) 総合薬学演習		
	<b>C7 人体の成り立ちと生体機能の調節</b>						
	<b>(1) 人体の成り立ち</b>						
	<b>【①遺伝】</b>						
400	1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。		ゲノム情報と創薬	薬物の臓器への到達	総合薬学演習		
401	2) 遺伝子多型について概説できる。		ゲノム情報と創薬	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		
402	3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		ゲノム情報と創薬		総合薬学演習		
	<b>【②発生】</b>						
403	1) 個体発生について概説できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
404	2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	生命体の基本単位としての細胞		免疫のしくみ	総合薬学演習		
	<b>【③器官系概論】</b>						
405	1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	人体の成り立ちと機能 I A/B			総合薬学演習		
406	2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。	生命体の基本単位としての細胞			総合薬学演習		
407	3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	人体の成り立ちと機能 I A/B					
408	4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	実習Ⅲ					
	<b>【④神経系】</b>						
409	1) 中枢神経系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II			総合薬学演習		
410	2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I A/B			総合薬学演習		
	<b>【⑤骨格系・筋肉系】</b>						
411	1) 骨、筋肉について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I A/B		生体調節分子(選)	総合薬学演習		
412	2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	人体の成り立ちと機能 I A/B			総合薬学演習		
	<b>【⑥皮膚】</b>						
413	1) 皮膚について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II			総合薬学演習		
	<b>【⑦循環器系】</b>						
414	1) 心臓について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I A/B 生体機能の調節 I (選)			総合薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
415	2) 血管系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B 生体機能の調節 I (選)			総合薬学演習		
416	3) リンパ管系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B	薬物の臓器への到達 と消失		総合薬学演習		
<b>【③呼吸器系】</b>							
417	1) 肺、気管支について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B 生体機能の調節 I (選)		生体調節分子 (選)	総合薬学演習		
<b>【⑨消化器系】</b>							
418	1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II		生体調節分子 (選)	総合薬学演習		
419	2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II			総合薬学演習		
<b>【⑩泌尿器系】</b>							
420	1) 泌尿器系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II			総合薬学演習		
<b>【⑪生殖器系】</b>							
421	1) 生殖器系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II			総合薬学演習		
<b>【⑫内分泌系】</b>							
422	1) 内分泌系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II 生体機能の調節 I (選)			総合薬学演習		
<b>【⑬感覚器系】</b>							
423	1) 感覚器系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II 生体機能の調節 I (選)			総合薬学演習		
<b>【⑭血液・造血器系】</b>							
424	1) 血液・造血器系について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B			総合薬学演習		
<b>(2) 生体機能の調節</b>							
<b>【①神経による調節機構】</b>							
425	1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	人体の成り立ちと機能 I/A/B 人体の成り立ちと機能 II 生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II		総合薬学演習		

		該 当 科 目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)									
426	2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能 I A/B 人体の成り立ちと機能 II 生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II		総合薬学演習				
427	3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II		総合薬学演習				
428	4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	人体の成り立ちと機能 I A/B	生体機能の調節 II	生体調節分子 (選)	総合薬学演習				
<b>【②ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>									
429	1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II	生体機能の調節 II	生体調節分子 (選)	総合薬学演習				
430	1) 代表的なオートコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生体機能の調節 II	生体調節分子 (選)	総合薬学演習				
<b>【③オートコイドによる調節機構】</b>									
431	1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生体機能の調節 II		総合薬学演習				
<b>【⑤血圧の調節機構】</b>									
432	1) 血圧の調節機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II 生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II	生体調節分子 (選)	総合薬学演習				
<b>【⑥血糖の調節機構】</b>									
433	1) 血糖の調節機構について概説できる。	生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II	生体調節分子 (選)	総合薬学演習				
<b>【⑦体液の調節】</b>									
434	1) 体液の調節機構について概説できる。	生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II		総合薬学演習				
435	2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	人体の成り立ちと機能 II 生体機能の調節 I (選)	生体機能の調節 II		総合薬学演習				
<b>【⑧体温の調節】</b>									
436	1) 体温の調節機構について概説できる。		生体機能の調節 II		総合薬学演習				
<b>【⑨血液凝固・線溶系】</b>									
437	1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		生体機能の調節 II 血液・造血系疾患 の薬・病態・治療	生体調節分子 (選)	総合薬学演習				
<b>【⑩性周期の調節】</b>									
438	1) 性周期の調節機構について概説できる。		生体機能の調節 II		総合薬学演習				

		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
C8 生体防御と微生物							
(1) 身体をまもる							
【①生体防御反応】							
439	1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 感染症の薬物治療 総合薬学演習		
440	2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
441	3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
442	4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
【②免疫を担当する組織・細胞】							
443	1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
444	2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
445	3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】							
446	1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
447	2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
448	3) T細胞とB細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
449	4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
450	5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
<b>【②】免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用</b>							
<b>【①】免疫応答の制御と破綻</b>							
451	1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫と疾患(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
452	2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫と疾患(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
453	3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			免疫と疾患(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
454	4) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。			免疫と疾患(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
455	5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫と疾患(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
456	6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫と疾患(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
<b>【②】免疫反応の利用</b>							
457	1) ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど)について説明できる。			免疫と疾患(選)	感染症の薬物治療		

	平成25年度改訂版・薬学教育モジュール・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
458	2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			免疫と疾患 (選)	バイオ・細胞医薬品 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
459	3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			免疫と疾患 (選)	バイオ・細胞医薬品 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
460	4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)			免疫のしくみ	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療		
<b>(3) 微生物の基本</b>							
<b>【① 総論】</b>							
461	1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	病原体としての微生物 生命情報を担う遺伝子 (選)		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
<b>【② 細菌】</b>							
462	1) 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
463	2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
464	3) 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。	病原体としての微生物			総合薬学演習		
465	4) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質転換) について説明できる。	病原体としての微生物			総合薬学演習		
466	5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
467	6) 代表的な細菌毒素について説明できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
<b>【③ ウィルス】</b>							
468	1) ウィルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
<b>【④ 真菌・原虫・蠕虫】</b>							
469	1) 真菌の性状を概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
470	2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
<b>【⑤ 消毒と滅菌】</b>									
471	1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。	病原体としての微生物	実習Ⅲ	病原微生物と感染症 (選)	総合薬学演習				PCare プログラム16
472	2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。	病原体としての微生物	実習Ⅲ		総合薬学演習				PCare プログラム16
<b>【⑥ 検出方法】</b>									
473	1) グラム染色を実施できる。(技能)		実習Ⅲ						
474	2) 無菌操作を実施できる。(技能)		実習Ⅲ						
475	3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		実習Ⅲ						
<b>(4) 病原体としての微生物</b>									
<b>【① 感染の成立と共生】</b>									
476	1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				PCare プログラム16
477	2) 日和見感染と院内感染について説明できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				PCare プログラム16
<b>【② 代表的な病原体】</b>									
478	1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				
479	2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				
480	3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セラウス菌、デフィシシル菌など)について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				
481	4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				
482	5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				
483	6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。	病原体としての微生物	実習Ⅲ	病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習				
484	7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)					

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
485	8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白黴菌など) について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
486	9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腫トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。	病原体としての微生物		病原微生物と感染症 (選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
	<b>D 衛生薬学</b>						
	<b>D1 健康</b>						
	(1) 社会・集団と健康						
	<b>【①健康と疾病の概念】</b>						
487	1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				社会・集団と健康 (選) 疾病の予防 総合薬学演習		
	<b>【②保健統計】</b>						
488	1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			実習IV	社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		
489	2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			実習IV	社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		
490	3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。		実習III	実習IV	社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		
	<b>【③疫学】</b>						
491	1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		
492	2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。				社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		
493	3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。				社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		
494	4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			実習IV	社会・集団と健康 (選) 総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
	(2) 疾病の予防								
	【①疾病の予防とは】								
495	1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			社会・集団と健康(選)実習IV	疾病の予防(選)・集団と健康(選)総合薬学演習				PCare プログラム13
496	2) 健康増進政策 (健康日本21など) について概説できる。			実習IV	疾病の予防(選)総合薬学演習				PCare プログラム13
	【②感染症とその予防】								
497	1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。			病原微生物と感染症(選)	疾病の予防(選)・集団と健康(選)総合薬学演習				PCare プログラム16
498	2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			病原微生物と感染症(選)	疾病の予防(選)・集団と健康(選)総合薬学演習				PCare プログラム16
499	3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			病原微生物と感染症(選)	疾病の予防(選)・集団と健康(選)総合薬学演習				
500	4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			病原微生物と感染症(選)	疾病の予防(選)・集団と健康(選)総合薬学演習				PCare プログラム16
	【③生活習慣病とその予防】								
501	1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			実習IV	疾病の予防(選)総合薬学演習				
502	2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			実習IV	疾病の予防(選)総合薬学演習				PCare プログラム13 PCare2020プログラムD
503	3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)			実習IV	疾病の予防(選)総合薬学演習				PCare プログラム13 PCare2020プログラムD
	【④母子保健】								
504	1) 新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				疾病の予防(選)総合薬学演習				
505	2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。				疾病の予防(選)総合薬学演習				

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【⑤労働衛生】</b>							
506	1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			化学物質の生体への影響	疾病の予防 総合薬学演習		
507	2) 労働衛生管理について説明できる。				疾病の予防 総合薬学演習		
<b>(3) 栄養と健康</b>							
<b>【①栄養】</b>							
508	1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
509	2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。	生体機能の調節 I (選)		食品衛生 (選)	総合薬学演習		PC総合演習⑦
510	3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。			生体調節分子 食品衛生 (選)	総合薬学演習		
511	4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
512	5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
513	6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
514	7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習		PCare プログラム13
515	8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			食品衛生 (選)	疾病の予防 総合薬学演習		PC総合演習⑦、 PCare プログラム13
<b>【②食品機能と食品衛生】</b>							
516	1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			食品衛生 (選) 実習IV	総合薬学演習		
517	2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			食品衛生 (選) 実習IV	総合薬学演習		
518	3) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。			食品衛生 (選) 実習IV	総合薬学演習		
519	4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
520	5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
521	6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習		
522	7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			食品衛生 (選) 実習IV	総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
	<b>【③食中毒と食品汚染】</b>					
523	1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習	
524	2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			食品衛生 (選)	総合薬学演習	
525	3) 化学物質 (重金属、残留農薬など) やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			食品衛生 (選) 化学物質の生体への影響 実習IV	総合薬学演習	
	<b>D2 薬境</b>					
	<b>(1) 化学物質・放射線の生体への影響</b>					
	<b>【①化学物質の毒性】</b>					
526	1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
527	2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
528	3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
529	4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
530	5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			化学物質の生体への影響 実習IV	総合薬学演習	
531	6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			化学物質の生体への影響 実習IV	総合薬学演習	
532	7) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) の試験法を列挙し、概説できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
	<b>【②化学物質の安全性評価と適正使用】</b>					
533	1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			実習IV		
534	2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
535	3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量・反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
536	4) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
537	5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法、化管法など) を説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
	<b>【③化学物質による発がん】</b>					
538	1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習	

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
539	2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習		
540	3) 発がんに至る過程 (イニシエーション、プロモーションなど) について概説できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習		
<b>【④放射線の生体への影響】</b>							
541	1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。			化学物質の生体への影響	総合薬学演習		
542	2) 代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。		物質の構造と放射線	化学物質の生体への影響	総合薬学演習		
543	3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。		物質の構造と放射線	化学物質の生体への影響	総合薬学演習		
544	4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。		物質の構造と放射線	化学物質の生体への影響	総合薬学演習		
<b>(2) 生活環境と健康</b>							
<b>【①地球環境と生態系】</b>							
545	1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		生活環境と健康	実習IV	総合薬学演習		
546	2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		生活環境と健康	実習IV	総合薬学演習		
547	3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。		生活環境と健康	化学物質の生体への影響 実習IV	総合薬学演習		
548	4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。		生活環境と健康	化学物質の生体への影響 実習IV	総合薬学演習		
549	5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)		生活環境と健康	実習IV			
<b>【②環境保全と法的規制】</b>							
550	1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		生活環境と健康		総合薬学演習		
551	2) 環境基本法の理念を説明できる。		生活環境と健康		総合薬学演習		
552	3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。		生活環境と健康		総合薬学演習		
<b>【③水環境】</b>							
553	1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		生活環境と健康		総合薬学演習		
554	2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。		生活環境と健康		総合薬学演習		
555	3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		生活環境と健康	実習IV	総合薬学演習		
556	4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。		生活環境と健康		総合薬学演習		

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
557	5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		生活環境と健康	実習IV					
558	6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		生活環境と健康						
	<b>【④大気環境】</b>								
559	1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		生活環境と健康						
560	2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)		生活環境と健康	実習IV					
561	3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。		生活環境と健康						
	<b>【⑤室内環境】</b>								
562	1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		生活環境と健康	実習IV					
563	2) 室内環境と健康との関係について説明できる。		生活環境と健康						
	<b>【⑥廃棄物】</b>								
564	1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		生活環境と健康 実習II	実習IV					
565	2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		生活環境と健康	実習IV					
566	3) マニフェスト制度について説明できる。		生活環境と健康	実習IV					
	<b>E 医療薬学</b>								
	<b>E1 薬の作用と体の変化</b>								
	(1) 薬の作用								
	<b>【⑩薬の作用】</b>								
567	1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。		薬の効くメカニズム	実習IV					
568	2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬の効くメカニズム	実習IV					
569	3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		ゲノム情報と創薬 薬の効くメカニズム	実習IV					
570	4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬の効くメカニズム	実習IV					
571	5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(G)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照)		薬の効くメカニズム	実習IV					

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
572	6) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4 (1) 【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		6年 PCare2020 プログラムB
573	7) 薬物の選択 (禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因 (年齢、疾病、妊娠等) について具体例を挙げて説明できる。		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		
574	8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4 (1) 【②吸収】 5. 【④代謝】 5. 【⑤排泄】 5.参照)		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		6年 PCare2020 プログラムB
575	9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬の効くメカニズム		総合薬学演習		
	<b>【②動物実験】</b>						
576	1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)			実習IV			
577	2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			実習IV			
578	3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)			実習IV			
	<b>【③日本薬局方】</b>						
579	1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			薬局方収載の試験法(選)	総合薬学演習		
	<b>(2) 身体の病的変化を知る</b>						
	<b>【①症候】</b>						
580	1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害		末梢神経系に作用する薬		臨床推論演習 事前学習 総合薬学演習	病院・薬局実務実習	
	<b>【②病態・臨床検査】</b>						
581	1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床検査			総合薬学演習		
582	2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床検査			総合薬学演習		
583	3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床検査			総合薬学演習		
584	4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	臨床検査			総合薬学演習		

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
585	5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		臨床検査				総合薬学演習
586	6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		臨床検査 分析技術の臨床応用				総合薬学演習
587	7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		臨床検査				総合薬学演習
588	8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		臨床検査				PCare-12、13 総合薬学演習
<b>(3) 薬物治療の位置づけ</b>							
589	1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科学術など)の位置づけを説明できる。		末梢神経系に作用する薬 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療 I (選) 食品衛生(選) 薬物の臓器への到達と消去	中枢神経系の薬・病態・治療 II 疾病の予防 総合薬学演習		
590	2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)		末梢神経系に作用する薬 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療 I (選) 薬物の臓器への到達と消去	中枢神経系の薬・病態・治療 II		
<b>(4) 医薬品の安全性</b>							
591	1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬の効くメカニズム				総合薬学演習
592	2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬の効くメカニズム				PCare2020 プログラムB 総合薬学演習
593	3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害		薬の効くメカニズム				総合薬学演習
594	4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)		薬の効くメカニズム	化学物質の生体への影響 実習 IV			
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>							
<b>(1) 神経系の疾患と薬</b>							
<b>【⑩自律神経系に作用する薬】</b>							

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
595	1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬の効くメカニズム						
596	2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		末梢神経系に作用する薬						
597	3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		末梢神経系に作用する薬						
598	4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			実習IV					
<b>【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】</b>									
599	1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		末梢神経系に作用する薬					総合薬学演習	
600	2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		末梢神経系に作用する薬	実習IV				総合薬学演習	
601	3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			実習IV					
602	4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barre´(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)		末梢神経系に作用する薬					総合薬学演習	
<b>【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】</b>									
603	1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)実習IV				中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習	
604	2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。		末梢神経系に作用する薬	中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)				中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習 悪性腫瘍の薬・病態・治療(選)	
605	3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)				中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習	
606	4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)				中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習	PCare プログラム10
607	5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)				中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習	PCare プログラム10
608	6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)				中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習	

	平成26年度改訂版・薬学教育モジュール・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
609	7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
610	8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞、脳血栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
611	9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
612	10) 認知症(Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
613	11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。				中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
614	12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			実習Ⅳ			
615	13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)				臨床推論演習		
616	14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症			中枢神経系疾患の薬・病態・治療Ⅰ (選)	中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
<b>【④化学構造と薬効】</b>							
617	1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			中枢神経系疾患の薬・病態・治療Ⅰ (選)	中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習		
<b>(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬</b>							
<b>【①抗炎症薬】</b>							
618	1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	末梢神経系に作用する薬			免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		
619	2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。				免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
620	3) 創傷治癒の過程について説明できる。					
<b>【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】</b>						
621	1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。					
622	2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。					
623	3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)					
624	4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (ステイブンス・ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹					
625	5) アナフィラキシシヨックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					
626	6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、パーチエット病					
627	7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 バセドウ病 (重複)、橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群					
628	8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)					
629	9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
	<b>【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】</b>									
630	1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習				
631	2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療				
632	3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。									
633	4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療				
	<b>【④化学構造と薬効】</b>									
634	1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。									免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 総合薬学演習
	<b>(3) 循環器系・血液系・造血管系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬</b>									
	<b>【①循環器系疾患の薬、病態、治療】</b>									
635	1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(AF)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(VF)、心房ブロック、QT延長症候群					循環器系・腎疾患の薬・病態・治療				総合薬学演習
636	2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					循環器系・腎疾患の薬・病態・治療				総合薬学演習
637	3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。					循環器系・腎疾患の薬・病態・治療				総合薬学演習
638	4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)					循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 実習IV				総合薬学演習
639	5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患					循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 実習IV				総合薬学演習
640	6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)									
	<b>【②血液・造血管系疾患の薬、病態、治療】</b>									
641	1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。					血液・造血管系疾患の薬・病態・治療				総合薬学演習

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
642	2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		血液・造血器系疾患の薬・病態・治療		総合薬学演習	
643	3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		血液・造血器系疾患の薬・病態・治療		総合薬学演習	
644	4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		血液・造血器系疾患の薬・病態・治療		総合薬学演習	
645	5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血球(重複)、悪性リンパ腫(重複)(E2)(7)【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照		血液・造血器系疾患の薬・病態・治療		総合薬学演習	
<b>【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】</b>						
646	1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				総合薬学演習	
647	2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			循環器系、腎疾患の薬・病態・治療	総合薬学演習	
648	3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				総合薬学演習	
649	4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)		総合薬学演習	
650	5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石			循環器系、腎疾患の薬・病態・治療	総合薬学演習	
651	6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腫瘍		生体機能の調節Ⅱ 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)		総合薬学演習	
652	7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)		総合薬学演習	
653	8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症		生体機能の調節Ⅱ 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)		総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
			生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系 疾患の薬・病態・治 療(漢)	循環器系・腎疾患の 薬・病態・治療	総合薬学演習	
	<b>【④化学構造と薬効】</b>					
654	1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。					
	<b>【④呼吸器系・消化器系の疾患と薬</b>					
	<b>【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】</b>					
655	1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾 患の薬・病態・治療	総合薬学演習	
656	2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾 患の薬・病態・治療 実習Ⅳ	疾病の予防 総合薬学演習	
657	3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾 患の薬・病態・治療	総合薬学演習	
658	4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾 患の薬・病態・治療	総合薬学演習	
	<b>【②消化器系疾患の薬、病態、治療】</b>					
659	1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
660	2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
661	3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
662	4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
663	5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
664	6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
665	7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
666	8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	
667	9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			消化器系疾患の薬・ 病態・治療	総合薬学演習	

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
<b>【③化学構造と薬効】</b>				総合薬学演習		
668 1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療			
<b>【⑤代謝系・内分泌系の疾患と薬】</b>						
<b>【①代謝系疾患の薬、病態、治療】</b>						
669 1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 疾病の予防	総合薬学演習		
670 2) 脂質異常症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 疾病の予防	総合薬学演習		PCare2020プログラムD
671 3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療	総合薬学演習		
<b>【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】</b>						
672 1) 性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療 (選)		総合薬学演習		
673 2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療 (選)		総合薬学演習		
674 3) 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療 (選)		総合薬学演習		
675 4) 尿崩症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療 (選)		総合薬学演習		
676 5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内腫瘍 (重複)、アジソン病 (重複)		生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療 (選)		総合薬学演習		
<b>【③化学構造と薬効】</b>						
677 1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		生体機能の調節Ⅱ 生殖系系・内分泌系疾患の薬・病態・治療	代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療	総合薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モジュール・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
<b>(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬</b>						
<b>【①眼疾患の薬、病態、治療】</b>						
678	1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	末梢神経系に作用する薬			総合薬学演習	
679	2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	末梢神経系に作用する薬			総合薬学演習	
680	3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	末梢神経系に作用する薬			総合薬学演習	
681	4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症	末梢神経系に作用する薬			総合薬学演習	
<b>【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】</b>						
682	1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				中枢神経系の薬・病態・治療Ⅱ 総合薬学演習	
683	2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				免疫・炎症・アレルギー 総合薬学演習	
<b>【③皮膚疾患の薬、病態、治療】</b>						
684	1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(E2参照)				免疫・炎症・アレルギー 総合薬学演習	
685	2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(E2 (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)				感染症の薬物治療 総合薬学演習	
686	3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				免疫・炎症・アレルギー 総合薬学演習	
687	4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾燥症(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)				免疫・炎症・アレルギー 総合薬学演習	
<b>【④化学構造と薬効】</b>						
688	1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	末梢神経系に作用する薬			総合薬学演習	
<b>(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬</b>						
<b>【①抗菌薬】</b>						
689	1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬				感染症の薬物治療 総合薬学演習	
690	2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。				感染症の薬物治療 総合薬学演習	



	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成26年度改訂版・薬学教育モジュール・コアカリキュラム (SBOs)						
704	インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病原微生物と感染症(選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
705	4) ウイルス性肝炎(HAV, HBV, HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)		病原微生物と感染症(選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
706	5) 後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		病原微生物と感染症(選)	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 感染症の薬物治療		
707	6) 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob病(クロイツフェルト-ヤコブ)病		病原微生物と感染症(選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
	<b>【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】</b>					
708	1) 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			感染症の薬物治療 総合薬学演習		
709	2) 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコッカス症		病原微生物と感染症(選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
	<b>【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>					
710	1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		病原微生物と感染症(選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
711	2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 回虫症、蛔虫症、アニサキス症		病原微生物と感染症(選)	感染症の薬物治療 総合薬学演習		
	<b>【⑦悪性腫瘍】</b>					
712	1) 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。	臨床検査	化学物質の生体への影響	悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 疾病の予防 総合薬学演習		
713	2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因	臨床検査	化学物質の生体への影響	悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 疾病の予防 総合薬学演習		PCare プログラム14
714	3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。	臨床検査	化学物質の生体への影響	悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 疾病の予防 総合薬学演習		PCare プログラム14

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モジュール・コアカリキュラム (SBOs)						
	<b>【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>					
715	1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬	生殖系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		
716	2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		
717	3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		PCare プログラム14
718	4) 代表的ながん化学療法法のレジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。			悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		PCare プログラム14
719	5) 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病(ATL)	血液・造血器系疾患の薬・病態・治療		総合薬学演習		
720	6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	血液・造血器系疾患の薬・病態・治療		総合薬学演習		
721	7) 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	末梢神経系に作用する薬		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		
722	8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌	消化器系疾患の薬・病態・治療		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		
723	9) 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		PCare プログラム14
724	10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍			中枢神経系の薬・病態・治療II 悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		
725	11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌	生体機能の調節II 生殖系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習		

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
726	12) 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生体機能の調節II 生殖系・内分泌系 疾患の薬・病態・治療(選)		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習	
727	13) 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生体機能の調節II 生殖系・内分泌系 疾患の薬・病態・治療(選)		悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習	
<b>【⑩がん終末期医療と緩和ケア】</b>						
728	1) がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。				悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習	PCare プログラム 8
729	2) がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				悪性腫瘍の薬・病態・治療(選) 総合薬学演習	PCare プログラム 8
<b>【⑪化学構造と薬効】</b>						
730	1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 感染症の薬物治療	
<b>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b>						
<b>【⑫組織体医薬品】</b>						
731	1) 組織体医薬品の特色と有用性を説明できる。		ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品(選) 総合薬学演習	
732	2) 代表的な組織体医薬品を列挙できる。		ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品(選) 総合薬学演習	
733	3) 組織体医薬品の安全性について概説できる。		ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品(選) 総合薬学演習	
<b>【⑬遺伝子治療】</b>						
734	1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品(選) 総合薬学演習	
<b>【⑭細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
735	1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品(選) 総合薬学演習	
736	2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療 バイオ・細胞医薬品(選)	
737	3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				総合薬学演習 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療	

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
738	4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。		ゲノム情報と創薬		バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習	
<b>(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメダイケーション</b>						
739	1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメダイケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習	
740	2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				地域薬局 総合薬学演習	
741	3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				地域薬局 総合薬学演習	
742	4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				地域薬局	
743	5) 以下の疾患・症候に対するセルフメダイケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				地域薬局 総合薬学演習	
744	6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。			食品衛生 (選)	地域薬局 疾病の予防 総合薬学演習	
745	7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				地域薬局 総合薬学演習	
746	8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)				地域薬局	
<b>(10) 医療の中の漢方薬</b>						
<b>【①漢方薬の基礎】</b>						
747	1) 漢方の特徴について概説できる。	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療			総合薬学演習	PC総合演習⑤
748	2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療			総合薬学演習	PC総合演習⑤
749	3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療			総合薬学演習	PC総合演習⑤
750	4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。	漢方医学概説 (選)			総合薬学演習	PC総合演習⑤
<b>【②漢方薬の応用】</b>						
751	1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療			総合薬学演習	PC総合演習⑤

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
752	2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療	実習 III (漢方・生薬)		総合薬学演習		PC総合演習⑤
753	3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療			総合薬学演習		PC総合演習⑤
754	【③漢方薬の注意点】 1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。	漢方医学概説 (選) 漢方薬物治療	実習 III (漢方・生薬)		総合薬学演習		PC総合演習⑤
755	(11) 薬物治療の最適化 【①総合演習】 1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				臨床推論演習 事前学習		PCare2020プログラム ラムD
756	2) 過剰量の医薬品による副作用への対応 (解毒薬を含む) を討議する。(知識・態度)		末梢神経に作用する薬		臨床推論演習 事前学習		
757	3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)			生命倫理	臨床推論演習 事前学習		
758	E3 薬物治療に役立つ情報 (1) 医薬品情報 【①情報】 1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				臨床推論演習 実習 V 事前学習 総合薬学演習		
759	2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。				臨床推論演習 実習 V 総合薬学演習		
760	3) 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品の安定供給と 社会保障制度 薬剤師を取り巻く法規 (選)		
761	4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。				総合薬学演習 実習 V 事前学習 総合薬学演習		
762	5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。				医薬品の安定供給と 社会保障制度 薬剤師を取り巻く法規 (選)		
763	【②情報源】 1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				総合薬学演習 実習 V 総合薬学演習		

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
764	2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。				実習V 総合薬学演習		
765	3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。				実習V 総合薬学演習		
766	4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけについて説明できる。				実習V 総合薬学演習		
767	5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の記載項目 (警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など) を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。				実習V 総合薬学演習		
768	6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。				実習V 総合薬学演習		
<b>【③収集・評価・加工・提供・管理】</b>							
769	1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。 (技能)				実習V		病院・薬局実務実習
770	2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。 (知識・技能)				実習V 総合薬学演習		病院・薬局実務実習
771	3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				総合薬学演習 統計解析と臨床研究		
772	4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。 (技能)				実習V		病院・薬局実務実習 PCare プログラム1
773	5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点 (知的所有権、守秘義務など) について説明できる。				実習V 総合薬学演習		
<b>【④EBM (Evidence-based Medicine)】</b>							
774	1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
775	2) 代表的な臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など) の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
776	3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 【E3 (1) ③収集・評価・加工・提供・管理】参照					
777	4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。					
<b>【⑤生物統計】</b>						
778	1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。					
779	2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。					
780	3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布) について概説できる。					
781	4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。					
782	5) 二群間の差の検定 (t検定、 $\chi^2$ 検定など) を実施できる。 (技能)					
783	6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。					
784	7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。					
<b>【⑥臨床研究デザインと解析】</b>						
785	1) 臨床研究 (試験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。					
786	2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。					
				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				社会・集団と健康 統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				社会・集団と健康 統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				社会・集団と健康 統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				社会・集団と健康 統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
				社会・集団と健康 統計解析と臨床研究 総合薬学演習		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
787				社会・集団と健康 統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
788				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
789				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
790				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
791				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
792				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
793				統計解析と臨床研究 総合薬学演習		
	<b>【⑦医薬品の比較・評価】</b>					
794				地域薬局 総合薬学演習		
795				地域薬局 実習V	病院・薬局実務実習	
796				地域薬局 実習V	病院・薬局実務実習	
	<b>(2) 患者情報</b>					
	<b>【⑩情報と情報源】</b>					
797				臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
798	2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習		
<b>【②収集・評価・管理】</b>							
799	1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			調剤	臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習		
800	2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			調剤	臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習		
801	3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。				臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習		PCare プログラム14
802	4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A) (2) 【③患者の権利】参照)			生命倫理	臨床推論演習 総合薬学演習		
<b>(3) 個別化医療</b>							
<b>【①遺伝的素因】</b>							
803	1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。		ゲノム情報と創薬	薬物の臓器への到達 と消失	バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習		PCare プログラム14
804	2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。		ゲノム情報と創薬	薬物の臓器への到達 と消失	バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習		
805	3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。		ゲノム情報と創薬	薬物の臓器への到達 と消失	バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習		PCare プログラム14
<b>【②年齢的要因】</b>							
806	1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達 と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA
807	2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達 と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
	<b>【③臓器機能低下】</b>									
808	1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA			
809	2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA			
810	3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
	<b>【④その他の要因】</b>									
811	1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA			
812	2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA			
813	3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習		PCare2020 プログラムA			
	<b>【⑤個別化医療の計画・立案】</b>									
814	1) 個別の患者情報 (遺伝的要因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)			薬物の臓器への到達と消失			PCare2020 プログラムA			
815	2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	バイオ・細胞医薬品 (選) 総合薬学演習		PCare2020 プログラム11			PCare プログラム14
	<b>E4 薬の生体内運命</b>									
	<b>(1) 薬物の体内動態</b>									
	<b>【①生体膜透過】</b>									
816	1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失 化学物質の生体への影響	総合薬学演習					
817	2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
	<b>【②吸収】</b>									
818	1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
819	2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
820	3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
821	4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
822	5) 初回通過効果について説明できる。		薬の効くメカニズム	薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					
	<b>【③分布】</b>									
823	1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
824	2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
825	3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
826	4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の胎児等への移行について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失 化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
827	5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
828	6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
<b>【④代謝】</b>						
829	1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
830	2) 薬物代謝の第I相反応 (酸化・還元・加水分解)、第II相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失 化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
831	3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
832	4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
833	5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げて、説明できる。	薬の効くメカニズム		製剤とDDS 薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
<b>【⑤排泄】</b>						
834	1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
835	2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
836	3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
837	4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失 化学物質の生体への影響	総合薬学演習	
838	5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。	薬の効くメカニズム		薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習	
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【①薬物速度論】</b>						
839	1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習	
840	2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。 (知識、技能)			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
841	3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習		
842	4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習		
843	5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態解析	総合薬学演習 実習V		
844	6) 薬物動態学—薬力学解析 (PK・PD解析) について概説できる。			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習		
<b>【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】</b>							
845	1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習		
846	2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			薬物動態解析	実習V 総合薬学演習		
847	3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			薬物動態解析	実習V		PCareプログラム11
848	4) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			薬物動態解析	総合薬学演習		PCareプログラム11
<b>B5 製剤化のサイエンス</b>							
<b>(1) 製剤の性質</b>							
<b>【①固形材料】</b>							
849	1) 粉体の性質について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習		
850	2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習		
851	3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。(C2 (2) 【①酸・塩基平衡】 1.及び 【②各種の化学平衡】 2.参照)			製剤の性質	総合薬学演習		
852	4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習		
853	5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習		
<b>【②半固形・液状材料】</b>							
854	1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
855	2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習	
<b>【③分散系材料】</b>						
856	1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。(C2) (2) 【②各種の化学平衡】 4.参照			製剤の性質	総合薬学演習	
857	2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習	
858	3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習	
859	4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習	
<b>【④薬物及び製剤材料の物性】</b>						
860	1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習	
861	2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。(C1) (3) 【①反応速度】 1.~7.参照			製剤の性質	総合薬学演習	
862	3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤の性質	総合薬学演習	
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【①代表的な製剤】</b>						
863	1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習	
864	2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習	
865	3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習	
866	4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習	
867	5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習	
868	6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習	
<b>【②製剤化と製剤試験法】</b>						
869	1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
870	2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習		
871	3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習		
872	4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤とDDS	実習V 総合薬学演習		
	<b>【③生物学的同等性】</b>						
873	1) 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
	(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
	<b>【①DDS の必要性】</b>						
874	1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
875	2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、F4(1)【④代翻】4.も参照)			製剤とDDS	総合薬学演習		
	<b>【②コントロールリリース (放出制御)】</b>						
876	1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
877	2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
878	3) コントロールリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
	<b>【③ターゲティング (標的指向化)】</b>						
879	1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
880	2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
881	3) ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
	<b>【④吸収改善】</b>						
882	1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
883	2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		
884	3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤とDDS	総合薬学演習		

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
F 薬学臨床	前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
	(1) 薬学臨床の基礎						
	【①早期臨床体験】※原則として2年次修了までに学習する事項						
885	1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	薬学入門Ⅰ			総合薬学演習		
886	2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	薬学入門Ⅱ			総合薬学演習		
887	3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	薬学入門Ⅱ					
	【②臨床における心構え】[A(1)、(2)参照]						
888	1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				事前学習		
889	2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				事前学習		
890	3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				事前学習		
891	4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					病院・薬局実務実習	
892	5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					病院・薬局実務実習	
893	6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					病院・薬局実務実習	
894	7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					病院・薬局実務実習	
	【③臨床実習の基礎】						
	1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				調剤	地域薬局 医薬品管理 総合薬学演習 事前学習	
896	2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				調剤	地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
897	3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				調剤	総合薬学演習 事前学習	
898	4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				調剤	総合薬学演習 事前学習	
899	5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B(3)①参照]					総合薬学演習 事前学習	
900	6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。						病院・薬局実務実習
901	7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。(態度)						病院・薬局実務実習
902	8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)						病院・薬局実務実習
903	9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。						病院・薬局実務実習

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				
904					6年
905					PCare2020プログラムA
906					PCare プログラム8
907					PCare2020プログラムA
908					
909					
	<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>				
	<b>【①法令・規則等の理解と遵守】 [B (2)、(3) 参照]</b>				
910					地域薬局 総合薬学演習 事前学習
911					病院・薬局実務実習
912					病院・薬局実務実習
913					病院・薬局実務実習
	<b>【②処方せんと疑義照会】</b>				
914	1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。	末梢神経系に作用する薬 生殖系・内分泌系 疾患の薬・病態・治療 (選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療 I (選)	中枢神経系の薬・病態・治療 II 総合薬学演習 事前学習	PCare2020プログラムA
915	2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。		調剤	総合薬学演習 事前学習	
916	3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。		調剤	地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
917	4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。		調剤	地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
918	5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。		調剤	地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
919	6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)			地域薬局 事前学習	
920	7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)				
921	8) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)				病院・薬局実務実習
922	9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				病院・薬局実務実習

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	
923	10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習	6年
924	11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習	
<b>【③処方せんに基づく医薬品の調製】</b>							
925	1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)					総合薬学演習 事前学習 実習V	
926	2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。					地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
927	3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)					総合薬学演習 事前学習 実習V	
928	4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。					地域薬局	
929	5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。					総合薬学演習 事前学習 実習V	
930	6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)					総合薬学演習 事前学習	
931	7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)					総合薬学演習 事前学習	
932	8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)					総合薬学演習 事前学習	
933	9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)						病院・薬局実務実習
934	10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
935	11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)						病院・薬局実務実習
936	12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
937	13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
938	14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)						病院・薬局実務実習
939	15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。						病院・薬局実務実習
940	16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)						病院・薬局実務実習
941	17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
942	18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
943	19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
<b>【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b>							

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
944	1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)				事前学習	
945	2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	PCare2020 プログラムA
946	3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)				臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	
947	4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				臨床推論演習 事前学習	
948	5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	PCare2020 プログラムD
949	6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取り扱い方法を説明できる。(技能・態度)				臨床推論演習 事前学習	
950	7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。			調剤	臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
951	8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者に対する内容を適切に記録できる。(技能)				臨床推論演習 地域薬局 事前学習	
952	9) 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度)					病院・薬局実務実習
953	10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
954	11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
955	12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習
956	13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習 PCare2020 プログラムA
957	14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					病院・薬局実務実習
958	15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
<b>【⑤医薬品の供給と管理】</b>						
959	1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				医薬品管理 総合薬学演習 事前学習	

	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
960	2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				医薬品管理 総合薬学演習 事前学習	
961	3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				医薬品管理 総合薬学演習 事前学習	PCare プログラム2
962	4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				医薬品管理 総合薬学演習 事前学習	
963	5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。				医薬品管理 総合薬学演習 事前学習	
964	6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				総合薬学演習 事前学習	
965	7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。	漢方医学概説 (選)	実習Ⅲ(漢方・生薬)		総合薬学演習 事前学習	
966	8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				総合薬学演習 事前学習	
967	9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
968	10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)					病院・薬局実務実習
969	11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					病院・薬局実務実習
970	12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)				医薬品管理 事前学習	PCare プログラム2
971	13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)				薬剤師を取り巻く法 規 (選)	病院・薬局実務実習
<b>【⑩安全管理】</b>						
972	1) 前) 処方から服薬 (投薬) までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			調剤	地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
973	2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の特徴と注意点を列挙できる。			代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療	総合薬学演習 事前学習	
974	3) 前) 代表的なインジメント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
975	4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				総合薬学演習 事前学習	
976	5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				事前学習	
977	6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				総合薬学演習 事前学習	
978	7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				総合薬学演習 事前学習	
979	8) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					病院・薬局実務実習
980	9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					病院・薬局実務実習

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
981	10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アグシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発症後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	
982	11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)					病院・薬局実務実習	
983	12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)					病院・薬局実務実習	
984	13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習	
985	14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	PCare プログラム6
<b>(3) 薬物療法の実践</b>							
<b>【①患者情報の把握】</b>							
986	1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習		PCare2020 プログラムA Pcare2020 プログラムC
987	2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3 (2) ①参照]				臨床推論演習 地域薬局 事前学習		PCare2020 プログラムA Pcare2020 プログラムC
988	3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習 事前学習		PCare2020 プログラムC
989	4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)				臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習		PCare2020 プログラムC
990	5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)					病院・薬局実務実習	PCare2020 プログラムC
991	6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習	PCare2020 プログラムC
992	7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)					病院・薬局実務実習	PCare プログラム6 Pcare2020 プログラムC
<b>【②医薬品情報の収集と活用】 [E3 (1) 参照]</b>							
993	1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習		
994	2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					病院・薬局実務実習	

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				
995	3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系 疾患の薬・病態・治療 (選)	代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I (選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	病院・薬局実務実習
996	4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)				病院・薬局実務実習
997	5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)				病院・薬局実務実習
998	6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)				病院・薬局実務実習
<b>【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】</b>					
999	1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系 疾患の薬・病態・治療 (選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I (選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	PCare2020プログラムD
1000	2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系 疾患の薬・病態・治療 (選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I (選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	PCare2020プログラムA
1001	3) 前) 患者のアドヒランスの評価方法、アドヒランスが良くない原因とその対処法を説明できる。			臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
1002	4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。			総合薬学演習 事前学習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1003	5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				総合薬学演習 事前学習		
1004	6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				総合薬学演習 事前学習		
1005	7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確 認できる。		末梢神経系に作用す る薬 生殖器系・内分泌系 疾患の薬・病態・治 療 (選)	循環器系・腎疾患の 薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・ 病態・治療 代謝系・病態・治療 患者の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の 薬・病態・治療 I (選)	中枢神経系の薬・病 態・治療 II	病院・薬局実務実習	PCare プログラム6 PCare2020 プログ ラムD
1006	8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。		末梢神経系に作用す る薬 生殖器系・内分泌系 疾患の薬・病態・治 療 (選)	循環器系・腎疾患の 薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・ 病態・治療 代謝系・呼吸器系疾 患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の 薬・病態・治療 I (選)	中枢神経系の薬・病 態・治療 II	病院・薬局実務実習	PCare プログラム6 PCare プログラム14 PCare2020 プログ ラムD
1007	9) 患者の状態 (疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心 理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方を提案で きる。(知識・態度)		末梢神経系に作用す る薬 生殖器系・内分泌系 疾患の薬・病態・治 療 (選)	循環器系・腎疾患の 薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・ 病態・治療 代謝系・呼吸器系疾 患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の 薬・病態・治療 I (選)	中枢神経系の薬・病 態・治療 II	病院・薬局実務実習	PCare プログラム6 PCare2020 プログ ラムA
1008	10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。 (知識・態度)						
1009	11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)						
1010	12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知 識・態度)						

	該 当 科 目				
	1年	2年	3年	4年	5年
平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
1011	13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。				病院・薬局実務実習
1012	14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 実習V	病院・薬局実務実習
<b>【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】</b>					
1013	1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	
1014	2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 臨床推論演習 総合薬学演習 事前学習	
1015	3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)			臨床推論演習 地域薬局 総合薬学演習 事前学習	
1016	4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II	病院・薬局実務実習 PCare プログラム6 PCare プログラム14
1017	5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定のプロセスを提案できる。(知識・態度)	末梢神経系に作用する薬 生殖器官系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 実習V	病院・薬局実務実習

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1018	6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)		末梢神経系に作用する薬 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 実習V	病院・薬局実務実習	PCare プログラム6
1019	7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。		末梢神経系に作用する薬 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 総合薬学演習	病院・薬局実務実習	PCare プログラム6
1020	8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。		末梢神経系に作用する薬 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II	病院・薬局実務実習	PCare プログラム6
1021	9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。		末梢神経系に作用する薬 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II	病院・薬局実務実習	PCare プログラム14
1022	10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)		末梢神経系に作用する薬 生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療(選)	循環器系・腎疾患の薬・病態・治療 消化器系疾患の薬・病態・治療 代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療 中枢神経系疾患の薬・病態・治療I(選)	中枢神経系の薬・病態・治療II 実習V	病院・薬局実務実習	
1023	11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)						病院・薬局実務実習
1024	12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)						病院・薬局実務実習
1025	13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)						病院・薬局実務実習

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
	(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]									
	<b>【①医療機関におけるチーム医療】</b>									
1026	1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。			調剤	総合薬学演習 事前学習					
1027	2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。			調剤	総合薬学演習 事前学習					
1028	3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニック、バス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				総合薬学演習 事前学習					
1029	4) 薬物療法上の問題を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)							病院・薬局実務実習		
1030	5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)							病院・薬局実務実習		
1031	6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)							病院・薬局実務実習		
1032	7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携、協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)							病院・薬局実務実習		
1033	8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)							病院・薬局実務実習		
1034	9) 病院内の多様な医療チーム(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)							病院・薬局実務実習		
	<b>【②地域におけるチーム医療】</b>									
1035	1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。							地域薬局 総合薬学演習 事前学習		
1036	2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)							総合薬学演習 事前学習		
1037	3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)								病院・薬局実務実習	
1038	4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)								病院・薬局実務実習	
	<b>(6) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]</b>									
	<b>【③在宅(訪問)医療・介護への参画】</b>									
1039	1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。							地域薬局 総合薬学演習		
1040	2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。							地域薬局 総合薬学演習		
1041	3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。							地域薬局 総合薬学演習		
1042	4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)								病院・薬局実務実習	
1043	5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)								病院・薬局実務実習	

	平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
		1年	2年	3年	4年	
1044	6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)				5年 病院・薬局実務実習	6年
<b>【②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参照】</b>						
1045	1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染症予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。			総合薬学演習 事前学習		
1046	2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			総合薬学演習 事前学習		
1047	3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)				病院・薬局実務実習	
1048	4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)				病院・薬局実務実習	
<b>【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E 2 (9) 参照]</b>						
1049	1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)			事前学習		
1050	2) 前) 代表的な症候(頭痛・腹痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)			総合薬学演習 事前学習 地域薬局		PC総合演習⑤
1051	3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)			事前学習 地域薬局		PC総合演習⑤
1052	4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)			代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療		PCare2020プログラムC
1053	5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				病院・薬局実務実習	
1054	6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)				病院・薬局実務実習	
1055	7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)				病院・薬局実務実習	
1056	8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)	漢方医学概説(選) 漢方薬物治療			病院・薬局実務実習	PC総合演習⑤
1057	9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)				病院・薬局実務実習	
<b>【④災害時医療と薬剤師】</b>						
1058	1) 前) 災害時医療について概説できる。			地域薬局 総合薬学演習 事前学習		
1059	2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。				病院・薬局実務実習	
1060	3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)				病院・薬局実務実習	

平成26年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>G 薬学研究</b>							
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>							
1061	基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						課題研究
1062	研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						課題研究
1063	現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)						課題研究
1064	新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)						課題研究
<b>(2) 研究に必要な法規範と倫理</b>							
1065	1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。						課題研究
1066	2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。						課題研究
1067	3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-Q-3再掲						課題研究
<b>(3) 研究の実践</b>							
1068	1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)						課題研究
1069	2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、解決計画を立案する。(知識・技能)						課題研究
1070	3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)						課題研究
1071	4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)						課題研究
1072	5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)						課題研究
1073	6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)						課題研究



# 基礎資料3-1



(基礎資料3-1) 2019年度における学年別在籍状況

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>	150	150	150	150	150	150
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	108	128	141	155	154	161
在籍学生数 <sup>3)</sup>	115	127	134	140	146	154
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者	7	10	10	4	11
	休学による者	0	2	0	0	2
編入学などによる在籍者数	0	0	0	0	0	0
ストレート在籍者数 <sup>5)</sup>	108	115	124	136	133	130
ストレート在籍率 <sup>6)</sup>	1.00	0.90	0.88	0.88	0.86	0.81
過年度在籍率 <sup>7)</sup> (C+D)/B	0.06	0.09	0.07	0.03	0.09	0.16

- 1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - {(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)} を記載してください。  
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
- 6) (ストレート在籍者数)/(入学時の学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)
- 7) (過年度在籍者数)/(在籍学生数)の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)



# 基礎資料3-2



(基礎資料3-2) 2019年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	159	162	146	137	115
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	1	0	2
	退学者数 <sup>2)</sup>	10	6	6	8	4
	留年者数 <sup>2)</sup>	6	5	8	7	4
	進級率 <sup>3)</sup>	0.89	0.93	0.90	0.89	0.91
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	167	153	157	138	127
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	2	1	2
	退学者数 <sup>2)</sup>	9	4	4	2	2
	留年者数 <sup>2)</sup>	11	5	5	4	2
	進級率 <sup>3)</sup>	0.88	0.94	0.93	0.95	0.95
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	147	153	150	147	134
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	0	2	5	4	1
	留年者数 <sup>2)</sup>	5	6	2	3	2
	進級率 <sup>3)</sup>	0.96	0.95	0.95	0.95	0.98
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	92	144	146	144	140
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	2	0	4	0	1
	留年者数 <sup>2)</sup>	0	1	1	0	1
	進級率 <sup>3)</sup>	0.97	0.99	0.97	1.00	0.99
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	84	91	144	144	146
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	0	3	2	3
	退学者数 <sup>2)</sup>	1	2	1	0	0
	留年者数 <sup>2)</sup>	2	1	0	0	2
	進級率 <sup>3)</sup>	0.96	0.97	0.97	0.99	0.97



# 基礎資料3-3



(基礎資料3-3) 2019年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 <sup>1)</sup>	88	80	88	139	142
学士課程修了(卒業)者数	72	64	77	127	119
卒業率 <sup>2)</sup>	0.82	0.80	0.88	0.91	0.83
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年	60	73	122	113
	7年	4	4	3	5
	8年	0	0	0	1
	9年以上	0	0	0	0
入学時の学生数(実入学者数) <sup>4)</sup>	88	101	100	164	161
ストレート卒業率 <sup>5)</sup>	0.75	0.59	0.73	0.74	0.70

[注] 1) 卒業者数は、当該年度の卒業判定会議(年度末の2月)における卒業認定者数を記載してください。

9月卒業などの卒業延期生、休退学者を除いた数字を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値 (B/A) を小数点以下第2位まで記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値 (C/D) を、小数点以下第2位まで記載してください。



# 基礎資料3-4



(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員	150	150	150	150	150	150	
実入学者数 <sup>1)</sup>	161	154	155	141	128	108	141.17
入学定員充足率 <sup>2)</sup>	1.07	1.03	1.03	0.94	0.85	0.72	0.94
編入学定員	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
編入学者数 <sup>3)</sup>	0	1	2	0	0	0	0.50
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2年次	0	0	0	0	0	0.00
	3年次	0	0	0	0	0	0.50
	4年次	0	1	2	0	0	0.00

- 注] 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値（小数点以下第2位まで）を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者（転学部、転学科などを含む）の合計数を記載してください。
- 4) 編入（転入）学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。



# 基礎資料4



(基礎資料4) 学生受入れ状況(入学試験種類別)

学部	学科名	入試の種類		2015年度入試	2016年度入試	2017年度入試	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
				(2014年度実施)	(2015年度実施)	(2016年度実施)	(2017年度実施)	(2018年度実施)	(2019年度実施)	
薬学部	薬学	一般入試	受験者数	295	355	256	261	224	247	0.91
			合格者数	153	163	166	153	142	139	
			入学者数(A)	76	87	93	78	71	57	
			募集定員数(B)	68.00	68	68	68	68	68	
	A/B*100(%)	111.76	127.94	136.76	114.71	104.41	83.82			
	薬学	大学入試センター入試	受験者数	111	85	75	77	72	60	
			合格者数	59	45	43	44	49	35	
			入学者数(A)	14	6	2	5	5	3	
			募集定員数(B)	14	14	14	14	14	14	
	A/B*100(%)	100.00	42.86	14.29	35.71	35.71	21.43			
	薬学	AO入試	受験者数	2	5	3	3	0	4	
			合格者数	2	5	3	3	0	4	
			入学者数(A)	2	5	2	3	0	4	
			募集定員数(B)	14	14	14	14	14	14	
	A/B*100(%)	14.29	35.71	14.29	21.43	0.00	28.57			
	薬学	指定校推薦	受験者数	42	30	22	22	13	22	
			合格者数	42	30	22	22	13	22	
			入学者数(A)	42	30	22	22	13	22	
			募集定員数(B)	27	27	27	27	27	27	
	A/B*100(%)	155.56	111.11	81.48	81.48	48.15	81.48			
	薬学	公募推薦入試	受験者数	95	81	72	51	52	73	
			合格者数	32	40	32	27	28	38	
			入学者数(A)	20	27	22	20	19	18	
			募集定員数(B)	27	27	27	27	27	27	
	A/B*100(%)	74.07	100.00	81.48	74.07	70.37	66.67			
	薬学	学科計	受験者数	545	556	428	414	361	406	
			合格者数	288	283	266	249	232	238	
			入学者数(A)	154	155	141	128	108	104	
募集定員数(B)			150	150	150	150	150	150		
A/B*100(%)	102.67	103.33	94.00	85.33	72.00	69.33				
薬学	編(転)入試験	受験者数	1	6	0	0	0	3		
		合格者数	1	4	0	0	0	3		
		入学者数(A)	1	2	0	0	0	2		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
A/B*100(%)	-	-	-	-	-	-				

- [注]
- 1 入学者数は、実施した入試により**5月1日**に新入学者となっている学生数を記入してください。
  - 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
  - 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。
  - 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
  - 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
  - 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
  - 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に……」を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。



# 基礎資料5



(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
21名	8名	8名	2名	39名	31名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
4名	3名	1名	0名	8名	6名

- 1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない
- 2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1.以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
9名	0名

- 1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者
- 2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
0名	8名	5名	13名

- 1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 <sup>1)</sup>	技能職員 <sup>2)</sup>	その他 <sup>3)</sup>	合計
4(2)名	0名	0名	4(2)名

- 1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は( )に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)
- 2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員
- 3) 司書、保健・看護職員など



# 基礎資料6



(基礎資料6) 専任教員(基礎資料7の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	12名	1名	0名	0名	13名	33.3%
50代	5名	2名	1名	0名	8名	20.5%
40代	4名	4名	4名	0名	12名	30.8%
30代	0名	1名	3名	2名	6名	15.4%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	21名	8名	8名	2名	39名	100.0%

専任教員の定年年齢：( 65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料7の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	19名	7名	8名	2名	36名	92.3%
女性	2名	1名	0名	0名	3名	7.7%



# 基礎資料7



(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (休職中の1名を除く)

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した週当たり授業時間 <sup>5)</sup>							
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	実感する化学	6.00	0.20							
							生命体の基本単位としての細胞	9.00	0.30							
							生活環境と健康	18.00	0.60							
							社会・集団と健康	6.00	0.20							
							英語IV	4.50	0.15							
							健康と環境特講	18.00	0.60							
							実習IV	22.50	0.75							
							実践薬学演習	1.50	0.05							
							総合薬学演習	4.50	0.15							
							事前学習	14.97	0.50							
							病院・薬局実務実習	10.70	0.36							
							薬学英語演習	10.46	0.35							
							公衆衛生学特論	15.00	0.50							
							細胞分子構造学特論	13.50	0.45							
							ファーマシューティカルケア総合演習	11.25	0.38							
							実務実習後学習	1.50	0.05							
							薬学総論	15.00	0.50							
							薬学英語II	4.50	0.15							
							授業担当時間の合計								186.88	6.23
							薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	医薬品の化学構造式と性質	3.00	0.10
有機化学II	9.00	0.30														
化学系薬学特講	6.00	0.20														
生体分子の構造と化学的性質	11.96	0.40														
薬学の基礎となる化学A	20.93	0.70														
薬剤師を取り巻く法規	1.49	0.05														
医薬品管理	10.46	0.35														
セルフェメディケーション(2)	10.50	0.35														
基礎薬学演習	3.00	0.10														
総合薬学演習	6.00	0.20														
ファーマシューティカルケア総合演習	11.25	0.38														
病院・薬局実務実習	11.25	0.38														
実務実習後学習	1.50	0.05														
薬学英語演習	10.46	0.35														
生体分子の構造と化学的性質	11.96	0.40														
薬学演習	7.50	0.25														
事前学習	14.97	0.50														
有機化学I	9.00	0.30														
薬学と社会特講	3.00	0.10														
実習II	33.75	1.13														
授業担当時間の合計								196.98	6.57							
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	博士論文応用演習I	14.96	0.50							
							博士論文応用演習II	14.96	0.50							
							病態制御学論情報演習	15.00	0.50							
							実習IV	22.50	0.75							
							医薬品をつくる特講	4.50	0.15							
							循環器・腎疾患の薬・病態・治療	9.00	0.30							
							消化器系疾患の薬・病態・治療	9.00	0.30							
							血液・造血器系疾患の薬・病態・治療	9.00	0.30							
							実践薬学演習	3.00	0.10							
							生体機能の調節II	9.00	0.30							
							総合薬学演習	3.00	0.10							
							ファーマシューティカルケア総合演習	11.25	0.38							
							病院・薬局実務実習	27.00	0.90							
							実務実習後学習	1.50	0.05							
							薬学英語演習	10.46	0.35							
							薬学総論	15.00	0.50							
							事前学習	14.97	0.50							
授業担当時間の合計								194.10	6.47							
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学入門I	33.00	1.10							
							薬学入門II	37.50	1.25							
							基礎分析化学A	9.00	0.30							
							コミュニケーション交流学習	30.00	1.00							
							薬局方収載の試験法	9.00	0.30							
							応用分析科学	4.50	0.15							
							生命倫理	18.00	0.60							
							実習I	22.50	0.75							
							実習II	33.75	1.13							
							基礎薬学演習	6.00	0.20							
							実践薬学演習	3.00	0.10							
							総合薬学演習	3.00	0.10							
							事前学習	14.97	0.50							
病院・薬局実務実習	36.00	1.20														

						実務実習後学習		3.00	0.10
						薬学英語演習		10.46	0.35
						物理系薬学特講		3.00	0.10
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						薬学総論		1.59	0.05
						キャリアデザインⅠ		15.00	0.50
						生体分子解析学特論	院	9.00	0.30
						授業担当時間の合計		313.52	10.45
薬学科	教授 (実務)	■	■	■	■	ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						薬学総論		1.50	0.05
						血液・造血管系疾患の薬・病態・治療		4.50	0.15
						悪性腫瘍の薬・病態・治療		15.00	0.50
						調剤		1.49	0.05
						臨床推論演習		76.16	2.54
						病院・薬局実務実習	◎	72.00	2.40
						実務実習後学習		1.50	0.05
						薬学英語演習		10.46	0.35
						実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
						総合薬学演習		1.50	0.05
						事前学習	◎	95.78	3.19
						臨床薬剤学特論	院	12.00	0.40
						高度医療薬学研修Ⅰ	院	9.00	0.30
						医療情報データベース特論	院	7.50	0.25
高度医療薬学研修Ⅱ	院	6.00	0.20						
						授業担当時間の合計		369.14	12.30
薬学科	准教授	■	■	■	■	薬学英語Ⅰ		11.93	0.40
						薬学英語演習		10.46	0.35
						英語Ⅳ		4.50	0.15
						消化器系疾患の薬・病態・治療		9.00	0.30
						循環器系・腎疾患の薬・病態・治療		9.00	0.30
						血液系疾患の薬・病態・治療		4.50	0.15
						生体機能の調節Ⅱ		4.50	0.15
						実習Ⅳ	◎	22.50	0.75
						実践薬学演習		3.00	0.10
						総合薬学演習		3.00	0.10
						事前学習	◎	14.97	0.50
						病院・薬局実務実習	◎	36.00	1.20
						実務実習後学習		1.50	0.05
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						薬学総論		15.00	0.50
						セルフェディケーション(1)		3.00	0.10
						セルフェディケーション(2)		9.00	0.30
コミュニケーション交流学習		30.00	1.00						
						授業担当時間の合計		203.11	6.77
薬学科	教授	■	■	■	■	漢方医学概説		19.46	0.65
						漢方薬物治療		19.46	0.65
						薬になる動植物		9.00	0.30
						薬学入門Ⅰ		33.00	1.10
						薬学入門Ⅱ		37.50	1.25
						キャリアデザインⅠ		15.00	0.50
						コミュニケーション交流学習		30.00	1.00
						実習Ⅲ	◎	22.50	0.75
						生命倫理		18.00	0.60
						基礎薬学演習		3.00	0.10
						総合薬学演習		3.00	0.10
						事前学習	◎	14.97	0.50
						病院・薬局実務実習	◎	24.00	0.80
						実務実習後学習		1.50	0.05
						薬学英語演習		10.46	0.35
						化学系薬学特講		1.50	0.05
						薬学総論		1.50	0.05
ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
漢方薬理学特論	院	22.50	0.75						
						授業担当時間の合計		297.60	9.92
薬学科	教授	■	■	■	■	実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
						医薬品をつくる特講		3.00	0.10
						製剤とDDS		10.46	0.35
						実践薬学演習		3.00	0.10
						総合薬学演習		4.50	0.15
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						病院・薬局実務実習	◎	54.00	1.80
						実務実習後学習		1.50	0.05
						薬学英語演習		10.46	0.35
						薬学総論		9.00	0.30
						事前学習	◎	47.89	1.60
						薬学と社会特講		3.00	0.10
						薬剤設計学特論	院	13.50	0.45

薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生体エネルギー代謝		7.50	0.25							
							疾病の予防		4.49	0.15							
							生命倫理		18.00	0.60							
							情報処理基礎		22.50	0.75							
							セルフメディケーション(1)		3.00	0.10							
							セルフメディケーション(2)		10.50	0.35							
							薬学入門Ⅱ		37.50	1.25							
							キャリアデザインⅠ		15.00	0.50							
							基礎薬学演習		1.50	0.03							
							実践薬学演習		1.50	0.05							
							総合薬学演習		1.50	0.05							
							実習Ⅲ	◎	22.50	0.75							
							病院・薬局実務実習	◎	27.00	0.90							
							薬学英語演習		10.46	0.35							
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38							
							生物系薬学特講		3.00	0.10							
							事前学習	◎	14.97	0.50							
							薬学総論		4.50	0.15							
							実務実習後学習		1.50	0.05							
							授業担当時間の合計								218.17	7.25	
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	実習Ⅴ	◎	43.50	1.45							
							臨床推論演習		62.31	2.08							
							薬物の臓器への到達と消失		2.99	0.10							
							生体機能の調節Ⅰ		18.00	0.60							
							コミュニケーション交流学習		30.00	1.00							
							生命倫理		18.00	0.60							
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38							
							病院・薬局実務実習	◎	30.00	1.00							
							実務実習後学習		13.50	0.45							
							薬学英語演習		10.46	0.35							
							事前学習	◎	95.78	3.19							
							授業担当時間の合計								335.80	11.19	
							薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	基礎分析化学A		9.00	0.30
														基礎分析化学B		6.00	0.20
コミュニケーション交流学習		30.00	1.00														
機器分析学		9.00	0.30														
分析技術の臨床応用		9.00	0.30														
臨床検査		15.00	0.50														
応用分析科学		4.50	0.15														
医薬品管理		1.50	0.05														
実習Ⅰ	◎	22.50	0.75														
実習Ⅱ	◎	33.75	1.13														
基礎薬学演習		1.50	0.05														
総合薬学演習		3.00	0.10														
事前学習	◎	14.97	0.50														
病院・薬局実務実習	◎	27.00	0.90														
実務実習後学習		1.50	0.05														
薬学英語演習		10.46	0.35														
ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38														
物理系薬学特講		3.00	0.10														
薬学総論		4.50	0.15														
セルフメディケーション(2)		9.00	0.30														
授業担当時間の合計								226.43	7.55								
薬学科	准教授(実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学と社会特講		1.50	0.05							
							医薬品の安定供給と社会保障制度		10.50	0.35							
							実習Ⅴ	◎	43.50	1.45							
							臨床推論演習		69.23	2.31							
							調剤		1.50	0.05							
							コミュニケーション交流学習		30.00	1.00							
							総合薬学演習		1.50	0.05							
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38							
							病院・薬局実務実習	◎	45.00	1.50							
							実務実習後学習		1.50	0.05							
							薬学英語演習		10.46	0.35							
							薬学総論		9.00	0.30							
							事前学習	◎	95.78	3.19							
授業担当時間の合計								330.72	11.02								
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	免疫・炎症・アレルギー疾患の薬物治療		13.50	0.45							
							実習Ⅲ	◎	22.50	0.75							
							生物系薬学特講		1.50	0.05							
							臨床免疫病態学特論	院	22.50	0.75							
							病態制御学論情報演習(外国語、IT含む)	院	7.50	0.25							
							感染症の薬物治療		13.50	0.45							
							免疫と疾患		13.50	0.45							
							免疫のしくみ		11.93	0.40							
							実践薬学演習		3.00	0.10							
							基礎薬学演習		1.50	0.05							
							総合薬学演習		3.00	0.10							

						生命倫理		9.00	0.30
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						病院・薬局実務実習	◎	27.00	0.90
						実務実習後学習		1.50	0.05
						薬学英語演習		10.46	0.35
						薬学総論		9.00	0.30
						事前学習	◎	14.97	0.50
						授業担当時間の合計		197.11	6.57
薬学科	講師	■	■	■	■	生体のなりたち		4.49	0.15
						実感する化学		6.00	0.20
						化学物質の生体への影響		10.46	0.35
						社会・集団と健康		6.00	0.20
						生命体の基本単位としての細胞		6.00	0.20
						基礎薬学演習		1.50	0.05
						事前学習	◎	14.97	0.50
						薬学総論		4.50	0.15
						健康と環境特講		3.00	0.10
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						病院・薬局実務実習	◎	27.00	0.90
						実務実習後学習		1.50	0.05
						薬学英語演習		10.46	0.35
						実習IV	◎	22.50	0.75
					授業担当時間の合計		129.63	4.32	
薬学科	教授 (実務)	■	■	■	■	社会と薬学特講		3.00	0.10
						実習V	◎	43.50	1.45
						臨床推論演習		62.30	2.08
						臨床薬剤学特論	院	10.50	0.35
						調剤		5.97	0.20
						生体機能の調節I		18.00	0.60
						高度医療薬学研修II	院	4.50	0.15
						薬剤師を取り巻く法規		4.49	0.15
						総合薬学演習		1.50	0.05
						生命倫理		18.00	0.60
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						実務実習後学習		13.50	0.45
						薬学英語演習		10.46	0.35
						病院・薬局実務実習	◎	21.00	0.70
事前学習	◎	95.78	3.19						
					授業担当時間の合計		323.75	10.79	
薬学科	准教授 (実務)	■	■	■	■	薬学と社会特講		6.00	0.20
						薬学入門I		33.00	1.10
						実習V	◎	43.50	1.45
						臨床推論演習		62.31	2.08
						薬剤師を取り巻く法規		7.47	0.25
						医薬品管理		7.47	0.25
						総合薬学演習		3.00	0.10
						薬学入門II		37.50	1.25
						生命倫理		18.00	0.60
						病院・薬局実務実習	◎	10.72	0.36
						実務実習後学習		0.29	0.01
						薬学英語学習		10.46	0.35
						事前学習	◎	14.97	0.50
						地域薬局		1.50	0.05
キャリアデザインI		15.00	0.50						
					授業担当時間の合計		271.19	9.04	
薬学科	講師	■	■	■	■	薬学の基礎としての数学A		9.00	0.30
						実習II	◎	33.75	1.13
						製剤の性質		9.00	0.30
						医薬品をつくる特講		3.00	0.10
						物質の状態		18.00	0.60
						物理系薬学特講		4.50	0.15
						実践薬学演習		1.50	0.05
						基礎薬学演習		1.50	0.05
						総合薬学演習		3.00	0.10
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						病院・薬局実務実習	◎	10.72	0.36
						実務実習後学習		1.50	0.05
						薬学英語演習		10.46	0.35
						薬学総論		11.91	0.40
事前学習	◎	14.97	0.50						
					授業担当時間の合計		144.06	4.80	
						化学物質の生体への影響		10.46	0.35
						実習IV	◎	22.50	0.75
						薬学入門I		33.00	1.10
						生体のなりたち		5.98	0.20
						食品衛生		14.95	0.50
						生命体の基本単位としての細胞		1.50	0.05
健康と環境特論		4.50	0.15						

薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	疾病の予防		16.44	0.55						
							セルフメディケーション（１）		1.50	0.05						
							セルフメディケーション（２）		10.50	0.35						
							実践薬学演習		3.00	0.10						
							総合薬学演習		4.50	0.15						
							薬学入門Ⅱ		37.50	1.25						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							病院・薬局実務実習	◎	14.29	0.48						
							実務実習後学習		0.38	0.01						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							薬学総論		8.47	0.28						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
							キャリアデザインⅠ		12.00	0.40						
							授業担当時間の合計								238.15	7.94
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	実習Ⅳ	◎	22.50	0.75						
							食品衛生		5.98	0.20						
							健康と環境特講		1.50	0.05						
							実感する化学		6.00	0.20						
							セルフメディケーション（１）		4.50	0.15						
							セルフメディケーション（２）		9.00	0.30						
							実践薬学演習		1.50	0.05						
							情報処理基礎		22.50	0.75						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							病院・薬局実務実習	◎	24.00	0.80						
							実務実習後学習		1.50	0.05						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							薬学総論		3.00	0.10						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
授業担当時間の合計								138.66	4.62							
薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬になる動植物		9.00	0.30						
							統計解析と臨床研究		4.49	0.15						
							病原体としての微生物		5.99	0.20						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							コミュニケーション交流学習		30.00	1.00						
							基礎薬学演習		4.50	0.15						
							薬学総論		3.00	0.10						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							実習Ⅲ	◎	22.50	0.75						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
							実務実習後学習		1.50	0.05						
							病院・薬局実務実習	◎	12.00	0.40						
							授業担当時間の合計								129.66	4.32
							薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬剤設計学特論	院	9.00
実習Ⅴ	◎	43.50	1.45													
薬物の臓器への到達と消失		9.00	0.30													
医薬品をつくる特講		1.50	0.05													
医薬品製剤安定性特論	院	10.50	0.35													
製剤とDDS		7.50	0.25													
薬物動態解析		15.00	0.50													
英語Ⅳ		4.50	0.15													
薬学英語Ⅱ		4.50	0.15													
セルフメディケーション（１）		3.00	0.10													
セルフメディケーション（２）		9.00	0.30													
実践薬学演習		1.50	0.05													
総合薬学演習		3.00	0.10													
ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38													
病院・薬局実務実習	◎	36.00	1.20													
実務実習後学習	◎	4.50	0.15													
薬学英語演習		10.50	0.35													
薬学総論		10.50	0.35													
事前学習	◎	47.89	1.60													
製剤とDDS（集中）		7.50	0.25													
授業担当時間の合計								249.64	8.32							
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	人体の成り立ちと機能ⅠA		18.00	0.60						
							生体機能の調節Ⅰ		18.00	0.60						
							薬の効くメカニズム		18.00	0.60						
							末梢神経系に作用する薬		18.00	0.60						
							代謝性・呼吸器疾患の薬・病態・治療		9.00	0.30						
							臨床推論演習		62.31	2.08						
							医薬品をつくる特講		18.00	0.60						
							実践薬学演習		9.00	0.30						
							総合薬学演習		3.00	0.10						
							生命倫理		18.00	0.60						
							病院・薬局実務実習	◎	27.00	0.90						
							実務実習後学習		1.50	0.05						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							薬学総論		15.00	0.50						
事前学習	◎	95.78	3.19													

						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						実習Ⅳ	◎	22.50	0.75
						授業担当時間の合計		374.80	12.49
薬学科	教授	■	■	■	■	基礎有機化学Ⅰ		15.00	0.50
						基礎有機化学Ⅱ		9.00	0.30
						ターゲット分子の合成		10.48	0.35
						生体分子の構造と化学的性質		4.49	0.15
						医薬品の化学構造と性質		13.46	0.45
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
						総合薬学演習		3.00	0.10
						病院・薬局実務実習	◎	10.72	0.36
						化学系薬学特講		4.50	0.15
						実務実習後演習		0.29	0.01
						薬学英語演習		10.46	0.35
						薬学総論		2.39	0.08
						事前学習	◎	14.97	0.50
						(集中) 生体分子の構造と化学的性質		4.49	0.15
						生理活性素材学特論	院	12.00	0.40
						生体分子解析学特論	院	1.50	0.05
						授業担当時間の合計		161.72	5.39
薬学科	教授	■	■	■	■	機器分析学		9.00	0.30
						薬局方収載の試験法		9.00	0.30
						分析技術の臨床応用		4.50	0.15
						臨床検査		3.00	0.10
						応用分析化学		4.50	0.15
						物理系薬学特講		1.50	0.05
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						薬学英語演習		10.46	0.35
						薬学総論		1.50	0.05
						実習Ⅰ	◎	22.50	0.75
						実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
						事前学習	◎	14.97	0.50
						病院・薬局実務実習	◎	18.00	0.60
						実務実習後学習		1.50	0.05
						生体分子解析学特論	院	12.00	0.40
						授業担当時間の合計		157.43	5.25
薬学科	教授 (実務)	■	■	■	■	薬学入門Ⅰ		33.00	1.10
						薬学入門Ⅱ		37.50	1.25
						薬学概論		3.00	0.10
						コミュニケーション交流学習		30.00	1.00
						生命倫理		36.00	1.20
						薬物の臓器への到達と消失		5.98	0.20
						悪性腫瘍の薬・病態・治療		3.00	0.10
						病原微生物と感染症		2.99	0.10
						調剤		4.48	0.15
						臨床推論演習		62.31	2.08
						事前学習	◎	95.78	3.19
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						医薬品をつくる特講		1.50	0.05
						総合薬学演習		3.00	0.10
						薬学総論		9.00	0.30
						キャリアデザインⅠ		15.00	0.50
						病院・薬局実務実習	◎	60.00	2.00
						実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
						薬学英語演習		10.46	0.35
						実務実習後学習		9.00	0.30
						授業担当時間の合計		476.75	15.89
薬学科	助教	■	■	■	■	薬物の基礎としての数学B		8.00	0.27
						実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
						薬物の臓器への到達と消失		2.99	0.10
						製剤とDDS		2.99	0.10
						薬物動態解析		5.98	0.20
						英語Ⅳ		4.50	0.15
						薬学英語Ⅱ		4.50	0.15
						コミュニケーション交流学習		30.00	1.00
						セルフメディケーション(1)		3.00	0.10
						総合薬学演習		1.50	0.05
						病院・薬局実務実習	◎	18.00	0.60
						実務実習後学習		0.75	0.03
						薬学英語演習		10.46	0.35
						製剤とDDS(集中講義)		2.99	0.10
						薬学総論		3.00	0.10
						事前学習		14.97	0.50
						ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
						授業担当時間の合計		168.38	5.61
						実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
						医薬品の化学構造と性質		4.50	0.15

薬学科	助教	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生体分子の構造と化学的性質		4.50	0.15						
							化学の基礎		9.00	0.30						
							情報処理基礎		22.50	0.75						
							病院・薬局実務実習	◎	18.00	0.60						
							薬学英語演習		10.50	0.35						
							基礎薬学演習		3.00	0.10						
							薬学総論		1.50	0.05						
							事前学習		14.97	0.50						
							授業担当時間の合計								122.22	4.07
							薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	物質のエネルギー		18.00
物質の構造と相互作用		15.00	0.50													
化学反応速度		18.00	0.60													
基礎薬学演習		4.50	0.15													
物理系薬学特講		4.50	0.15													
物理へのファースト・ステップ		12.00	0.40													
総合薬学演習		3.00	0.10													
薬学総論		1.50	0.05													
病院・薬局実務実習	◎	6.00	0.20													
実務実習後学習		1.50	0.05													
薬学入門Ⅰ		33.00	1.10													
薬学入門Ⅱ		37.50	1.25													
実習Ⅱ	◎	33.75	1.13													
バーチャルスクリーニング解析学特論	院	22.50	0.75													
放射線統合解析学特論	院	10.50	0.35													
医療情報データベース特論	院	18.00	0.60													
キャリアデザインⅠ		12.00	0.40													
事前学習	◎	14.97	0.50													
授業担当時間の合計														266.22	8.87	
薬学科	講師 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生命倫理		39.00	1.30						
							調剤		3.00	0.10						
							薬剤師を取り巻く法規		3.00	0.10						
							地域薬局		8.98	0.30						
							臨床推論演習		69.23	2.31						
							事前学習	◎	95.78	3.19						
							実務実習後学習		9.00	0.30						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							薬学総論		9.00	0.30						
							薬学入門Ⅰ		33.00	1.10						
							薬学入門Ⅱ		37.50	1.25						
							病院・薬局実務実習	◎	40.50	1.35						
							授業担当時間の合計								359.24	11.97
薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	有機化学Ⅰ		9.00	0.30						
							基礎有機化学Ⅱ		9.00	0.30						
							実習Ⅱ	◎	33.75	1.13						
							基礎有機化学Ⅰ		3.00	0.10						
							有機化学Ⅱ		9.00	0.30						
							化学系薬学特論		6.00	0.20						
							英語Ⅳ		4.50	0.15						
							薬学英語Ⅱ		4.50	0.15						
							ターゲット分子の合成		8.99	0.30						
							総合薬学演習		3.00	0.10						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							病院・薬局実務実習	◎	10.72	0.36						
							実務実習後学習		0.29	0.01						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							薬学総論		2.39	0.08						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
生理活性素材学特論	院	10.50	0.35													
授業担当時間の合計								151.32	5.04							
薬学科	教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	病原微生物と感染症		13.48	0.45						
							統計解析と臨床研究		7.49	0.25						
							実習Ⅴ	◎	43.50	1.45						
							臨床推論演習		62.31	2.08						
							薬学入門Ⅱ		37.50	1.25						
							高度医療薬学研修Ⅱ		1.50	0.05						
							総合薬学演習		3.00	0.10						
							病院・薬局実務実習	◎	10.72	0.36						
							実務実習後学習		0.29	0.01						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
キャリアデザインⅠ		15.00	0.50													
授業担当時間の合計								220.22	7.34							
							薬物の宝庫としての天然物		18.00	0.60						
							物質の基本概念		7.50	0.25						
							コミュニケーション交流学習		30.00	1.00						
							生命倫理		18.00	0.60						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
物質の構造と相互作用		3.00	0.10													

薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	天然物化学		19.46	0.65						
							英語Ⅳ		4.50	0.15						
							薬学入門Ⅱ		37.50	1.25						
							基礎薬学演習		3.00	0.10						
							キャリアデザインⅠ		15.00	0.50						
							薬学の基礎となる化学B		12.00	0.40						
							薬学総論		2.40	0.08						
							実務実習後学習		0.30	0.01						
							実習Ⅱ	◎	33.75	1.13						
							病院・薬局実務実習	◎	15.00	0.50						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
							授業担当時間の合計								245.63	8.19
							薬学科	講師	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生命情報を担う遺伝子		7.48
ゲノム情報と創薬		9.00	0.30													
バイオ・細胞医薬品		5.96	0.20													
実習Ⅲ	◎	22.50	0.75													
薬学入門Ⅰ		33.00	1.10													
薬学入門Ⅱ		37.50	1.25													
キャリアデザインⅠ		12.00	0.40													
コミュニケーション交流学習		30.00	1.00													
生命倫理		18.00	0.60													
実践薬学演習		1.50	0.05													
総合薬学演習		3.00	0.10													
薬学英語演習		10.46	0.35													
生物系薬学特講		2.00	0.07													
事前学習	◎	14.97	0.50													
病院・薬局実務実習	◎	15.00	0.50													
実務実習後学習		0.50	0.02													
薬学総論		3.00	0.10													
ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38													
生体のなりたち		6.00	0.20													
セルフメディケーション(2)		9.00	0.30													
生物学概論		0.00	0.00													
授業担当時間の合計								252.12	8.40							
薬学科	教授	■■■■■	■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	生命情報を担う遺伝子		7.48	0.25						
							ゲノム情報と創薬		9.00	0.30						
							バイオ・細胞医薬品		5.96	0.20						
							実習Ⅲ	◎	22.50	0.75						
							生体のなりたち		8.00	0.27						
							生体機能の調節Ⅰ		18.00	0.60						
							コミュニケーション交流学習		30.00	1.00						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							生物学概論		0.00	0.00						
							実践薬学演習		3.00	0.10						
							総合薬学演習		6.00	0.20						
							基礎薬学演習		1.50	0.05						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							生物系薬学特講		2.00	0.07						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
							病院・薬局実務実習	◎	48.00	1.60						
							実務実習後学習		1.50	0.05						
							薬学総論		3.00	0.10						
							薬効解析科学特論	院	4.00	0.13						
							細胞分子構造学特論	院	4.00	0.13						
授業担当時間の合計								210.62	7.02							
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生体エネルギー代謝		10.50	0.35						
							生体調節分子		6.00	0.20						
							医薬品管理		1.50	0.05						
							実習Ⅳ	◎	22.50	0.75						
							物質の構造と放射線		16.43	0.55						
							分析技術の臨床応用		4.50	0.15						
							生命体の基本としての細胞		1.50	0.05						
							物理系薬学特講		1.50	0.05						
							生物系薬学特講		4.50	0.15						
							基礎薬学演習		1.50	0.05						
							実践薬学演習		1.50	0.05						
							総合薬学演習		3.00	0.10						
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38						
							事前学習	◎	14.97	0.50						
							病院・薬局実務実習	◎	10.70	0.36						
							実務実習後学習		1.00	0.03						
							薬学英語演習		10.46	0.35						
							放射線統合解析学特論	院	12.00	0.40						
							細胞分子構造学特論	院	6.00	0.20						
							授業担当時間の合計								141.31	4.71
							生命活動を担うアミノ酸・タンパク質代謝系		18.00	0.60						
							生体調節分子		12.00	0.40						
							代謝系・呼吸器系疾患の薬・病態・治療		9.00	0.30						

薬学科	教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療	7.47	0.25	
							英語Ⅳ		4.50	0.15
							実習Ⅲ	◎	22.50	0.75
							博士論文応用演習Ⅰ	院	18.00	0.60
							博士論文応用演習Ⅱ	院	18.00	0.60
							実践薬学演習		1.50	0.05
							基礎薬学演習		1.50	0.05
							総合薬学演習		1.50	0.05
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
							病院・薬局実務実習	◎	9.00	0.30
							実務実習後学習		1.50	0.05
							薬学英語演習		10.46	0.35
							薬学総論		4.50	0.15
							事前学習	◎	14.97	0.50
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授 (実務)	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	薬学入門Ⅰ	33.00	1.10	
							薬学入門Ⅱ	37.50	1.25	
							キャリアデザインⅠ	15.00	0.50	
							コミュニケーション交流学習	30.00	1.00	
							生命倫理	18.00	0.60	
							臨床推論演習	62.31	2.08	
							患者の視点に立った行動	9.00	0.30	
							英語Ⅳ		4.50	0.15
							実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
							社会・集団と健康		6.00	0.20
							事前学習	◎	95.78	3.19
							薬学英語演習		10.46	0.35
							病院・薬局実務実習	◎	10.72	0.36
							実務実習後学習		13.50	0.45
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
							薬学総論		6.00	0.20
							公衆衛生学特論	院	7.50	0.25
							授業担当時間の合計			
薬学科	准教授	■■■■■	■	■	■■■■■	■■■■■	中枢神経系疾患の薬・病態・治療Ⅰ	20.93	0.70	
							中枢神経系疾患の薬・病態・治療Ⅱ	20.93	0.70	
							生体機能の調節Ⅰ	18.00	0.60	
							生体機能の調節Ⅱ	4.50	0.15	
							人体の成り立ちと機能Ⅱ	20.93	0.70	
							生殖器系・内分泌系疾患の薬・病態・治療	7.47	0.25	
							コミュニケーション交流学習	30.00	1.00	
							実習Ⅳ	◎	22.50	0.75
							ファーマシューティカルケア総合演習		11.25	0.38
							生命倫理		18.00	0.60
							臨床推論演習		62.31	2.08
							事前学習	◎	95.78	3.19
							実務実習後学習		4.50	0.15
							病院・薬局実務実習	◎	27.00	0.90
							薬学英語演習		10.46	0.35
							基礎薬学演習		1.50	0.05
							実践薬学演習		3.00	0.10
							総合薬学演習		3.00	0.10
薬学総論		13.50	0.45							
授業担当時間の合計							395.55	13.19		

(以下に同じ様式で記入欄を追加し、基礎資料7(専任教員の教育担当状況 例示)に従って記入してください)

- 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。  
なお、薬学系の大学院の授業を担当している場合、その科目も記載ください。
- 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。  
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。  
※複数科目で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。  
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 「年間で平均した週当たり授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。  
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況(続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間	
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
							事前学習	◎	14.97	0.50
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅳ	◎	22.50	0.75
							事前学習	◎	14.97	0.50
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅰ	◎	22.50	0.75
							実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
							事前学習	◎	14.97	0.50
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅰ	◎	22.50	0.75
							実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
							事前学習	◎	14.97	0.50
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅱ	◎	33.75	1.13
							事前学習	◎	14.97	0.50
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	臨床推論演習	◎	15.57	0.52
							実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
							事前学習	◎	14.97	0.50
							薬局・病院実務実習	◎	5.35	0.18
							実務実習後学習	◎	0.90	0.03
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅴ	◎	43.50	1.45
							事前学習	◎	14.97	0.50
							薬局・病院実務実習	◎	2.14	0.07
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅲ	◎	22.50	0.75
							事前学習	◎	14.97	0.50
薬学科	助手	■■■■■	■	■	■	■■■■■	実習Ⅳ	◎	22.50	0.75
							事前学習	◎	14.97	0.50

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
		該当者なし							

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

# 基礎資料8



(基礎資料8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

6年生の在籍学生数	154 名
5年生の在籍学生数	146 名
4年生の在籍学生数	140 名

2019年5月1日現在

	配属講座など	指導教員数	6年生 配属学生数	5年生 配属学生数	4年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m <sup>2</sup> )
1	医薬品化学研究室	3	13	6	8	27	106.0
2	活性分子物理化学研究室	2	9	10	7	26	124.0
3	生体機能解析学研究室	2	9	6	7	22	97.0
4	衛生薬学研究室	2	3	6	6	15	111.0
5	病態生理・ゲノム機能学研究室	3 (*)	7	5	6	18	106.0
6	生化学研究室	3 (*)	6	6	7	19	132.0
7	分子免疫学研究室	2	8	8	7	23	124.0
8	免疫生物学研究室	2	7	7	7	21	118.0
9	薬品分析化学研究室	2	7	8	7	22	106.0
10	臨床分析化学研究室	2	7	6	8	21	106.0
11	医療薬剤学研究室	3	10	9	9	28	118.0
12	漢方薬物解析学研究室	4 (*)	11	8	10	29	106.0
13	製剤物理化学研究室	3	10	9	6	25	111.0
14	実践医療薬学研究室	5	0	5	7	12	70.0
15	放射薬品化学研究室	2	9	8	7	24	111.0
16	薬剤情報解析学研究室	3	9	10	10	29	97.0
17	薬剤設計学研究室	2 (*)	5	6	0	11	106.0
18	薬物治療学研究室	2	9	7	8	24	118.0
19	薬物動態学研究室	3 (*)	5	8	6	19	106.0
20	薬理学研究室	3	10	8	7	25	118.0
	合 計	53	154	146	140	440	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。  
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。  
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。  
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11・2に記載してください。  
 ※ 指導教員数に、非常勤助手1名を含んでいます。



# 基礎資料9



## (基礎資料 9) 専任教員の教育および研究活動の業績 (休職中の1名を除く)

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 免疫生物学	職名 教授	氏名 赤崎 健司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・ 図解、映像の作製  ・ 確認テストの実施  ・ 練習問題  ・ 授業評価		2017年4月～現在	授業内容を学生が理解しやすいように、教科書にない図解や映像を作成して理解を促進した。  確認テスト、図解等は学内のWEBシステム（セレッソ）を利用して学生に配信、採点した。  講義終了後確認テストを行い、次の授業で解説を行い質疑応答をした。  前後期4科目の授業評価をうけ、授業の改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 薬系免疫学（第3版） ・ 予防薬学としての衛生薬学（第3版）		2018年2月 2016年12月	予防接種に関連する項目の執筆した。 廃棄物処理法、環境基本法に関連する項目の執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD研修会の企画・実施		2017年12月  2015年8月	セレッソを利用した「ハラスメントチェック」の企画実施した。  「画像不正と疑われないための画像処理」の企画実施した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Targeting of Wild-Type and Mutated Forms of Lysosome-Associated Membrane Protein-1 (LAMP-1) to Late Endosomes/Lysosomes Depends on Affinities of Their Cytoplasmic Tail Peptides with a Medium Subunit of Adaptor Protein Complex-3 (AP-3)	共著	2019年10月	BPB Reports 2巻・5号
（論文） The major lysosomal membrane proteins LAMP-1 and LAMP-2 participate in differentiation of C2C12 myoblasts	共著	2018年8月	Biol. Pharm. Bull. 41巻・8号
（論文） b-Taxilin participates in differentiation of C2C12 myoblasts into myotubes.	共著	2016年7月	Exp. Cell Res. 345巻・3号
（論文） Involvement of microRNA214 and transcriptional regulation in reductions in mevalonate pyrophosphate decarboxylase mRNA levels in stroke-prone spontaneously hypertensive rat livers.	共著	2015年11月	Biosci. Biotechnol. Biochem. 21巻・3号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） リソソーム膜タンパク質（LAMP-1）のリソソーム標的シグナル（GYQTI）のG→N変異体のリソソーム移行量は減少する		2020年3月	日本薬学会 第140年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2011年4月～現在	薬学共用試験センター CBT委員		
2011年10月～現在	日本生化学会評議員		
2016年10月～現在	日本生化学会各種授賞選考委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 生体機能解析学	職名 教授	氏名 石津 隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2019年1月11, 18日	レギュラトリーサイエンスの必要性和意義を理解させるために適切なテーマによるSGDを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・わかりやすい薬事関係法規・制度 第4版  ・新編 医薬化学  ・ソロモンの新有機化学 I, II, III		2018年3月31日  2018年3月10日  2015年2月26日	「第10章 麻薬等の取締法」の部分を執筆した。(廣川書店)  「第5章 自律神経系に作用する医薬品」の部分を執筆した。(廣川書店)  翻訳協力者した。(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし。			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会の企画・実施		2016年11月24日	薬学部教職員を対象とレギュラトリーサイエンスに関するFDを行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Molecular capture using the precipitate of creaming-down by (-)-epigallocatechin-3-O-gallate	共著	2019年5月	日本薬学会、Chem.Pharm.Bull.67(5),501-504
(論文) Chiral Recognition of Pharmaceuticals having a Xanthine Skeleton by (-)-Epigallocatechin-3-O-gallate in Water	共著	2018年6月	日本薬学会、Chem.Pharm.Bull.66(6),620-623
(論文) Conformational Change and Epimerization of Diketopiperazines Containing Proline Residue in Water	共著	2017年8月	日本薬学会、Chem.Pharm.Bull.65(8),598-602
(論文) Mechanism of Creaming Down Based on Chemical Characterization of a Complex of Caffeine and Tea Catechins	共著	2016年7月	日本薬学会、Chem.Pharm.Bull.64(7),676-686
(論文) Chiral Recognition of Dikeopiperazine Cyclo(Pro-Gly) and Propranolol using (-)-Epigallocatechin-3-O-Gallate	共著	2016年2月	日本薬学会、Chem.Pharm.Bull.64(2),142-149
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2008年4月~2015年3月	日本化学会代表正会員		
2011年4月~現在	日本薬学会代議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬物治療学	職名 教授	氏名 井上 敦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		～現在	「生体機能の調節」「循環器」「消化器」「血液・造血器」に関して、病態と治療薬について授業を行っている。授業評価5点満点中4以上を目指して分かりやすい話し方を心がけ、目標を到達した。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料の作成		～現在	教科書を使用し、補充する点をプリントにして配布している。学習度合いを確認できる小問題を作成してプリントとして配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Bradykinin and interleukin-1b synergistically increase the expression of cyclooxygenase-2 through the RNA-binding protein HuR in rat dorsal root ganglion cells	共著	2019年2月	Neuroscience Letters
（論文） Shogaol but not gingerol has a neuroprotective effect on hemorrhagic brain injury: Contribution of the $\alpha,\beta$ -unsaturated carbonyl to heme oxygenase-1 expression	共著	2019年1月	European Journal of Pharmacology
（論文） <i>Curcuma</i> sp.-derived dehydrocurdione induces heme oxygenase-1 through a Michael reaction between its $\alpha,\beta$ -unsaturated carbonyl and Keap1	共著	2018年1月	Phytotherapy Research
（論文） Fabrication and characterization of water-dispersed chitosan nanofiber/poly(ethylene glycol) diacrylate/calcium phosphate-based porous composites	共著	2017年10月	Carbohydrate Polymers
（論文） Claudin domain containing 1 contributing to endothelial cell adhesion decreases in presence of cerebellar hemorrhage	共著	2017年2月	Journal of Neuroscience Research
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） サテライトグリア細胞におけるCOX-2発現誘導持続機構について		2020年3月	薬学会年会
（演題名） 脳出血後のミクログリア分極および形態形成に対するガドリニウムの効果		2020年3月	薬学会年会
（演題名） サテライトグリア細胞におけるCOX-2発現の転写後調節について		2020年3月	薬理学会年会
（演題名） 出血性脳障害に対する三塩化ガドリニウムの保護機構		2020年3月	薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	日本薬学会薬理系薬学部世話人		
～現在	日本神経化学会評議員		
～現在	日本薬理学会学術評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 臨床分析化学	職名 教授	氏名 井上 裕文
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・アクティブラーニングの実践  ・学生による授業評価アンケートの実施		2016年度～現在  2016年度～現在	薬学入門Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーション交流学习、基礎薬学演習、応用分析化学でSGDなどによるアクティブラーニングを実践した。  授業評価アンケート結果を考慮し、配布プリントや講義の進行度などを改善した。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義プリント作成  ・実習Ⅰ・Ⅱ（分析化学系）実習書		2016年度～現在  2016年度～現在	基礎分析化学A・Bの講義プリントを作成した。  容量分析法・機器分析の実習内容のテキストを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第1回日本薬学教育学会大会  ・第3回日本薬学教育学会大会		2016年 8月27, 28日  2018年 9月1, 2日	福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み-役立ち感・自己肯定感を育み、ホスピタリティを涵養するために-を発表した。  福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み(5) —情緒不安定性、誠実性、調和性と自己評価の関係—を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・薬学部FD研修会で講演		2016年3月	実習における評価 —ルーブリック評価の利用について-を講演し、実践例を紹介した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Determination of Short-Chain Fatty Acids in Mouse Feces by High-Performance Liquid Chromatography Using 2-Nitrophenylhydrazine as a Labeling Reagent	共著	2019年5月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, Vol.42, No.5, 845-849
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）エルネオパNF 1号及び2号輸液中に混注されたオクトレオチドの安定性に関する検討		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み(6) —交流学习を終えた一学生の学びと自己成長—		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
（演題名）コーチング技法を使用して学生同士の生活習慣改善を試みた講義・演習の実施と評価およびその改善に向けた調査（その1）		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2016年度～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして8回参加		
2013年4月～現在	薬学共用試験センター CBT委員		
2015年4月～現在	日本分析化学会中国四国支部幹事		
2017年8月～2018年5月	第78回分析化学討論会実行委員会		
2017年度～2018年度	日本薬学会 若手薬学教育者のためのアドバンスドワークショップ実行委員（第3回～第4回）		
2016年度～2018年度	日本薬学会 全国学生ワークショップ 実行委員（第6回～第8回）		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬剤情報解析学研究室	職名 教授	氏名 江藤 精二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2019年6月	PBLによる症例検討演習。評価は、患者情報の把握、医薬品情報の把握、薬物療法の問題点の評価と問題解決・個別最適化および薬物療法の効果と副作用モニタリングの中項目について、ルーブリック評価により評価した。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・福山市薬剤師会シリーズ研修会  ・福山市薬剤師会シリーズ研修会		2019年7～8月  2017年7～8月	「分かりやすい分子標的薬と免疫療法によるがん治療」について3回講演した。  「分子標的抗がん剤」について3回講演した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）視線による処方監査能力の点数化の検討	共著	2017年3月	情報処理学会第79回全国大会論文集（79）385-386
（論文）薬学部における視線を利用した熟達度評価の試み	共著	2016年8月	日本教育情報学会年會年會論文集（32）322-323
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）PMDAの医薬品副作用データベースを利用した副作用解析—分子標的薬及び免疫チェックポイント阻害薬による間質性肺炎について—		2020年3月	日本薬学会
（演題名）メサラジン腸溶錠（アサコール）を後発医薬品に変更した症例の検討		2019年11月	日本医療薬学会
（演題名）メサラジン錠の先発医薬品から後発医薬品への切り替えによる治療効果の減弱—溶出挙動からの考察—		2019年11月	日本医療薬学会
（演題名）ラベプラゾール腸溶錠の先発医薬品から後発医薬品への切り替えによる治療効果の減弱—溶出挙動からの考察—		2019年11月	日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～現在	中国中央病院倫理委員会外部委員（毎月1回）		
2010年4月～現在	中国中央病院IRB（治験審査委員会）外部委員（毎月1回）		
2017年4月～現在	日本医薬品安全性学会評議員		
2010年4月～現在	日本病院薬剤師会雑誌論文審査員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬物治療学	職名 准教授	氏名 大西 正俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		～現在	学生主体のアクティブラーニングが可能な領域には積極的に取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料の作成		～現在	パワーポイント資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014		2014年8月30日	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014 教育セミナー「6年制薬学生の研究とキャリアパス」を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会講演		2018年9月14日	第5回 福山大学教育改革シンポジウム (FD・SD 研修) 「言語教育を考える」にて講演した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Bradykinin and interleukin-1b synergistically increase the expression of cyclooxygenase-2 through the RNA-binding protein HuR in rat dorsal root ganglion cells	共著	2019年2月	Neuroscience Letters
(論文) Shogaol but not gingerol has a neuroprotective effect on hemorrhagic brain injury: Contribution of the a, b-unsaturated carbonyl to heme oxygenase-1 expression	共著	2019年1月	European Journal of Pharmacology
(論文) <i>Curcuma</i> sp.-derived dehydrocurdione induces heme oxygenase-1 through a Michael reaction between its a, b-unsaturated carbonyl and Keap1	共著	2018年1月	Phytotherapy Research
(論文) Fabrication and characterization of water-dispersed chitosan nanofiber/ poly(ethylene glycol) diacrylate/calcium phosphate-based porous composites	共著	2017年10月	Carbohydrate Polymers
(論文) Claudin domain containing 1 contributing to endothelial cell adhesion decreases in presence of cerebellar hemorrhage	共著	2017年2月	Journal of Neuroscience Research
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) サテライトグリア細胞におけるCOX-2発現誘導持続機構について		2020年3月	薬学会年会
(演題名) 脳出血性後のミクログリア分極および形態形成に対するガドリニウムの効果		2020年3月	薬学会年会
(演題名) サテライトグリア細胞におけるCOX-2発現の転写後調節について		2020年3月	薬理学会年会
(演題名) 出血性脳障害に対する三塩化ガドリニウムの保護機構		2020年3月	薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2013年8月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人		
2014年10月～現在	日本医薬品安全性学会社員		
2015年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
2013年9月～現在	福山市医師会看護専門学校非常勤講師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 漢方薬物解析学	職名 教授	氏名 岡村 信幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		～現在	講義は図表を多用したPowerPointで行い、小テストや質問など通した双方向授業を実施した。配布プリントは重要な箇所やまとめを学生自身が記入できるように工夫した。ヒューマンズムやコミュニケーション系の講義・演習では、気づきの学習による学生の行動変容を促し、モチベーションが高まるように工夫した。
・授業評価		2018年度	授業評価：4.75（総ての評価項目における3科目平均）であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・医療薬学 IV. 薬理・病態・薬物治療(4)		2017年6月	副作用 (p. 367～370) を執筆した。(東京化学同人)
・化学系薬学 Ⅲ. 自然が生み出す薬物		2016年10月	副作用 (p. 86～90) を執筆した。(東京化学同人)
・病態からみた漢方薬物ガイドライン第3版		2016年2月	単著として執筆した。(京都廣川書店)
・現代医療における漢方薬改訂第2版		2016年1月	人参剤 (p. 60～63) を執筆した。(南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第2回日本薬学教育学会大会		2017年9月	福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(3)を発表した。
・第3回日本薬学教育学会大会		2018年9月	福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(4)・(5)を発表した。
・第4回日本薬学教育学会大会		2019年8月	福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(6)を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Determination of short-chain fatty acids in mouse feces by high-performance liquid chromatography using 2-nitrophenylhydrazine as a labeling reagent.	共著	2019年5月	Biol. Pharm. Bull., Vol.42, No.5
(論文) Daiokanzoto (Da-Huang-Gan-Cao-Tang) is an effective laxative in gut microbiota associated with constipation.	共著	2019年3月	Scientific Reports, doi:10.1038/s41598-019-40278-2
(論文) Rhein 8-O-β-D-Glucopyranoside Elicited the Purgative Action of Daiokanzoto	共著	2016年3月	Biol. Pharm. Bull., Vol.39, No.3
(著書) 腸内細菌叢とのクロストークを介する漢方薬の有用性	共著	2019年12月	Hormone Frontier in Gynecology, vol.26, No.4
(著書) 大黃と腸内細菌叢とのクロストーク	共著	2017年11月	漢方と最新治療(第26巻第4号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 食餌による腸内細菌叢の違いでDSS誘発性大腸炎の病態は変化する		2020年3月	日本薬学会第140回年会
(演題名) 食餌の違いによる腸内細菌叢の変化は潰瘍性大腸炎の発症に影響を及ぼす		2019年11月	第58回日本薬学会中国四国支部学術大会
(演題名) 食餌の違いはセンノシドAの腸内代謝に影響を及ぼす		2019年8月	第36回和漢医薬学会
(演題名) 福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(6)		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2001年9月～2017年8月	和漢医薬学会評議員
2006年4月～現在に至る	日本生薬学会関西支部委員
2013年4月～現在に至る	日本薬学会代議員
2016年4月～現在に至る	日本生薬学会代議員

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬剤設計学	職名 教授	氏名 片山 博和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・授業評価		2018年度前期 2018年度後期 2017年度後期	「DDS」：満足度4.5、学習の成果4.0であった。 「製剤とDDS」：満足度4.3、学習の成果4.0であった。 「製剤とDDS」：満足度3.4、学習の成果3.6であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・最新薬剤学（第11版）		2018年4月30日	2.8「製剤の安定性と安定化」、4.5「直腸に投与する製剤、腔に投与する製剤および皮膚などに適用する製剤」の部分を執筆した。（廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・薬剤学教科担当教員会議 ・医薬品情報学教科担当教員会議		2015年5月～現在 2015年6月～現在	会議へ出席した。（5回、年1回） 会議へ出席した。（5回、年1回）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Effects of Carnitine on Valproic Acid Pharmacokinetics in Rats.	単著	2016年10月	Journal of Pharmaceutical Sciences vol.105 No.10
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）肺からの薬物吸収（18） -摘出肺還流法による低分子薬物の経肺吸収について-		2020年3月	日本薬学会第140年会（京都）
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年3月～2018年3月	在宅支援薬剤師専門研修（輸液の調製）の講師（3回）		
2016/9月	福山市薬剤師会シリーズ講義の講師「薬剤学」（3回）		
2018年9月22日	無菌調剤技術に関する講義及び実技実習		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 生化学研究室	職名 准教授	氏名 上敷領 淳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・ 講義の工夫		～現在	学生が授業内容を理解しやすくするために、なるべく学生にとってなじみのありそうな話題を周辺情報として織り交ぜながら講義をするように心がけた。また、講義では教科書の他に配布プリントを作成したり、毎回確認テストを行ったりしながら、学生の理解度に応じた講義内容になるように心がけた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 薬剤師が実践するフィジカルアセスメント～健康サポートに必要な知識と技能～ ・ 健康寿命の延伸支援に役立つ基礎知識 生活習慣を改善する栄養指導・運動指導のために ・ 生命活動と生化学への展開 生体反応の理解に対するコンピテンスをめざして (第2版) ・ 改訂版 薬剤師が実践するフィジカルアセスメント～健康サポートに必要な知識と技能～ ・ 改訂版 健康寿命の延伸支援に役立つ基礎知識生活習慣を改善する栄養指導・運動指導のために		2015年3月 2015年5月 2017年3月 2018年3月 2019年6月	第2章 1. 3) 脈拍、3. 6) 血糖値、7) グリコヘモグロビン(HbA1c)の部分を執筆した。 第3章 糖尿病、第4章 脂質異常症、第5章 高血圧、第6章 大血管障害合併症、第10章 生活習慣病を防ぐ食習慣の部分を執筆した。 第2章 2-2 脂質、第5章 脂質代謝の部分を執筆した。 第2章 1. 3) 脈拍、3. 6) 血糖値、7) グリコヘモグロビン(HbA1c)の部分を執筆した。 第3章 糖尿病、第4章 脂質異常症、第5章 高血圧、第6章 大血管障害合併症、第10章 生活習慣病を防ぐ食習慣の部分を執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD研修会への参加		～現在	大学や学部主催のFD活動に積極的に参加し、その成果を授業改善、学生指導に活かすなど、教育改善に取り組んだ。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 改訂版 健康寿命の延伸支援に役立つ基礎知識 生活習慣を改善する栄養指導・運動指導のために	共著	2019年6月	ふくろう出版
(著書) 改訂版 薬剤師が実践するフィジカルアセスメント～健康サポートに必要な知識と技能～	共著	2018年3月	ふくろう出版
(論文) Claudin domain containing 1 contributing to endothelial cell adhesion decreases in presence of cerebellar hemorrhage.	共著	2017年10月	J.Neurosci.Res. 95:2051-2058
(論文) Effects of Catechins and Their Related Compounds on Cellular Accumulation and Efflux Transport of Mitoxantrone in Caco-2 Cell Monolayers.	共著	2017年5月	J.Food Sci. 82:1224-1230
(論文) N-terminal domain of the cholesterol transporter Niemann-Pick C1-like 1(NPC1L1) is essential for $\alpha$ -tocopherol transport.	共著	2017年4月	Biochem.Biophys.Res.Commun. 486:476-480
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) プロゲステロンによるマウス乳癌FM3A細胞からのmTOR系を介するリポタンパク質リパーゼの分泌		2019年9月	第92回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年4月～現在	日本薬学会会員		
2015年4月～現在	日本生化学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 医療薬剤学	職名 講師	氏名 木平 孝高
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・授業評価		2019年7月19日	授業評価アンケート結果質問1～7の平均4.76 質問8～14の平均4.13であった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月1日 2017年～現在 2017年～現在	高血圧PBLシナリオおよびチューターマニュアル を作成した。 実務実習薬局・病院連携ツールを作成した。 実務実習事前訪問し実習説明マニュアルを作成 した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ACM SIGUCCS 2019 Annual conferenceにて発表		2019年11月5日	SIGUCCS 2019にて大学アセスメントに関して発 表した。 Automating a part of the assessment of a university using excel
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・大学アセスメントの作成		2018年4月～現在	大学アセスメントの作成に関し、全学生の成績 から資質修得度を集計するエクセルマクロを作 成した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Development of a novel aortic dissection mouse model and evaluation of drug efficacy using in vivo assays and database analyses	共著	2019年1月	Hypertension Research vol.37 no.1
（事例報告）心不全患者にピオグリタゾンを投与	共著	2018年5月	広島県薬剤師会誌 vol.43 no.3
（論文）Iron suppresses erythropoietin expression via oxidative stress-dependent hypoxia-inducible factor-2 alpha inactivation.	共著	2017年5月	Lab Invest.vol.97,no.5
（総説）低酸素と生活習慣病	共著	2016年7月	炎症と免疫vol.24,No.4
（論文）Iron-induced skeletal muscle atrophy involves an Akt-forkhead box O3-E3 ubiquitin ligase-dependent pathway.	共著	2016年5月	J Trace Elem Med Biol.vol.35
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）YC-1により誘導されたCHAC1の尿細管上皮細胞における役割		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）エルネオパNF 1号及び2号輸液中に混注されたオクトレオチド の安定性に関する検討		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）Automating a part of the assessment of a university using excel		2019年11月	ACM SIGUCCS 2019 Annual conference
（演題名）改訂実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習～ 平成30年度先行導入での成果～		2019年10月	第39回広島県薬剤師会学術 大会
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組 み（6）		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大 会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年～現在	薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ、タスクフォースとして 3回参加		
2017年～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして5回参加		
2019年～現在	Spandidos publications molecular medicine reports editorial board		
2015年～現在	一般財団法人博慈会老人病研究所客員研究員		
2015年～現在	日本薬理学会評議員		
2018年～現在	学校薬剤師		
2016年～現在	広島県薬剤師会モバイルDI事業協力者		

教育および研究活動の業績一覧							
大学名	福山大学	講座名	薬品分析化学	職名	教授	氏名	小嶋 英二郎
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 ・教育内容の工夫  ・教育方法の工夫  ・学生による授業評価の活用				2015年～現在  ～現在 2014年～現在 2017年～現在  2019年前期実施分	病態モデルシミュレーターを実習に取り入れ、正常と異常の違いを識別できるようにした。  パワーポイント資料を配布し、板書を極力減らした。 効果的と思われる場合は、DVD教材を使用した。 ICT学習支援サービスであるCerezolに演習問題をアップロードし、自己学習を促した。  ほぼ全ての項目で4点（5点満点）前後の評価を得た。 内容理解に関する評価が低めなので、対策を模索中ある。		
2 作成した教科書、教材、参考書 ・アップデート薬学機器分析学  ・（改訂版）薬剤師が実践するフィジカルアセスメント～健康サポートに必要な知識と技能～  ・フィジカルアセスメント～薬剤師に必要な知識と技能～  ・薬学領域の機器分析学（第2版）				2020年3月（出版予定）  2018年3月  2015年3月  2013年4月	臨床分析総論部分を分担執筆、酵素を用いる分析法部分を執筆した。（廣川書店）  全体の編集者の一人、第1章の2および3、第2章の3-5）、第3章の2を執筆した。（ふくろう出版）  全体の編集者の一人、第1章の2および3、第2章の3-5）、第3章の2を執筆した。（ふくろう出版）  第6章分析技術の臨床応用の6-2から6-8部分を執筆した。（廣川書店）		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし							
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・教務委員（大学）  ・教務委員（薬学部）  ・IR委員（薬学部）				2019年現在  2019年現在  2019年現在	学部代表として、全学的な教務上の案件に関わった。  学部内教務委員主任として、学部内の教務上の案件に関わった。  学部内IR委員主任として、教育上の方略作成に有用なデータを提出した。		
II 研究活動							
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
（論文）Determination of short-chain fatty acids in mouse feces by high-performance liquid chromatography using 2-nitrophenylhydrazine as a labeling reagent				共著	2019年1月	Biological & Pharmaceutical Bulletin	
（論文）薬学部での教学IRの試み I -福山大学薬学部での取り組み-				共著	2018年	薬学教育（online journalで冊子体は年1回発行、第2巻、2018）	
（論文）Determination of paroxetine in serum treated with simple pretreatment by pre-column high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonil chloride as a fluorescent labeling reagent.				共著	2016年	Biomedical Chromatography, 27(6)	
（論文）一般市民を対象とした健康フェスティバルにおける慢性閉塞性肺疾患に関する肺年齢測定を伴うヘルスアセスメントおよび意識調査				共著	2016年	医療薬学（第42巻第2号）	

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）地域薬局における血糖値スパイクのスクリーニングとその有用性に関する検討		2019年9月	第38回日本社会薬学会
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み（6）—交流学习を終えた—学生の学びと自己成長—		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2012年～現在	広島びんごフィジカルアセスメント研究会（地域薬剤師との連携活動、年3～5回の活動で、世話人の一人）		
2015年～現在	日本医薬品安全性学会社員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬剤情報解析学	職名 准教授	氏名 五郎丸 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・授業評価の実施  ・確認テストの実施		2015年～現在	毎年、授業評価を実施し、学生が分かりやすい、興味深い講義になるよう心がけた。  毎回講義の最後に確認テストを実施し、学生の理解を深める工夫をした。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料の作成		2015年～現在	担当する社会保障制度に関する講義は、制度改定が頻繁に行われるため、毎年講義資料を更新した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		2015年～現在	大学および薬学部のFD研修会に年間5回以上参加し、得られた知識を講義や実習に生かすよう心がけた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ラベプラゾール腸溶錠の先発品から後発品への切り替えによる治療効果減弱－溶出挙動からの考察－		2019年11月	第29回日本医療薬学会年会
（演題名）メサラジン錠の先発医薬品から後発医薬品への切り替えによる治療効果の減弱－溶出挙動からの考察－		2019年11月	第29回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年11月	第28回日本医療薬学会年会 実行委員		
2015年7月	第1回日本医薬品安全性学会学術大会 実行委員		
2015年～現在	日本医薬品安全性学会 評議員		
2015年～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして5回参加		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 分子免疫学研究室	職名 教授	氏名 今 重之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫  ・全学教育科目に係る授業アンケートにおける エクセレント・ティーチャーズに選抜	～現在  2015年度	授業を寝させない、飽きさせないために、講義内のイベントを多く作る。小テスト20分、講義40分、復習10分、確認テスト20分位を目処に授業内容を分割した。 講義への参加：小テストと確認テスト、講義の最中に学生に質問し、一人ずつ解答させることで、講義への参加を促した。 全ての回の講義資料は、パワーポイントを使用した講義を行い、フルカラーで印刷し、印刷が見にくい時のために、webで資料を再確認できるようにした。  前職の北海道大学の全学科目における授業アンケートで5点満点中4.81点（125人中第5位）。また、全教員778人の中でも第5位であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・大学院FD「福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト」  ・科研費獲得研修会	2019年3月13日  2018年9月19日	[細胞接着分子を標的とした自己免疫疾患の新規治療法の確立] について説明した。  「科研費セミナー“科研費獲得の方法とコツ”の有益な情報共有」について説明した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Antibodies against nephronectin ameliorate anti-type II collagen-induced arthritis in mice.	共著	2019	FEBS Open Bio. (in press)
（論文）Role of Nephronectin in Pathophysiology of Silicosis	共著	2019	International Journal of Molecular Sciences (in press)
（論文）Lactobacillus helveticus SBT2171 attenuates experimental autoimmune encephalomyelitis in mice.	共著	2018	Front. Microbiol. 第22巻 第8号
（論文）The role of $\alpha 9 \beta 1$ integrin and its ligands in the development of autoimmune diseases.	共著	2018	J Cell Commun Signal. 第 12巻
（論文）A Novel $\alpha 9$ Integrin Ligand, XCL1/lymphotactin, is Involved in the Development of Murine Models of Autoimmune Diseases.	共著	2017	J Immunol. 第199巻
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）細胞外基質ネフロネクチンはセレノプロテインPと相互作用する		2019年12月	第42回日本分子生物学会年会
（演題名）新規 $\alpha 4$ インテグリンスプライシングバリエントを用いた自己免疫疾患治療戦略		2019年11月	第58回日本薬学会中国四国支部学術大会
（演題名） $\alpha 4$ インテグリンスプライシングバリエントの結合分子の探索と機能解析		2019年11月	第58回日本薬学会中国四国支部学術大会
（演題名）セレノプロテインPとの相互作用による細胞外基質ネフロネクチンのグルタチオンペルオキシダーゼ誘導の検討		2019年11月	第58回日本薬学会中国四国支部学術大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2019年5月～2019年6月	福山市薬剤師会シリーズ研修会の講師（全3回）
2017年10月	福山大学薬学部卒後教育研修会講師
2016年～現在	福山市内の小中学校の飲酒・喫煙防止教育

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 免疫生物学	職名 講師	氏名 坂根 洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2015年度～現在	講義時に学生に配布する講義資料において、講義内容を学生が理解しやすいように、教科書にない図解も使用することで理解の促進に努めた。また、講義資料は、学生自身に重要なキーワードを記入させるよう工夫しており、何が重要な知識なのかを学生が理解できるよう努めた。理解が難しい専門用語について、できるだけわかりやすい単語に置き換え、理解しやすくするように努めた。講義終了時には確認テストを配布し、学生が学習の到達度を確認できるよう努めた。
・授業評価		2015年度～現在	授業評価アンケートにおいて、学生から確認テストがあるので復習しやすい、穴埋め式の講義資料なのでポイントがわかりやすいなどのコメントがあり、講義で工夫している点については良い評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料		2015年度～現在	講義で用いる資料やパワーポイントを作成した。
・実習IV(衛生系)実習書		2015年度～現在	実習IV(衛生系)で使用する実習書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The Major Lysosomal Membrane Proteins LAMP-1 and LAMP-2 Participate in Differentiation of C2C12 Myoblasts	共著	2018年8月	Biol. Pharm. Bull. Vol.41(8)
(論文) Differential Interactions of LAMP-1's Lysosome-targeting Signals Containing Various COOH-terminal Amino Acid Residues with a Medium Subunit of Adaptor Protein Complex-2	共著	2018年3月	Studies in Higher Education 第4号
(論文) $\gamma$ -Taxilin temporally regulates centrosome disjunction in a Nek2A-dependent manner.	共著	2018年1月	Exp. Cell Res. Vol.362(2)
(論文) $\beta$ -Taxilin participates in differentiation of C2C12 myoblasts into myotubes.	共著	2016年7月	Exp. Cell Res. Vol.345(2)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) リソソーム膜タンパク質(LAMP-1)のリソソーム標的シグナル(GYQTI)のG→N変異体のリソソーム移行量は減少する		2020年3月	日本薬学会第140年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	小中学校における喫煙・飲酒防止教育講師(2018年度:福山市立手城小学校、2016年度:福山市立金江小学校、2015年度:福山市立多治米小学校でそれぞれ講演)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 医療薬剤学	職名 教授	氏名 佐藤 英治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・アクティブラーニングの実施		2015年度～現在	「生体機能の調節Ⅰ」「生命倫理」「臨床推論」「事前学習」「実務実習後学習」「ファーフシューティカル総合演習」においてアクティブラーニングを実施した。
・授業評価		2015年度～現在	授業評価アンケート結果を学生へフィードバックし、報告書を作成した。
・保険薬局との共同研究		2016年度～現在	(株)ファーマシィと連携し、医療現場の課題解決に取り組む授業(課題研究)を実施した。
・アセスメントポリシーの作成		2016年度～現在	学修成果と学科教育プログラムを評価する方法(アセスメントポリシー)の作成に参画した。
・資質の評価を実施		2019年度	「実務実習後学習」において、pccOSCE、プレゼンテーション、レポート評価を導入し、資質の修得度測定を導入した。「病院・薬局実務実習」において、レポート評価を導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年度	症例検討PBLのシナリオとチューターマニュアルを作成した。
・臨床推論演習シナリオ・チューターマニュアル		2019年度	実務実習準備教育で使用する総合的な評価の指標を作成した。
・実務実習準備教育の総合的な評価の指標		2018年度	実務実習で使用する疾患学習記録の様式を作成した。
・病院・薬局実務実習用疾患学習記録		2018年度	実務実習で使用する概略評価表の様式を作成した。
・病院・薬局実務実習用概略評価表		2017年度	I 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤9.1 「患者・薬局から情報を収集し、服薬指導を実践する。」を分担執筆した。
・スタンダード薬学シリーズⅡ 7「臨床薬学」			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年7月13日	改訂実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習に向けての準備と実践～「継続的な薬物治療への関与」「疾患学習記録の活用」「実習項目の分担」～
・医療薬学フォーラム2019 第27回クリニカルファーマシーシンポジウム(広島市)		2018年4月11日	改訂実務実習モデル・コアカリキュラム対応の平成30年度先行導入について～ルーブリック評価と疾患学習記録の導入～
・改訂モデル・コアカリキュラム実務実習研修会(広島市)		2018年2月22日	改訂モデルコアカリキュラムについて～ルーブリック評価を中心に～
・広島県病院薬剤師会東支部学術講演会(福山市)		2015年1月27日	学習成果基盤型教育に基づいたカリキュラムプランニング
・全国薬学教育者アドバンスワークショップ(東京都)			
4 その他教育活動上特記すべき事項		2016年2月21日	学習成果基盤型教育に基づいたカリキュラムプランニングのタスクフォースとして参加
・タスクフォーススキルアップ研修会(福岡)		2015年12月27日	学習成果基盤型教育に基づいたカリキュラムプランニングのタスクフォースとして参加
・2015年近畿地区タスクフォーススキルアップ研修会		2015年7月4、5日	学習成果基盤型教育に基づいたカリキュラムプランニングのタスクフォースとして参加
・指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修 in 関東			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Automating a Part of the Assessment of a University using Excel	共著	2019年11月	Proceeding 2019 ACM SIGUCCS Annual Conference
(論文) 広島県における地域連携ネットワークに関するアンケート調査	共著	2017年11月	広島県病院薬剤師会雑誌(52巻4号)
(著書) スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ. 臨床薬学の基礎および処方せんに基づく調剤	共著	2017年10月	東京化学同人

(論文) 卒業時の資質レベルに6年間を通じてどうい う順次性をもって到達するか?	単著	2015年3月	薬学雑誌 (135巻3号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 改訂実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習に 向けての準備と実践～「継続的な薬物治療への関与」「疾患学習記録の活 用」「実習項目の分担」～		2019年・7月	医療薬学フォーラム2019 第27回クリニカルファーマ シーシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ、タスクフォースとして 3回参加		
～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして3回参加		
2006年4月～現在	国立病院機構福山医療センター受託研究審査委員会委員		
2012年4月～現在	公益社団法人広島県薬剤師会理事		
2014年4月～現在	文部科学省薬学実務実習に関する連絡会議協力者		
2016年4月～現在	一般社団法人広島県病院薬剤師会理事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 実践医療薬学研究室	職名 准教授	氏名 猿橋 裕子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2019年6月14、21、 28日、7月5、12日	学生が、法規を身近に感じ、理解するために、臨床の現場でどの様に法規が関係してくるか具体的に示し学ぶ意欲を高めた。前回の復習を行い知識の定着を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料の作成		2019年6月14、21、 28日、7月5、12日	1回ごとの講義のポイントをまとめ、該当する国試問題の解説を付けた資料を作成し毎回の講義で配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・シンポジウム講演  ・福山大学公開講座 講演		2018年11月11日  2019年10月2、5日	第57回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会 シンポジウム講演した。 福山大学公開講座で2回講演した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・実務実習指導薬剤師の教育活動 ・実務実習指導薬剤師に対する講演		2018年10月21日  2019年1月27日	実務実習指導薬剤師の教育活動を行った。 改訂コアカリに対応した薬局実務実習実施のための講演を実施し実務実習指導薬剤師薬約300名に対し情報の共有を2回行った
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）薬局来局患者における健康食品の摂取と生活習慣の関係	共著	2019年8月20日	生物試料分析化学会
（著書）巻頭言 実務実習委員会の活動について	単著	2018年5月	都薬雑誌 40(5), 2-3(2018)
（著書）糖尿病治療薬の薬理学 3回シリーズ	共著	2016年4月、6月	The Medical & Test Journal 2016. 4. 21, 6. 1, 6. 21
（著書）新版 健康食品の基礎知識	共著	2015年	（株）じほう
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み（6）—交流学習を終えた一学生の学びと自己成長—		2019年8月	第4回 日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年～現在	関東地区調整機構・東京都薬剤師会・中国四国地区調整機構により開催された 薬学教育者ワークショップ, タスクフォースとして25回参加		
2015年4月～2019年6月	東京都薬剤師会実務実習委員会委員長		
2015年4月～現在	林糖尿病クリニック治験審査委員会委員		
2016年4月～2019年3月	浅草薬剤師会理事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 製剤物理化学	職名 講師	氏名 白川 真
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・綿密な講義計画と準備		～現在	講義計画を周知することで、講義全体を通したストーリー展開が把握できるように工夫した。
・復習問題の実施、中間テストの実施		～現在	講義開始時に前回の講義内容の復習問題を解かせることで、講義内容の理解を深めさせる工夫をした。
・授業評価アンケートのフィードバックの徹底		～現在	フィードバックを徹底することで、当該学生および次年度学生の学習到達度を向上させる努力をした。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(総説) ホウ素中性子捕捉療法のためのホウ素薬剤開発の現状とDDSを用いた新規ホウ素薬剤に関する研究	単著	2018年12月	福山大学薬学部研究年報、第36号、1-13頁
(特許) PEG化ホウ素クラスター化合物およびPEG化ホウ素クラスター化合物を含む抗腫瘍剤、およびPEG化ホウ素クラスター化合物を含む増感剤	共著	2018年7月	特願2018-156145
(著書) KURRI PROGRESS REPORT 2017	共著	2018年6月	Institute for Integrated Radiation and Nuclear Science, Kyoto University, pp9, 64, 69
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) BNCT応用を目指した新規薬剤PEG化ホウ素化合物の開発		2020年3月	日本薬学会第140年会
(演題名) ホウ素中性子捕捉療法をがん標準治療とするための薬剤開発		2020年3月	日本薬学会第140年会
(演題名) In vivo Evaluation of Novel Boron containing compound A-1 for BNCT		2019年11月	第58回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) 新規薬剤PEG化ホウ素化合物(BAMP)のBNCT応用に向けた治療効果の評価		2019年9月	第16回日本中性子捕捉療法学会
(演題名) 生体適合性イオン液体を用いた新規調製法によるBPA製剤の開発		2019年9月	第16回日本中性子捕捉療法学会
(演題名) Development of novel boron cluster conjugated PEG derivative for BNCT		2019年9月	10th young researcher's Boron Neutron Capture Therapy
(演題名) Difference in BPA uptake between glioma stem cells and their cancerous cells		2019年9月	10th young researcher's Boron Neutron Capture Therapy
(演題名) ホウ素修飾リポソームのBNCT応用に向けた評価試験		2019年6月	京都大学複合原子力科学研究所専門研究会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年3月～2019年3月	味の素株式会社 研究コンサルティング		
2018年4月～2019年3月	広島県東部美容学校 非常勤講師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 衛生薬学	職名 教授	氏名 杉原 成美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・ 授業評価  ・ オフィスアワーの設定  ・ 地域と連携した授業の実施  ・ 視覚資料の活用  ・ 授業の復習を促す工夫  ・ 自主的な学習の姿勢を促す工夫  ・ セミナーの開催		～現在  ～現在  ～現在  ～現在  ～現在  ～現在	前期・後期に各2科目、学生の授業評価を受け、授業を改善するための参考にしています。授業評価の結果について学生にフィードバックを行った（年2回）。  オフィスアワーの時間帯を公表し、学生からの質問を受け付けた。  地域で取り組まれている健康対策について学習するため、地域のイベント等に参加する授業を設けた（3ヶ所/年）。  学習内容の理解を促すために、Power Pointを使用して、図や表を掲示した。  授業の冒頭で前回の授業内容の問題を出し、修得度のセルフチェックを指示した。  授業で学習した内容について、解説と解答を付けた問題の作成を学生の宿題とした。  研究室所属学生を対象に、医療や卒業研究に係わるテーマを取り上げ、SGD形式で実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 予防薬学としての衛生薬学—健康と環境—第4版  ・ スタンダード薬学シリーズⅡ 5 衛生薬学—健康と環境—  ・ 講義プリントの配布		2016年3月  2016年2月  ～現在	共著/衛生薬学系の授業で使用している教科書を執筆した。（廣川書店）  共著/衛生薬学系の授業で参考としている書籍を執筆した。（東京化学同人）  教科書の補足と授業の理解度を高めるため、授業内容に沿ったプリントを作成し毎回配付した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ 海外の薬学教育に関する講演会の開催		2015年～現在 (1回/年)	タイ等の海外の薬学部の教育システムについて学習する研修会を、薬剤師会や企業と共同で開催した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD研修会への参加  ・ コンケン大学（タイ国立大学）の実務実習への協力  ・ 学生が主催するコンケン大学生との共同セミナー開催の指導		2014年～現在  2014年～現在	本学あるいは薬学部で開催されるFD研修会に参加し、研鑽に努めた。  近隣の病院や薬局と連携してコンケン大学生の受け入れを行った。  薬剤師の役割や医療システムの違いについて紹介する学生主催のセミナーの開催を支援した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）健康寿命の延伸支援に役立つ基礎知識～生活習慣を改善する栄養指導・運動指導のために～	共著	2019年4月	ふくろう出版
（著書）薬剤師が実践するフィジカルアセスメント～健康サポートに必要な知識と技能～ 改訂版	共著	2018年3月	ふくろう出版
（論文）A Survey on the Current Status of Supporting Home Medication Use by Caregivers and of the Cooperation with Pharmacists.	共著	2018年2月	Jpn. J. Soc.Pharm.,Vol37, No2
（論文）Effects of catechins and their related compounds on cellular accumulation and efflux transport of mitoxantrone in Caco-2 cell monolayers.	共著	2017年5月	J Food Sci., Vol.82. Nr.5

(論文)Attitude Survey for Chronic Obstructive Pulmonary Disease with the Lung Age Measurement in the Health Festival for Cotozens.	共著	2016年2月	Japan J Pharm Health Care Sci.,,Vol42, No2
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) サラソスルファピリジンのCaco-2細胞内への蓄積量に及ぼすサビノリの影響		2020年3月	日本薬学会第140年会
(演題名) 地域薬局によるロコモティブシンドローム予防に対する健康支援の取り組み		2019年9月	日本社会薬学会第38年会
(演題名) 地域薬局における血糖値スパイクのスクリーニングとその有用性に関する検討		2019年9月	日本社会薬学会第38年会
(演題名) 握力測定による潜在的ロコモティブシンドロームリスクのスクリーニングに関する検討		2019年7月	第27回クリニカルファーマシイシンポジウム医療フォーラム2019
(演題名) Barthel Indexと終末期がん患者の死亡率との関連性に関する検討		2019年7月	第27回クリニカルファーマシイシンポジウム医療フォーラム2019
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2012年9月～現在	ふくやま健康・食育市民会議 委員長		
2012年9月～現在	健康ふくやま21フェスティバル 実行委員長		
2016年4月～現在	広島びんごフィジカルアセスメント研究会 代表		
2016年9月～現在	日本薬剤師研修センター認定研修会の開催 (年1～2回)		
2016年9月～現在	健康サポートフェアの開催 (年1～2回)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 衛生薬学	職名 講師	氏名 瀬尾 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・地域の健康に関するイベントでのフィールドワークの実践  ・授業評価		2015年～現在  2015年～現在	福山市ならびに近隣地域での健康に関するイベントにブースを出し、血圧、血糖値や肺年齢の測定を行い、疾病発症の予防に関する啓発活動を行なった。また当該活動を授業に組み込み、学生がフィールドワークとして参加するアクティブラーニングを実践した。  福山大学での学生による授業評価では、授業内容に関する項目の平均点として毎年4.3点以上(5点満点)と高い評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・学生実習の実習書改訂		2015年～現在	水道水質に関する項目の測定や食品添加物の定量など主に衛生薬学系の実習項目を担当した。また今後疾病の予防とセルフメディケーションの必要性が高まる観点から、2015年より自己血糖測定の項目を導入した。内容としては、コココーラとコココーラゼロを学生に実際に摂取させ、摂取前後の血糖値変動の測定ならびに食品添加物としての甘味料の特性を理解させるものである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Analysis of lipid raft molecules in living brain slices.	共著	2018年10月	Neurochem. Int., 119, 140-150.
(論文) Effects of catechins and their related compounds on cellular accumulation and efflux transport of mitoxantrone in Caco-2 cell monolayers.	共著	2017年5月	J. Food Sci., 82(5), 1224-1230
(論文) レスキュー薬の管理方法の違いが及ぼすオピオイドの服用状況への影響	共著	2016年8月	医療薬学, 48(8), 569-575
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) サラゾルファピリジンのCaco-2細胞内への蓄積量に及ぼすサビノリの影響		2020年3月	日本薬学会第140年会
(演題名) 地域薬局における血糖値スパイクのスクリーニングとその有用性に関する検討		2019年9月	日本社会薬学会第38年会
(演題名) 握力測定による潜在的ロコモティブシンドロームリスクのスクリーニングに関する検討		2019年7月	第27回クリニカルファーマシシンポジウム医療フォーラム2019
(演題名) Barthel Index と終末期がん患者の死亡率との関連性に関する検討		2019年7月	第27回クリニカルファーマシシンポジウム医療フォーラム2019
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1999年9月～現在	日本免疫毒性学会正会員		
2000年12月～現在	日本薬学会正会員		
2005年4月～現在	日本生化学会正会員		
2015年11月～現在	ふくやま健康・食育市民会 喫煙・飲酒防止教育 講師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 漢方薬物解析学	職名 講師	氏名 高山 健人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫  ・授業評価		～現在  2018年	講義の進捗や身近なトピックスを取り入れるなど工夫して、学生の学修成果を高める努力をした。 「薬になる動植物」の評価は4.75であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第4回日本薬学教育学会大会		2019年8月24日、 25日	「福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(6)―交流学習を終えた―学生の学びと自己成長―」を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) 腸内細菌叢とのクロストークを介する漢方薬の有用性	共著	2019年12月	Hormone Frontier in Gynecology, vol.26, No.4
(論文) Determination of short-chain fatty acids in mouse feces by high-performance liquid chromatography using 2-nitrophenylhydrazine as a labeling reagent.	共著	2019年5月	Biol. Pharm. Bull., 42, 845- 849
(論文) 緩下薬の下剤活性は食餌による腸内細菌叢の変化に左右される	単著	2019年4月	Precision Medicine, vol.2, No.4
(論文) Daiokanzoto (Da-Huang-Gan-Cao-Tang) is an effective laxative in gut microbiota associated with constipation.	共著	2019年2月	Scientific Reports, doi:10.1038/s41598-019- 40278-2
(論文) Rhein 8-O-β-D-glucopyranoside elicited the purgative action of daiokanzoto (da-huang-gan-cao-tang), despite dysbiosis by ampicillin.	共著	2016年6月	Biol. Pharm. Bull., 39, 378- 383
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 食餌による腸内細菌叢の違いでDSS誘発性大腸炎の病態は変化する		2020年3月	日本薬学会第140年会
(演題名) 食餌の違いはセンノシドAの腸内代謝に影響を及ぼす		2019年8月	第36回和漢医薬学会学術大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2011年4月～現在	福山市医師会福山漢方談話会 世話人		
2009年4月～2019年3月	福山大学漢方研究会 世話人		
2017年4月～2019年3月	福山市青年薬剤師会 理事		
2010年10月～現在	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬理学	職名 教授	氏名 田村 豊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2019年6月	学生による授業評価を行い、教育内容・教育手法を更新し改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・コンパス 薬理学		2017年8月	「自律神経系に作用する薬」、「骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬」、「代謝系疾患の薬」の部分を執筆した。(南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第4回日本薬学教育学会大会で発表		2019年8月	薬学共用試験OSCEの実施状況に関する発表をした。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・日本薬学会第5回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ開催		2019年9月	日本薬学会第5回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップを実行委員長として企画・開催した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Molecular Basis of White Adipose Tissue Remodeling That Precedes and Coincides With Hibernation in the Syrian Hamster, a Food-Storing Hibernator.	共著	2019年1月	Front Physiol., 28;9:1973
(著書) コンパス 薬理学	共著	2017年8月	出版社: 南江堂
(論文) Decreases in body temperature and body mass constitute pre-hibernation remodelling in the Syrian golden hamster, a facultative mammalian hibernator.	単著	2016年4月	R. Soc. open sci. 3: 160002
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 虚血再灌流誘発神経細胞死に対するタンパク質SUMO化修飾の役割		2019年11月	日本薬学会中国四国支部学術大会
(演題名) シリアンハムスターの脳内で産生される硫化水素の体温に及ぼす影響		2019年8月	温熱生理研究会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ、タスクフォースとして3回参加		
2003年4月～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして2回参加		
2005年4月～現在	日本薬理学会学術評議委員		
2007年4月～現在	福山市薬剤師会理事		
2012年6月～現在	薬学共用試験センターOSCE実施委員		
2014年4月～現在	日本薬学会教育委員会委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬物動態学	職名 教授	氏名 田中 哲郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫  ・授業評価		～現在  2018年度	授業改善に日常的に取り組むとともに、全学、学部ならびに研究科のFDに参加し、教育、研究、学生指導等の改善に活かした。アクティブラーニングに積極的に取り組む努力を行い、実習や課題研究指導はもちろんのこと、授業科目についても、授業中に学生の発言、発表、意見交換を促した。平成30年度授業評価の「満足度」「学習の成果」については、分担している5科目では、それぞれ3.39～3.97ならびに3.40～3.95であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・NEWパワーブック生物薬剤学第3版  ・NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学第3版		2015年12月  2017年3月	第8章薬物治療管理(TDM)の部分を執筆した。(廣川書店)  第6章製剤の品質と評価の部分を執筆した。(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis and evaluation of styrene-maleic acid copolymer conjugated amphotericin B	共著	2019年9月受理	International Journal of Pharmaceutics
(著書) NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学第3版	共著	2017年3月	廣川書店
(論文) 一般市民を対象とした健康フェスティバルにおける慢性閉塞性肺疾患に関する肺年齢測定を伴うヘルスアセスメントおよび意識調査	共著	2016年2月	医療薬学(第42巻第2号)
(著書) フィジカルアセスメント～薬剤師に必要な知識と技能～	共著	2015年3月	ふくろう出版
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) コレステロール修飾スチレンマレイン酸コポリマーを用いたアムホテリシンBミセル製剤の評価		2019年11月	第58回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) 受容体介在性エンドサイトーシスを利用したドキシソルピシンのpH応答型プロドラッグの合成と評価		2019年3月	日本薬学会第140年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬剤学会評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	福山大学	講座名	医薬品化学研究室
職名	教授	氏名	町支 臣成
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 ・ 講義の工夫  ・ 課題問題の作成  ・ 授業評価	～現在  ～現在  ～現在	学生が講義内容を理解しやすいように、教科書に沿った資料作成を心がけた。  講義終了後、講義内容の理解度を確かめるために課題を配布し、特に理解度の低い箇所は、次回の講義で解説し理解を深められるように工夫した。  講義担当科目は、授業評価を受け、授業の改善に努めた。
2	作成した教科書、教材、参考書 ・ 新編 医薬品化学 ・ 基礎有機化学問題集 ・ ソロモンの新有機化学 I, II, III	2018年3月10日 2017年1月30日 2015年2月26日	感染症治療薬の項目を執筆した。(廣川書店) 第4章の項目を執筆した。(廣川書店) 翻訳協力者した。(廣川書店)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD研修会への参加	～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
	(論文) First asymmetric enantioselective total synthesis of phenanthridine alkaloid, (S)-(+)-asiaticumine and its enantiomer	共著	2019年11月
	(論文) Effects of Carbazole Derivatives on Neurite Outgrowth and Hydrogen Peroxide-Induced Cytotoxicity in Neuro2a Cells	共著	2019年3月
	(論文) Total Synthesis of Two 8-Oxoprotoberberine Alkaloids: Alangiumkaloids A and B	共著	2018年2月
	(論文) Concise Synthesis and Antiproliferative Activity Evaluation of Ellipticine Quinone and its Analogs	共著	2017年8月
	(論文) Synthesis of Carbazole-1,4-quinones and Evaluation of Thier Antiproliferative Activity against HCT-116 and HL-60 Cells	共著	2016年10月
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
	(演題名) Rosettacinの全合成研究		2020年3月
	(演題名) ベンズイミダゾール-4,7-キノンの合成と構造活性相関研究		2020年3月
	(演題名) 抗HIV活性を有するtrigonoine Bの全合成研究		2020年3月
	(演題名) サイクロカルボニレーション反応を用いた生理活性多置換カルバゾールアルカロイド類の不斉全合成研究		2020年3月
	(演題名) Calothrixin類およびその誘導体の合成研究		2020年3月
	(演題名) 5-HT <sub>2C</sub> アゴニスト活性を有するbenzofuro[3,2-c]pyridine類の創生		2019年11月
	(演題名) Calothrixin類およびその誘導体の合成研究		2019年11月
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
			Tetrahedron Letters, 60, 151278-151281
			Molecules, 24, 1366-1376
			Eur. J. Org. Chem., 2018, 673-678
			Eur. J. Med. Chem., 136, 1-13
			Eur. J. Med. Chem., 121, 561-577
			学会名
			日本薬学会第140年会
			第37回メディシナルケミストリーシンポジウム
			第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会

(演題名) 抗HIV活性を有するtrigonoine Bの全合成研究	2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) サイクロカルボニレーション反応を用いた新規カルバゾール骨格構築法の開発とclausamine類合成への応用	2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) エナミノジケトンと置換ヒドラジンとの反応によるピラゾール誘導体の合成とその構造解析	2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) Pyrrolo[2,3-c]carbazoleアルカロイドdictyodendrin Cの全合成研究	2019年10月	第45回反応と合成の進歩シンポジウム、岡山
(演題名) Synthesis of 4-Aroyl-5-arylpyrazoles and 4-Aroyl-3-arylpyrazoles via the Reaction of Enaminodiketones with Substituted Hydrazines	2019年9月	27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress, Kyoto
(演題名) Ellipticine quinoneと類縁体の合成と抗腫瘍活性評価	2019年9月	第61回天然有機化合物討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2015年4月～現在	JST研究支援最適展開支援プログラム (A-STEP) 専門委員	
2016年4月～2017年3月	大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員	
2013年4月～2016年3月	備後地域備後地場産振興センター評議員	
2018年11月～2018年12月	福山市薬剤師会シリーズ研修会の講師 (全2回)	
2019年10月	第14回有機化学系教科担当教員会議実行委員長 (薬学教育協議会)	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 臨床分析化学	職名 教授	氏名 鶴田 泰人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・ 確認テストを実施		～現在	毎回、前回授業の確認テストを実施した。
・ プリントを配布		～現在	授業が分かりやすいように記入式プリントを配布した。
・ 授業評価アンケートを実施		～現在	授業評価アンケートで、教育内容・方法を点検し改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Determination of Short-Chain Fatty Acids in Mouse Feces by High-Performance Liquid Chromatography Using 2-Nitrophenylhydrazine as a Labeling Reagent	共著	2019年5月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, Vol.42, No.5, 845-849
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み（6）—交流学习を終えた一学生の学びと自己成長—		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
日本私立薬科大学協会	通常総会で議決権を有する者		
薬学教育協議会	社員代表者		
薬学共用試験センター	会員代表		
薬学教育評価機構	社員代表者		
全国薬科大学長・薬学部長会議	会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 実践医療薬学	職名 教授	氏名 長崎 信浩
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫  ・授業評価		～現在	臨床を意識した薬学教育の実践： 1) 医療者育成における個別教育の意義を認識し、実践した。 2) 他教員の講義内容を把握し、連動した臨床講義を導入した。 3) 学生個々の理解度に即し、対話重視の授業を実践した。 4) 臨床現場を意識し、臨床的専門用語の多用とその解説を実践した。 5) 臨床現場の実態について、事例を提示しながら興味深く解説した。 学生とのコミュニケーション重視： 1) 基礎薬学受講中の低学年学生にも積極的に声かけをし、薬学修学のモチベーションの向上を図った。 2) 学生個々の資質に配慮しながらOSCE対策を行った。  悪性腫瘍の薬・病態・治療：4.05 病原微生物と感染症：4.49 薬物の臓器への到達と消失：4.48、であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・平成29年度第1回FD/SD研修  ・福山薬剤師会シリーズ研修会 ・福山薬剤師会シリーズ研修会		2017年6月21日  2018年5月～6月 2016年10月～11月	「教育振興助成金活用教育研究報告会」 「医療人としての心構え」を修得するための教育手法開発とその検証、について講演した。  福山薬剤師会シリーズ研修会で講演した。 福山薬剤師会シリーズ研修会で講演した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）電子薬歴を活用した薬学生における薬学的管理能力の定量的な評価	共著	2019年11月	医療薬学（投稿中）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム実務実習で使用するルーブリック評価表の試用		2019年10月	第38回広島県薬剤師会学術大会
（演題名）2025年に向けて薬局薬剤師が取り組むべき業務とは ―調剤報酬の変遷を踏まえた提案―		2019年9月	第13回日本薬局学会学術総会
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み（6） ―交流学習を終えた一学生の学びと自己成長―		2019年8月	第4回日本薬学教育学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	日本医療薬学会、日本環境感染学会、日本緩和医療学会、日本緩和医療薬学会、日本糖尿病学会、日本TDM学会、日本医薬品安全性学会、日本薬学教育学会		
2011年6月～現在	日本緩和医療薬学会評議員		
2013年5月～現在	NPO法人広島感染症ネットワーク理事		
2016年4月～現在	JA尾道総合病院倫理委員会委員		
2015年～2017年	高校生進路ガイダンス講師（5回）		
2015年～2018年	福山薬剤師会復職支援研修会講師（5回）		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬物動態学	職名 助教	氏名 中村 徹也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		～現在	講義では内容を解りやすいようにまとめた講義プリントを配布し、スライド等を用いて視覚的に理解を深めるように工夫した。研究室配属学生には、論文検索の意識付けを行うことで、学会発表や質疑応答の向上を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加  ・学内委員			大学FD活動に積極的に参加した。  学内委員としては、卒後教育委員、実験動物・動物舎委員として教育活動に貢献した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）N-terminal domain of the cholesterol transporter Niemann-Pick C1-like 1 (NPC1L1) is essential for $\alpha$ -tocopherol transport	共著	2017年4月	Biochem. Biophys. Res. Commun.(Vol.486)
（論文）Prazosin-stimulated release of hepatic triacylglyceride lipase from primary cultured rat hepatocytes is involved in the regulation of cAMP-dependent protein kinase through activation of the Ca(2+)/calmodulin-dependent protein kinase-II	共著	2016年6月	Pharmacol. Rep.(Vol.68)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）チョウセンアサガオ・エンドファイト <i>Bipolaris</i> 属が産生する ophiobolin Aの新規活性		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）コレステロール修飾スチレンマレイン酸コポリマーを用いたアムホテリシンBミセル製剤の評価		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）受容体介在性エンドサイトーシスを利用したドキシソルビシンのpH応答型プロドラッグの合成と評価		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）コレステロール修飾スチレンマレイン酸コポリマーを用いたアムホテリシンBミセル製剤の評価		2019年10月	第58回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会
（演題名）福山大学におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(6)－交流学習を終えた一学生の学びと自己成長－		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	日本薬学会会員、日本生化学会会員、日本薬剤学会会員、日本DDS学会会員		
2017年4月～現在	日本ゲノム編集学会会員		
2017年4月～現在	日本アンチ・ドーピング機構(JADA)認定スポーツファーマシスト		
2018年9月～現在	日本災害医学会 災害薬事プロバイダー		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 医薬品化学	職名 助教	氏名 西山 卓志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・学生への対応  ・講義後の対応		～現在  ～現在	講義において、わかりやすい解説を心がけ、また学生には復習の必要性を説明した。  講義の後、理解しにくいところがあれば教員室を尋ねるように話しており、常時対応した。
2 作成した教科書、教材、参考書  該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等  該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Total Synthesis of Two 8-Oxoprotoberberine Alkaloids: Alangiumkaloids A and B	共著	2018年2月	Eur. J. Org. Chem., 2018, 673-678 (2018).
（論文） Concise Synthesis and Antiproliferative Activity Evaluation of Ellipticine Quinone and its Analogs	共著	2017年2月	Eur. J. Med. Chem., 136, 1-13
（論文） Total Synthesis of Carbazole-1,4-quinone Alkaloid Koeniginequinones A and B based on a One-Pot Cyclocarbonylation Procedure from 2-Alkenyl-3-iodoindole	共著	2016年12月	Heterocycles, 93, 84-100
（論文） Synthesis of Carbazole-1,4-quinones and Evaluation of Their Antiproliferative Activity against HCT-116 and HL-60 Cells	共著	2016年8月	Eur. J. Med. Chem., 121, 561-577
（論文） Antiproliferative activity of O4-benzo[c]phenanthridine alkaloids against HCT-116 and HL-60 tumor cells	共著	2015年5月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 25, 2749-2752
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Rosettacinの全合成研究		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名） ベンズイミダゾール-4,7-キノンの合成と構造活性相関研究		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名） 抗HIV活性を有するtrigonoine Bの全合成研究		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名） サイクロカルボニレーション反応を用いた生理活性多置換カルバゾールアルカロイド類の不斉全合成研究		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名） Calothrixin類およびその誘導体の合成研究		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名） 5-HT <sub>2C</sub> アゴニスト活性を有するbenzofuro[3,2-c]pyridine類の創生		2019年11月	第37回メキシカルケミストリーシンポジウム
（演題名） Calothrixin類およびその誘導体の合成研究		2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会

(演題名) 抗HIV活性を有するtrigonoine Bの全合成研究	2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) サイクロカルボニレーション反応を用いた新規カルバゾール骨格構築法の開発とclausamine類合成への応用	2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) エナミノジケトンと置換ヒドラジンとの反応によるピラゾール誘導体の合成とその構造解析	2019年11月	第58回日本薬学会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
(演題名) Pyrrolo[2,3-c]carbazoleアルカロイドdictyodendrin Cの全合成研究	2019年10月	第45回反応と合成の進歩シンポジウム、岡山
(演題名) Synthesis of 4-Aroyl-5-arylpyrazoles and 4-Aroyl-3-arylpyrazoles via the Reaction of Enaminodiketones with Substituted Hydradines	2019年9月	27th International Society of Heterocyclic Chemistry Congress, Kyoto
(演題名) Ellipticine quinoneと類縁体の合成と抗腫瘍活性評価	2019年9月	第61回天然有機化合物討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)		
2015年4月～現在	広島県東部美容専門学校 非常勤講師(保健)	
2011年4月～現在	日本薬学会会員	
2019年1月～現在	有機化学協会会員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 活性分子物理化学	職名 教授	氏名 秦 季之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2015年4月～現在	学習者が講義を聞きながら書き込むプリントを作成し使用した。また、出席確認では問題を解答させ、解説を聞きながら自分で修正したものをLMS/ポートフォリオシステムに登録し、復習できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・練習問題プリント、出席確認シートを作成		2015年4月～現在	講義プリントは、講義を聞きながら書き込むようにした。また、練習問題プリントは学修直後に例題を解く事によって、理解が進むように準備した。さらに、出席確認シートは、学生番号をマークシートで記入し、解答内容がLMS/ポートフォリオシステムに登録できるようにした。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第4回日本薬学教育学会大会 発表		2018年8月	「コーチング技法を使用して学生同士の生活習慣改善を試みた講義・演習の実施と評価およびその改善に向けた調査」について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・第4回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ 参加		2018年8月	「卒業時における教育の質保証」というテーマで全国から集まった薬学教育者と討議を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）High ophiobolin A production in endophytic fungus <i>Bipolaris</i> sp. associated with <i>Datura metel</i>	共著	2019年4月	Natural Product Research, 1-3(2019).
（論文）Endophyte composition and Cinchona alkaloid production abilities of <i>Cinchona ledgeriana</i> cultivated in Japan	共著	2019年3月	Journal of Natural Medicines, 73, 431-438(2019).
（論文）Shogaol but not gingerol has a neuroprotective effect on hemorrhagic brain injury: Contribution of the $\alpha,\beta$ -unsaturated carbonyl to heme oxygenase-1 expression	共著	2019年1月	European Journal of Pharmacology, 842, 33-39 (2018)
（論文）Curcuma sp.-derived dehydrocurdione induces heme oxygenase-1 through a Michael reaction between its $\alpha,\beta$ -unsaturated carbonyl and Keap1	共著	2018年5月	Phytother Res., 32, 892-897(2018).
（論文）Differential Interactions of LAMP-1's Lysosome-targeting Signals Containing Various COOH-terminal Amino Acid Residues with a Medium Subunit of Adaptor Protein Complex-2	共著	2018年3月	福山大学 大学教育センター 大学教育論叢 第4号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） <i>Datura metel</i> 由来オフィオボリンA産生糸状菌		2019年9月	日本生薬学会第66回年会
（演題名）コーチング技法を使用して学生同士の生活習慣改善を試みた講義・演習の実施と評価およびその改善に向けた調査（その1）		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年8月	第4回薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップin島根 タスクフォース		
2017年～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして3回参加		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 実践医療薬学	職名 講師	氏名 広瀬 雅一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2017年度～現在	保険薬局で使用されている電子薬歴ソフトを学生教育に導入したり、事前学習のシナリオを毎年改編するなど、常に医療現場の状況を反映させた授業や演習を展開するよう努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第4回福山大学教育改革シンポジウム ・福山大学教育振興助成金研究報告会		2017年9月13日 2018年6月20日	アクティブラーニング再考について発表した。 改訂コアカリキュラムに準拠した薬局実習について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・山口県立新南陽高等学校セミナー ・改訂モデル・コアカリキュラム説明会 ・改訂実務実習ガイドラインに関するFD ・福山大学市民公開講座 ・改訂モデル・コアカリキュラム先行導入説明会 ・改訂モデル・コアカリキュラム対応アドバンスWS ・福山市薬剤師会シリーズ研修会		2019年3月14日 2019年1月 2019年1月24日 2018年10月 2018年4月12日 2018年度 2016年度～現在	高校生を対象とした大学講義の出前講義を行った。 広島県薬研修会で講演した。(1/29福山、1/31広島) 実務実習での改訂内容と対策について講演した。(講師・薬学部FD) 健康管理の啓発に関する講演を行った。(10/17三原、10/20福山) 広島県薬研修会で講演した。(福山) タスクフォースとして3回参加した。 薬剤師生涯教育研修会で2回講演した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬局間連携による実務実習での代表的な疾患学修手法の構築		2018年11月	第12回日本薬局学会学術総会
(演題名) 実務実習における疾患学修記録の先行導入		2018年9月	第3回日本薬学教育学会大会
(演題名) 電子薬歴ソフトを導入した実務実習直前演習		2017年9月	第2回日本薬学教育学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年度～現在		薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして3回参加	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 医薬品化学研究室	職名 教授	氏名 藤岡 晴人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		～現在	化学反応の説明にパワーポイントを活用し、理解しやすいように工夫した。授業は復習しながら進めるように努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・薬系有機化学		2018年2月	chapter5,6を執筆した。(南江堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 薬系有機化学	共著	2018年2月	南江堂
(論文) A simple method for determining the ligand affinity toward a zinc-enzyme model by using a TAMRA/TAMRA interaction	共著	2018年1月	Dalton Transactions 2018,47, 1841-1848
(論文) ANTIOXIDANT EFFECTS OF THE HYDROXYL GROUPS IN THE SIMPLE PHENOLIC CARBAZOLES	共著	2016年	Heterocycles, 92, 120-132 (2016)
(論文) A novel thiol-affinity micropipette tip method using zinc(II)-cyclen-attached agarose beads for enrichment of cysteine-containing molecules.	共著	2016年	Journal of Chromatography B, 1031, 195-201(2016).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Mafcheenamime A 及びEの全合成研究		2019年3月	日本薬学会139年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	日本薬学会会員		
2015～現在	福山歯科衛生士学校非常勤講師(化学担当)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬剤情報解析学	職名 教授	氏名 前田 頼伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		～現在	講義では内容を解りやすいようにまとめた講義プリントを配布し、スライド等を用いて視覚的に理解を深めるように工夫した。確認テストで理解度をチェックした。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・知っておきたい臨床検査値 日本薬学会編  ・チーム医療および保健・医療・福祉への参画、感染症、スタンダードシリーズⅡ 第7巻 臨床薬学Ⅲ		2019年3月26日  2018年6月25日	専門薬剤師と感染症を執筆した。(東京化学同人)  感染症を執筆した。(東京化学同人)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・医療薬学フォーラム		2019年7月13日	大学教員の臨床研修に対する取り組みと今後の課題について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Reduction in the rate of postoperative delirium by switching from famotidine to omeprazole in Japanese hepatectomized recipients	共著	2019年5月	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences
(論文) Study on the infusion-site adverse events and vascular distribution of epirubicin in chemotherapy with epirubicin and fosaprepitant	共著	2019年5月	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY
(論文) リネゾリドによる血小板減少予防に血中濃度モニタリングが有効であると考えられた2症例	共著	2019年4月	日本病院薬剤会雑誌、55(4): 423-427,
(論文) 副作用の早期発見-Practical Guide、抗てんかん薬	単著	2019年2月	調剤と情報 じほう
(論文) エベロリムス誘発性口内炎に対するデキサメタゾン軟膏の有用性に関する検討	共著	2018年12月	医療薬学、44(12),631-638
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬物動態を考慮した薬物療法支援、医薬品安全性学のススメ-臨床現場で活躍する薬剤師がめざすこれから		2019年11月3日	第29回日本医療薬学会
(演題名) 「急性期病院における薬剤部での医療マネジメント -アセトアミノフェンによる肝障害の正体は?-」		2019年7月18日	広島県病院薬剤師会呉支部研修会
(演題名) 慢性腎不全患者へのパラシクロピル投与により意識障害をきたした1例		2019年7月14日	医療薬学フォーラム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2006年7月～現在	日本TDM学会 評議員、編集委員、優秀論文選考委員		
2012年4月～現在	日本医療薬学会(代議員、医療薬学編集委員、学術貢献賞・奨励賞等選考委員)		
2012年4月～現在	日本医薬品安全性学会・理事・評議員 広島県医薬品安全性研究会 会長		
2018年4月～現在	厚生労働省 厚生科学審議会感染症部会 薬剤耐性(AMR)に関する小委員会委員		
2018年4月～現在	AMR臨床リファレンスセンター 感染症教育コンソーシアム コアメンバー		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 活性分子物理化学	職名 講師	氏名 前原 昭次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・アクティブラーニングの実施		2018年～現在	薬学部3年生科目「薬物の宝庫としての天然物」においてアロマオイルを用いた香りに関するアクティブラーニングを試みた。
		2014年～現在	薬学部3年生科目「薬物の宝庫としての天然物」において演習を中心としたアクティブラーニングを試みた。
・授業評価		2019年度	授業評価アンケートにおいて前期平均の満足度(4.41) 学習の成果(4.2)であった。
		2018年度	授業評価アンケートにおいて前後期平均の満足度(4.29) 学習の成果(4.10)であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料作成		2014年～現在	薬学部2年生科目「天然物科目」3年生科目「薬物の宝庫としての天然物」の授業プリントを作成した。(プリントを用いて進行)
		2017年～現在	一般教養科目「物質の基本概念」の授業プリントを作成した。(プリントを用いて進行)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第3回日本薬学教育学会大会 -教育で未来を創る- (東京)		2018年9月	「福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(4) -外向性、開放性と自己評価の関係-」を発表した。
・第2回日本薬学教育学会大会 -教育のアウトカムを測る- (名古屋)		2017年9月	「福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(5) -情緒不安性、誠実性、調和性と自己評価の関係-」を発表した。
・第1回日本薬学教育学会大会 -薬学教育の原点- (京都)		2016年9月	「福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(2) -役立ち感・自己肯定感に対する一年後の追跡調査を通じて-」を発表した。 「福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み(3) -幼児、高齢者との関わりにおける自己評価の推移-」を発表した。 「福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み~役立ち感・自己肯定感を育み、ホスピタリティを涵養するために~」を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・指導学生の学長賞受賞		2019年3月	「課題研究Ⅰ、Ⅱ」指導学生(6年生)が成果を認められ学長賞を受賞した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) High opiobolin A production in endophytic fungus <i>Bipolaris</i> sp. associated with <i>Datura metel</i>	共著	2019年 in press	Natural Product Research, (2019)
(論文) Endophyte composition and Cinchona alkaloid production abilities of <i>Cinchona ledgeriana</i> cultivated in Japan	共著	2019年4月	Journal of Natural Medicines, 73(2), 431-438.
(論文) Shogaol but not gingerol has a neuroprotective effect on hemorrhagic brain injury: Contribution of the $\alpha$ $\beta$ -unsaturated carbonyl to heme oxygenase-1 expression	共著	2018年7月	European Journal of Pharmacology, 842
(論文) Curcuma sp.-derived dehydrocurdione induces heme oxygenase-1 through a Michael reaction between its $\alpha$ , $\beta$ -unsaturated carbonyl and Keap1	共著	2018年5月	Phytotherapy Research, 32(5), 892-897

(論文) Composition of the endophytic filamentous fungi associated with Cinchona ledgeriana seeds and production of Cinchona alkaloids	共著	2016年4月	Journal of Natural Medicines, 70(2), 271–275.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) チョウセンアサガオ・エンドファイトBipolaris 属が産生する ophiobolin Aの新規活性		2020年3月	日本薬学会第140年会 (京都)
(演題名) ジギタリス・エンドファイト糸状菌の共培養における産生物に関する研究		2020年3月	日本薬学会第140年会 (京都)
(演題名) インドネシアと日本におけるArtemisia属植物のエンドファイト構成とartemisinin変換		2020年3月	日本薬学会第140年会 (京都)
(演題名) 分子モデリングによる天然物由来化合物とKeap1の複合体構造の予測		2020年3月	日本薬学会第140年会 (京都)
(演題名) Datura metel由来オフィオポリンA産生糸状菌		2019年9月	日本生薬学会第66回年会 (東京)
(演題名) Bioconversion of artemisinin by endophytic fungi associated Artemisia plant grown in Indonesia and Japan		2019年10月	7th JASTIP SYMPOSIUM (Tangerang, Indonesia)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年11月	インドネシア研究者Ahmad Fathoni (インドネシア生物学研究所) への技術指導 (2週間)		
～現在	日本薬学会会員		
～現在	日本生薬学会会員		
～現在	日本微生物生態学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 病態生理・ゲノム機能学	職名 講師	氏名 松岡 浩史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・ 講義の工夫		2009年～現在	講義では習得すべき内容をまとめた講義プリントを配布し、スライド等を用いて視覚的に理解できるように工夫した。また、学修支援のためにウェブベースでの確認テストを実施して学習者の理解度を調査し、理解不足がみられた項目について重点的に補足説明するように努めた。また、講義中に質問しづらい学習者のために、ウェブ掲示板での質問を受け付けた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 講義資料の作成  ・ 遺伝子工学－基礎から医療まで－		2009年～現在  2017年4月	上記の担当科目については、講義プリント、スライド、演習問題等を毎年更新し作成した。  遺伝子に関する授業のために、「遺伝子工学－基礎から医療まで－（廣川書店）」を共著で出版し、テキストとして用いた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ 日本薬学教育学会		2016年～2018年	日本薬学教育学会にて、本学のヒューマニズム教育法について、2016年度に1演題の特別企画発表をした。さらに2017年度に2演題、2018年度に2演題の一般発表をした。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 指導学生学会発表受賞  ・ 共用試験CBTモニター ・ 高校出張講義 ・ 地域連携型のフィールドワーク授業の実施  ・ FD研修会参加		2016年1月 2017年1月 2019年1月  2018年1月  2018年2月  2015年～現在  2009年～現在	研究指導担当の学生3名の業績が認められ、第54回、第55回、第57回日本薬学会中国四国支部学術大会において学生発表奨励賞を受賞した。  共用試験CBTのモニター員を務めた。  高梁高等学校で出張講義を行った。  地域連携型のフィールドワーク授業「セルフメディケーションⅡ」の一環として、地域保健イベントの事業所と協定書を交わし、学生の地域保健活動への参加を促した。  大学が実施するFD研修に、積極的に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Stroke-prone spontaneously hypertensive rats have reduced hydroxysteroid 17-β dehydrogenase 7 levels for low cholesterol biosynthesis	共著	2019年9月	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., [Online First]
（論文） Levels of tight junction protein CLDN1 are regulated by microRNA-124 in the cerebellum of stroke-prone spontaneously hypertensive rats	共著	2018年4月	Biochem. Biophys. Res. Commun., vol.498, No.4
（論文） The retinoic acid receptor-related orphan receptor α positively regulates tight junction protein claudin domain-containing 1 mRNA expression in human brain endothelial cells	共著	2017年5月	J. Biochem., vol.161, No.5
（著書） 遺伝子工学－基礎から医療まで－	共著	2017年4月	廣川書店
（論文） Claudin domain containing 1 contributing to endothelial cell adhesion decreases in presence of cerebellar hemorrhage	共著	2017年2月	J. Neurosci. Res., vol.95, No.10

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ROR $\alpha$ 核内受容体はマクロファージにおけるコレステロールエステル水解酵素の発現増加を介して脂質ドロップレットを縮小させる		2019年12月	日本分子生物学会
（演題名）MZFIによる細胞接着分子CLDN25の転写調節機構		2019年11月	日本薬学会中国四国支部
（演題名）ROR $\alpha$ 核内受容体によるNCEH1の転写活性化はマクロファージ泡沫化の抑制に寄与する		2019年11月	日本薬学会中国四国支部
（演題名）脳由来24S-ヒドロキシコレステロールの代謝に関与するCYP39A1のROR $\alpha$ 核内受容体による発現調節機構		2019年11月	日本薬学会中国四国支部
（演題名）初期応答転写因子1はメバロン酸ニリン酸炭酸酵素の転写を抑制しSHRSP1における血清コレステロールを低下させる		2019年11月	高血圧関連疾患モデル学会 /日本循環薬理学会 合同大会
（演題名）脳出血に関わる細胞接着分子クローディンD1の転写因子の解析		2019年8月	川崎医科大学学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2013年4月～現在	日本薬学会会員※（2017年度中国四国支部大会 生物化学1-1・座長など）		
2013年10月～現在	府中市生涯学習課 府中学びフェスタ・共催（健康度チェックなど）		
2016年10月	鹿児島県離島振興協議会 アイランドキャンパス事業		
2017年1月	福山市保健所 喫煙・飲酒等防止教育・講師		
2018年9月～現在	福山市医師会看護専門学校・講師		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 病態生理・ゲノム機能学	職名 教授	氏名 道原 明宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2014年4月～現在	各講義室に導入された視聴覚設備を利用して、講義プリントを写しながら、学生に、より解り易く講義した。また、配布したプリントに重要ポイントを記入させ、学生に理解させた。さらに、既に導入されているコンピュータシステム（学習支援システム）の問題（CBT問題、国家試験問題）を学生に解かせ、理解度を確かさせた。SGDを取り入れた授業も行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・講義資料の作成  ・遺伝子工学—基礎から医療まで—		2014年4月～現在  2017年4月	上記の担当科目については、講義プリント、スライド、演習問題等を毎年更新し作成した。  遺伝子に関する授業のために、「遺伝子工学—基礎から医療まで—（廣川書店）」を共著で出版し、テキストとして用いた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2019年9月	日本社会薬学会において、一般人を対象に学園祭で行った遺伝子に関する教育啓発活動について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・指導学生学会発表賞受賞  ・指導学生学会賞受賞  ・出張講義  ・地域活動		2014年4月1日～現在  2019年8月  2018年  2019年  2017年～現在	研究指導担当の学生6名の業績が認められ、第53回～57回日本薬学会中国四国支部学術大会において学生発表奨励賞を受賞した。  研究指導した他大学の学生が日本キチン・キトサン学会でポスター賞を受賞した。  岡山県立井原高校で学部ガイダンスを行った。如水館高等学校で学部ガイダンスを行った。  認知症カフェに定期的に学生と参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Stroke-prone Spontaneously Hypertensive Rats Have Reduced Hydroxysteroid 17-β Dehydrogenase 7 Levels for Low Cholesterol Biosynthesis	共著	2019年10月	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology doi.org/10.1111/1440-1681.13188
(論文) Levels of tight junction protein CLDND1 are regulated by microRNA-124 in the cerebellum of stroke-prone spontaneously hypertensive rats	共著	2018年4月	Biochem. Biophys. Res. Commun., vol.498, No.4
(著書) 遺伝子工学—基礎から医療まで—	共著	2017年4月	廣川書店
(論文) Claudin domain containing 1 contributing to endothelial cell adhesion decreases in presence of cerebellar hemorrhage	共著	2017年2月	J. Neurosci. Res., vol.95, No.10
(論文) High Expression levels of NADPH Oxidase 3 in the Cerebrum of Ten-week-old Stroke-Prone Spontaneously Hypertensive Rats.	共著	2016年2月	Biol. Pharm. Bull. Vol.39
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) RORα核内受容体はマクロファージにおけるコレステロールエステル水解酵素の発現増加を介して脂質ドロップレットを縮小させる		2019年12月	日本分子生物学会

(演題名) MZF1による細胞接着分子CLDN25の転写調節機構	2019年11月	日本薬学会中国四国支部
(演題名) ROR $\alpha$ 核内受容体によるNCEH1の転写活性化はマクロファージ泡沫化の抑制に寄与する	2019年11月	日本薬学会中国四国支部
(演題名) 脳由来24S-ヒドロキシコレステロールの代謝に関与するCYP39A1のROR $\alpha$ 核内受容体による発現調節機構	2019年11月	日本薬学会中国四国支部
(演題名) 初期応答転写因子1はメバロン酸ニリン酸脱炭酸酵素の転写を抑制しSHRSPにおける血清コレステロールを低下させる	2019年11月	高血圧関連疾患モデル学会 /日本循環薬理学会 合同大会
(演題名) 脳出血に関わる細胞接着分子クローディンD1の転写因子の解析	2019年8月	川崎医科大学学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2016年	福山市薬剤師会シリーズ研修会 (計3回:講演)	
2012年4月~現在	高血圧関連等疾患モデル学会評議員	
2016年10月	鹿児島県離島振興協議会 アイランドキャンパス事業、中学生対象に疾病予防に対する啓発活動	
2015年~2018年	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして4回参加	
2007年4月~現在	穴吹専門学校(調理製菓 or ビューティ)非常勤講師	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 放射薬品化学	職名 准教授	氏名 本屋敷 敏雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・ 講義の工夫  ・ 授業評価		2019年7月  2019年7月	学生が授業内容を理解しやすくするために、重要事項をまとめて板書し、それを学生がノートに書き写すことによって理解を深めていくように工夫した。  2019年度の学生授業評価において、講義の満足度の項目で「満足」、「ほぼ満足」を合わせ87.9%、知識の深まりの項目で「大いに深まっている」、「やや深まっている」をあわせ85.9%であった。いずれの項目も前年よりも高値であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 生命活動と生化学への展開 第2版		2017年3月13日	第2章 生命活動を担う栄養素の機能 (2-1 糖質、2-6 水と無機質)、第4章 糖質代謝、第8章 器官と代謝の部分を執筆した。(京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD研修会への参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
(著書) 生命活動と生化学への展開 第2版		共著	2017年3月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) カフェイン吸収へのカフェインとカテキン類複合体による影響の検討		2020年・3月	日本薬学会第140年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年9月～2016年12月		日本放射線安全管理学会第15回学術大会 実行委員会委員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 生化学研究室	職名 教授	氏名 森田 哲生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・教育内容・方法の工夫  ・授業評価		2014年～現在  2014年～現在	これまでの本学での授業に用いたパワーポイントなどの資料などに基づいて教科書などを作成し、これらの資料部分などを纏めて映写するなどポイントを押さえた授業を行った。  専門科目において「学生による授業アンケート」を受け、授業内容の改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・生命活動と生化学への展開(第2版改訂)  ・薬学領域の生化学(第2版改訂2刷)		2017年3月13日  2017年1月30日	p1-4, 18-41, 73-100, 109-124の部分を執筆した。(京都廣川書店)  p147-166の部分を執筆した。(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会を企画・参加  ・FD研修会にて発表		2018年1月25日  2017年11月29日	大学院薬学研究科のFD研修会企画に参画した。  全学大学院対象のFD研修会で発表した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) $\beta$ -ヒドロキシー $\beta$ -メチル酪酸、アルギニン、グルタミン配合飲料の脂質代謝に対する効果ーリポタンパク質リパーゼの変動ー	共著	2019年(印刷中)	医学と生物学
(著書) 改訂 生命活動と生化学への展開-第2版-	共著	2017年3月	京都廣川書店
(論文) N-terminal domain of the cholesterol transporter Niemann-Pick C1-like(NPC 1 L1) is essential for $\alpha$ -tocopherol transport	共著	2017年2月	Biochem.Biophys.Res. Commun.vol.486 No.2
(著書) 改訂 薬学領域の生化学-第2版2刷-	共著	2017年1月	廣川書店
(論文) Prazosin-stimulated release of hepatic triacylglyceride lipase from primary cultured rat hepatocytes is involved in the regulation of cAMP-dependent protein kinase through activation of the Ca <sup>2+</sup> /calmodulin-dependent protein kinase- II	共著	2016年3月	Pharmacol.Rep. Vol.68 No.3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) メトホルミンによる肝性リパーゼ分泌の解析/他1題		2020年3月	日本薬学会第140年会
(演題名) マウス乳癌FM3A細胞におけるメトホルミンによるチミジル酸合成酵素の変動		2019年11月	第58回日本薬学会中国四国支部学術大会
(演題名) マウス乳癌FM3A細胞におけるエストラジオールによるmTORを介するリポタンパク質リパーゼ分泌の解析		2019年9月	第78回日本癌学会学術総会
(演題名) プログステロンによるマウス乳癌FM3A細胞におけるmTOR系を介するリポタンパク質リパーゼの分泌		2019年9月	第92回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年4月～現在	日本薬学会会員並びに代議員		
2014年4月～現在	日本生化学会会員、日本癌学会会員、日本癌治療学会会員、日本静脈経腸栄養学会会員、日本肝臓学会会員、千葉医学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 実践医療薬学	職名 准教授	氏名 山下 純
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・アクティブラーニングの実施		2018年～現在	「薬学入門Ⅰ&Ⅱ」でのSGDIによる学習や授業成果のプレゼンテーション発表、「コミュニケーション交流学习」での幼児／高齢者との一対一の交流学习（8回）、「患者の視点に立った行動」および「ファーマシューティカルケア演習#17」でのコーチングの基本を使用した生活習慣改善の支援の実体験等、実務経験のある教員が、医療者として必要なコミュニケーション技法を習得するアクティブラーニングを実施した。
・授業評価（前期）		2019年度	質問1～7の平均点（教員の授業評価に関する7項目）：4.19、質問14の点（学修成果）：3.63であった。
・授業評価（通年）		2018年度	質問1～7の平均点（教員の授業評価に関する7項目）：4.15、質問14の点（学修成果）：3.51であった。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・「実用薬学英語」		2015年1月30日	11章のReading及びComprehension Questionsを執筆した。（東京化学同人）
・講義資料の作成		2018年10月～ 2018年11月	（株）コーチ・エイの著作物利用許諾に基づきA4版1枚を作成し、授業資料として配布した。
		2019年10月～ 2019年11月	（株）コーチ・エイの許可を得て、DCD マニュアル「コーチング・カンパセーション」から「コーチングフロー」をもとにA4版1枚を作成し、授業資料として配布した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・福山大学研究成果発表会発表		2019年6月26日	「一般用医薬品添付文書の理解度改善を目指し開発したピクトグラムの効果」ポスター発表した。
・福山市保健所健康推進課ふくやま健康フクイク21喫煙・飲酒等防止教育講師		2019年7月3日 2018年6月20日 2017年6月21日	喫煙・飲酒等防止に関する講演を3回行った。（於 福山市立東朋中学校）
・KMSメディカル・アーク2019 with MTO		2019年2月7日	研究成果をポスター発表した。（於 川崎医科大学附属病院）
・福山市薬剤師会シリーズ研修会		2018年8月7日、 8月21日、9月25日	「生活習慣改善への支援に役立つコミュニケーション」について3回講演した。（於 福山大学宮地茂記念館）
・第9回川崎医科大学学術集会		2018年8月4日	研究成果をポスター発表した。（於 川崎医科大学）
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・2018年度 FD研修会演者		2018年10月11日～ 2019年2月26日	「学生との双方向のコミュニケーションと自主的な研究活動を促す教育指導について」について演習を実施した。
・第4回のFD・SD研修会演者		2017年10月30日	「実務実習に活用できる薬学基礎教育について」について講演した。
・一般財団法人生涯学習開発財団認定コーチ資格		2016年6月21日	コーチングの指導に必要なコーチ資格を取得した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Effects of Pictograms on Patients' Information Acquisition and Preferences in Package Inserts of Over-the-counter Drugs	共著	2019年2月	日本感性工学会論文誌（第18巻第1号）

(論文) OTC医薬品添付文書におけるピクトグラム表示の試み	共著	2018年5月	医薬品情報学 (第20巻第1号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学习の取り組み (6) —交流学习を終えた—学生の学びと自己成長— (S-012)		2019年・8月	第4回日本薬学教育学会大会 (大阪)
(演題名) コーチング技法を使用して学生同士の生活習慣改善を試みた講義・演習の実施と評価およびその改善に向けた調査 (その1) (P-042)		2019年・8月	第4回日本薬学教育学会大会 (大阪)
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2010年6月～現在	日本公衆衛生学会会員		
2013年6月～現在	日本医薬品情報学会会員		
2015年2月～現在	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 福山大学	講座名 薬理学	職名 准教授	氏名 渡邊 正知
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・PBL教育の導入		2015年度～現在	学習者の能動的な学習（アクティブラーニング）を促すために、PBL形式での授業（生体機能の調節I、臨床推論）を実施した。
・ICT教育の導入		2015年度～現在	授業（人体の成り立ちと機能II、生体機能の調節II、生殖器内分泌系疾患の薬・病態・治療、中枢神経系疾患の薬・病態・治療I、中枢神経系疾患の薬・病態・治療II）では電子黒板形式を用い、学生の深い理解を促した。講義書き込みスライドは授業後に振り返られるようにCerezoにて公開した。
・能動的学習の促進		2015年度～現在	1-2年次の科目では、授業ポイントがつかめるように、授業後の復習問題をCerezoより提供した。
・授業評価		2015年度～現在	3-4年次の科目では、学生による試験問題作成を利用した学習方法を実践し、学習者の学習意欲増進、学習効果の向上を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・授業プリント		2015年度～現在	授業（人体の成り立ちと機能II、生体機能の調節II、生殖器内分泌系疾患の薬・病態・治療、中枢神経系疾患の薬・病態・治療I、中枢神経系疾患の薬・病態・治療II）のプリントを作成した。
・復習問題		2015年度～現在	授業（人体の成り立ちと機能II、生体機能の調節II）の授業復習問題を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会参加		～現在	年に5回以上、FDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）低体温誘導脳保護効果におけるSUMO化修飾を介した血液脳関門の機能維持		2020年3月	日本薬学会第140年会
（演題名）虚血再灌流誘発神経細胞死に対するタンパク質SUMO化修飾の役割 —血液脳関門の機能維持の観点から—		2019年11月	第58回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会
（演題名）シリアンハムスターの脳内で産生される硫化水素の体温に及ぼす影響		2019年8月	温熱生理研究会2019
（演題名）福山大学薬学部におけるコミュニケーション交流学習の取り組み（6）—交流学習を終えた—学生の学びと自己成長—		2019年8月	第4回日本薬学教育学会大会
（演題名）シリアンハムスターの体温制御における脳内産生硫化水素の役割		2019年7月	第2回冬眠研究会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	薬学実務実習指導薬剤師のためのアドバンスワークショップ、タスクフォースとして3回参加		
～現在	薬学教育者ワークショップ、タスクフォースとして8回参加		
2016年～現在	日本薬理学会学術評議委員		

- [注] 1 対象期限：2019年12月末まで（直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は左記期限後の発表予定を含む。）  
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

# 基礎資料10



(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率 (%)
1年	119	111	93.28
2年	127	123	96.85
3年	135	132	97.78
4年	140	139	99.29
5年	144	73	50.69
6年	154	145	94.16

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった学生数 ※1	抗体価が不十分なためワクチン接種をした学生数 <sup>1)</sup>
風疹	117	1
麻疹	101	2
水痘	124	3
ムンプス	85	7
B型肝炎 ※2	0	0

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。

※1 「医療関係者のためのワクチンガイドライン（日本環境感染学会）」の「基準を満たす抗体価陽性」の学生数

※2 B型肝炎は実習施設からの指示により実施



# 基礎資料11-1



## (基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設	座席数	室数	収容人員合計	備考	
講義室・演習室（これらすべてが講義時間外は学生の自習に利用できる）	講義室A (1021、1022、1023)	182	3	546	固定席、無線LAN接続可
	講義室B (31101、31201、31301)	144	3	432	3室は共に前列60席は可変席、無線LAN接続可
	講義室C (34201、34202)	176	2	352	固定席、無線LAN接続可
	研修室1・2 (34215、34217)	48	2	96	可変席、無線LAN接続可
	学習支援室 (34316、34317)	36	2	72	可変席、無線LAN接続可
	大学院講義室 (1214)	30	1	30	可変席
	プレナリーセッション室 (SGD演習室含む)	48 (8)	2 (12)	96 (96)	可変席、無線LAN接続可
	マルチメディア室1・2 (34302、34305) *	85	2	170	机固定、椅子は移動可、PC170台、無線LAN接続可、教員用コントロールルーム附設、CBTにも使用
	総合演習室 (34416)	80	1	80	可変席、無線LAN接続可
	医療薬学演習室 (34515、34516)	80	2	160	可変席、無線LAN接続可
	医薬品情報室 (34415)	38	1	38	机固定、椅子は移動可、無線LAN接続可
	TDM演習室 (34509)	36	1	36	机固定、椅子は移動可、無線LAN接続可
	OSCE演習室 (34517～34522)	12	6	72	可変席、無線LAN接続可
	模擬病室 (34417～34522)	12	6	72	可変席、無線LAN接続可
課題研究演習室 (34301)	30	1	30	可変席、無線LAN接続可	
実習室	学生実習室 (31102、31103、31202、31204、31302、31304)	80	6	480	化学系、分析系、物理系、生物系実習で使用、無線LAN接続可
	調剤実習室 (34404、34405)	30	2	60	事前学習で使用
	製剤実習室 (34411)	30	1	30	事前学習で使用
	クリーンルーム (34504、34505)	25	2	50	事前学習で使用
自習室等	自己学習室 (31105)	60	1	60	机固定、椅子は移動可、無線LAN接続可
	国家試験対策演習室 (3106)	48	1	48	机固定、椅子は移動可、無線LAN接続可
	ホール (31号館2階開放スペース)	32	1	32	可変席、無線LAN接続可
	自己学習室 (34312～34315)	36	4	144	机固定、椅子は移動可、無線LAN接続可
	ロビーラウンジ (34101)	20	1	20	机固定、椅子は移動可、無線LAN接続可
福山大学薬学部附属薬用植物園	1) 設置場所 (薬学部キャンパス内か別キャンパスか) 薬学部キャンパス内 2) 施設の構成と規模 3,300m <sup>2</sup> 、ビニールハウス (1棟) 3) 栽培している植物種の数 78科 172種 4) その他の特記事項				

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に備考欄に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください (教卓にあるものを除く)。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。



# 基礎資料11-2



(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 研究室の施設

施設名 <sup>1)</sup>	面積 <sup>2)</sup>	収容人員 <sup>3)</sup>	室数 <sup>4)</sup>	備考
研究実験室(大)	84 m <sup>2</sup>	18人	19	19の研究室
研究実験室(中)	70 m <sup>2</sup>	12人	1	1つの研究室
研究実験室(小)	22 m <sup>2</sup>	6人	27	20の研究室で利用
教員室	22 m <sup>2</sup>	1.16人	32	講師以上に割り当ててある。講師の場合は、2人で一部屋を使用(2室)

1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。

2) 複数の講座・研究室が(隣接する2~3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。

実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。

3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。

4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。

5) 葉学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1)</sup>	室数	施設の内容
大型測定器室	4	26号館1階 500MHz NMR構造解析室、11号館1階 300MHz NMR室、質量分析室(MS、X線測定装置)、元素分析室(元素分析装置、赤外吸収スペクトル測定装置)
共同実験室	3	11号館3階 共同研究実験室、11号館6階 クリーベンチ、超低温冷凍庫、12号館1階 画像解析装置、フレンチプレスなど
細胞培養室	1	10号館1階 クリーベンチ、炭酸ガス培養器、超低温冷凍庫
実験動物施設	11	13号館 一般飼育室(9室)、特殊動物(遺伝子組換え)飼育室(1室)、培養室(1室)
グリーンサイエンス 研究センター	5	33号館 GC-MS、LC-MS、次世代シーケンサーなど
共同利用センター	1	7号館1階 シークエンサー、GCなど

1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)

2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。



# 基礎資料12



(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備考 <sup>3)</sup>
附属図書館本館	266	4,379	6.07	グループ学習室(ラニーニ グモモンズ,EUI,貴重図書 室,特別閲覧室,研究個 室,AV室,3階セミナールーム)	241	22	学部生 : 4264 院 生 : 115
附属図書館分館	164	4,379	3.75	グループ学習室1,2,3	12	20	同上
計	430	4,379	9.82		253	42	

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

その他の自習室(内訳)		合計		備考
名称	座席数			
ラニーニグモモンズ	33			※3階セミナールームの5部屋 (1531,1532,1533,1534,1535)につ いては、各部屋使用者毎に座席の入 替を行っていますので、定数が無い ようです。 合計数の56席でお願いします。
EUI	6			
貴重図書室	8			
特別閲覧室	33	241		
研究個室	5			
AV室	100			
3階セミナールーム	56			
グループ学習室1	4			
グループ学習室2	4			
グループ学習室3	4			
合計			253	
本館				
分館			12	
合計				

その他の自習室の整備状況(内訳)			合計	備考
据置き	貸出			
	ノートパソコン	iPad		
本館	13	6	22	図書館利用者用端末台数
分館	17	1	20	※ゼルコバ専用含めず
合計	30	7	42	



# 基礎資料13



(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルの種類 <sup>3)</sup> (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	内国書	外国書			平成31-令 和1年度	平成30年度	平成29年度	
附属図書館本館	309,358	87,978	2,127	1,640	3,287	4,995	1,021	1,998	2,392	電子書籍(1310)除く
附属図書館分館	42,850	42,648	361	363	383	2,960	207	214	352	電子ジャーナルの種類： ScienceDirect以外は本 館に計上
計	352,208	130,626	2,488	2,003	3,670	7,955	1,228	2,212	2,744	

12月4日

現在

[注] 雑誌等ですでに製本済みものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフロッピー、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。

